

第19回 全国バズ学習研究集会

授業研究資料

各校のとりくみと学習指導案

期日 1984年10月26日(金) 27日(土)

場所 広島県豊田郡豊町, 豊浜町  
(幼. 小. 中. 高会場)

(幼稚園保育指導案は 資料Ⅰ. 第2分科会に収録)

目 次

豊浜町立大浜小学校	.....	I
〃    斎    小学校	.....	
〃    豊島小学校	.....	II
豊町立沖友小学校	.....	III
〃    久比小学校	.....	IV
〃    豊    小学校	.....	V
豊浜町立豊浜中学校	.....	VI
豊町立豊    中学校	.....	VII
広島県立豊高等学校	.....	VIII

豊浜町立大浜小学校  
豊浜町立齋小学校

研究授業 (齋小学校と大浜小学校は集合教育を行います)

1. 時間配分

10:00	10:30	11:15	11:25	12:10	13:00	14:00
受付	1校時授業	休憩	2校時授業	昼食休憩	研究協議	移動

2. 授業内容

学 年	授 業 者	教 科	単 元
1年 } 2年 } 複式	広近先子	算数	1年 たしざん 2年 かけざん
3 年	竹内ナオミ	算数	三 角 形
4 年	寺一史子	算数	面 積
5年 } 6年 } 複式	小林英臣	算数	5年 対称図形 6年 対称図形
幼稚園	国広澄枝		おはなしづくり

## 齋小学校のとりくみについて

### 1 本校の実態

広島県の南端に位置し、町役場のある豊島まで海上約7.5km、唯一の交通機関である定期船の第五同栄丸(全長11.8m 18.59t)で30分かかる齋島の集落の東端に所在する学校である。

児童数は4名(6年女子1名、3年女子1名、2年男女各1名)職員数5名(校長1名、教諭2名、養護教諭1名、用務員1名)へき地3級の極小規模校であり、校長・教諭の3名は昨年度着任、養護教諭は本年度着任である。児童のうち男子を除く女子3名は姉妹であり6年生の児童が2年生の時豊島から父親の勤務の都合で本校に転学してきた。

全児童とも通学距離は短く、500m以内であり短時間で通学できる。

女子の児童は豊島の学寮等に入って幼稚園の経験を持つが、男子の児童は幼児期を両親と共に出漁生活をしてきたため、就学前教育の経験がない。それらを含めて全児童とも生活経験の場が極めて狭い。

### 2 研究教科について

昨年度本校に校長教諭の3名が着任し、児童を見つめていくなかでいくつかの課題を発見することができた。

それらの中で言語活動の阻害要因として次のようなものがあげられる。

○生活の中での言葉数が少ない。(くわしく言わなくてもお互いにわかる。)

○正確な言語にふれる機会が少ない。

○話す機会が少ない。

○学校の図書室に低学年向きの本があまりない。等である。

これらの課題を解決させる営みとして昨年度より「豊かな言語表現能力を育てる指導のあり方」を研究主題として国語科を中心に研究・実践をすすめてきた。

その内容としては以下の5つが大きな目標である。

(1) 伝えたい内容を相手に理解してもらえるように筋道をたてて、正しく言える。

(2) 学習したことが文章表現に生かして使えるようになる。

(3) 読書活動をすすめる。

(4) 言語環境を整える。

(5) 教育機器の効果的利用をすすめる。

また実践の方法の1つとして、本校では朝会を次のように計画している。

(月曜日)発表朝会(火曜日)ドリル(水曜日)朗読朝会(金曜日)音楽朝会(土曜日)保健指導・学級指導と計画している。この中で月曜日の発表朝会では児童一人一人が日曜日にあった出来事をみんなの前に立って話し、質問も受ける。また自分の話した内容を作文として後で書きとめていった。本年度は更に他の人の話をしっかり聞くという態度を育てるために他の人の話した内容をそれぞれの児童がメモとして残すこともおこなってきた。

週番の教諭も季節の事や行事・ニュース等を話したり児童の話す内容や話し方の感想をのべる

ことによって児童の話す内容や言いまわしも徐々にではあるが変化してきた。特に高学年の児童の向上が著しく、発表内容に経験した事柄や感想を盛り込みながら低学年児童の理解力を考慮し興味深い発表ができるようになった。

水曜日の発表朝会では主として現在国語で学習している単元の朗読をおこなっているが、読む姿勢、声の大きさ、アクセントを中心に指導してきた。高学年の児童は教室内では他の児童がいないためこの朝会が低学年ではあるが児童の朗読を校内で聞く唯一の機会である。低学年の児童もより多くの朗読の機会を利用することにより、自然に大きな声やよい姿勢の朗読ができるようになってきた。

木曜日の読書朝会であるが昨年2学期にミツノ財団より多数の図書の寄贈を受けた。これまでも蔵書数はかなりあったが高学年向きのもや古い書籍が多かったため、特に低学年は読書に対する興味を持ちにくかった。そのため、この寄贈では低学年向きの図書を多く希望したことにより、読書に対する興味が高まり、読書量が飛躍的に増加した。図書を低学年と高学年に分けて学級図書として各教室に配架したことが読書を身近なものにした一因と考えられる。

このほか、短作文の指導に重点をおいているが、低学年では毎日の日記の他に心に残ったことを書きとめる活動を実施し、それを作文指導に活用してきた。現在児童達は、自分や家族以外のもの(まわりの生き物など)に目を向けるようになってきたが、表現的には「おもしろかった」とか「たのしかったです」など一般的な表現に留まっている。

高学年では作文メモを利用して心情を表現させることを重点に指導してきた。メモを書くことによって、これまで児童が見過ごしてきた部分が徐々にではあるが書き表せるようになってきた。

しかしそれらの段階をふまないで書くと内容の深まりとしては、また十分とはいえない作文になりがちである。

### 3 集合指導について

集合指導は、今から3年前の1981年度に当時の本校校長と大浜小校長が、全国へき地教育研究大会の発表内容(小規模校がいくつか集まって教育活動をおこなうとそれぞれの学校に効果があったというもの)にヒントをえて集合指導を両校間で取り入れてはどうかということを話し合った。

具体化にあたっては、両校の校長、教頭で相談し校内で更に検討して開始にふみきった。

齋小学校の職員が児童を引率して大浜小におもむいての集合指導を開始し、当初は毎週火曜日を集合指導の日として学習に参加していたが、1982年度から1学期に7日間、2学期運動会の前に10日間、3学期は学習発表会の見学、というように変わってきた。

昨年は本校の児童数が2名から4名に増えたことから、学習発表会に齋島の民話をもとにした影絵劇を発表し、児童も見る発表会から参加する発表会に変わることができたのを、大きな喜びとして感じている。

本校が集合指導の必要性を感じる主な要因として次のようなことがあげられる。

- 学級の少人数化から集団で考える場が望めない。
- 仲間づくりをめざす活動が難しい。

- 集団行動の訓練が経験できない。
- 社会経験の機会が少ない。
- 平素の生活が単調である。

等である。これらのことを克服し、より望ましい学校生活を体験させながら学力の向上をめざし学習意欲と実践力を培うため次のような目標をあげている。

- (1) より大きな集団内での生活により、集団思考や集団行動のしかたを身につけさせ調和のとれた人間形成をめざす。
  - (2) 広い友人関係をつくり、将来への期待感を持たせると共に幅のある人間観を育てる。
  - (3) 集団によって高まりを期待し得る学習の経験をさせる。
  - (4) 平素単調になりがちな生活に節をつくり、活力ある学校生活をおくらせる。
- の4つである。

現在集合指導を実施して4年を経過しているが、本校の児童にとって大浜小に学習に行くことは、大きな喜びであると共に個々の成長にとってかけがえのないものとなっている。

#### 4 体力づくりについて

児童の健康を増進させることの一つとして、月曜日から金曜日までの週5日間、清掃終了後の13:30-13:50の20分間を「体力づくりの時間」として活動している。

地域の状況から、児童が長い距離を走ったり歩いたりする機会が少ないと思われ、持久力を高めるトレーニングとして島内の地形を利用した砂浜や山越えのランニング、筋力、調整力のトレーニングとして岩場わたり、崖のぼり等を実施してきた。また冬季には古くから子どもに親しまれてきた屋外の遊び(「ろくむし」「石けり」「うずまきおに」「かくれんぼ」「じゅうじか」「ねこどん」など)もとり入れた。これらの遊びにも児童達は興味を示し「体力づくりの時間」が待ち遠しいほど楽しみにして意欲的にこなってきた。

その他には少人数、学年による能力差をあまり感じさせない運動として、フリスビーを利用したフリスビー野球、老人集会所においてあるゲートボール・ビーチボールを利用したビーチボール等も1ヶ月単位程度のサイクルで実施してきた。いずれの種目も本校の児童の実態にあわせて工夫したものであり正規のルールとは少々異なっているが楽しく実施することができた。

海に囲まれた島に生活する児童にとって水泳ができるということは、生命にかかわる重要な問題であるが、本校の児童も皆泳をめざし、毎年海水温が20℃に上昇したら、水泳訓練を実施してきた。

昨年度当初高学年の児童はなんとか泳げたが(50m程度)低学年の児童は水を恐れ、まったく泳げない状態であった。しかし水に慣れることから始め、浮くこと、呼吸の方法と指導を続けていくなかで現在(1984年度夏)は、低学年の児童も含めてすべて長い距離(600m以上)を泳ぐことができるようになり、目標である皆泳に到達することができた。

#### 5 飼育・栽培活動について

本校の学校園は大変美しく、いつも四季折々の花が絶えることなく咲いている。しかしこの花の栽培は用務員さんが中心で、他の職員がたまに手伝ったり水やりをする程度で児童はまったく

参加していなかった。

そういう中で児童について次のようなことに気がついた。

- 花や木の名前をあまり知らない。
- 花や木の芽生えから成長に至る生育のしくみをあまり知らない。
- 花や木の葉、枝などを無雑作につみとったり折って捨てたりして平気である。

花の美しさ感動する声はあまり聞かれず、樹木の紅葉にも関心を示さない。生けてある花が枯れても平気であるなど、食用にするもの以外に植物の存在を感じていないようなありさまだった。

このようなことは植物にとどまらず、動物についても似かよっており魚や貝や海そうは、齋島に生活するものにとって非常に大切な資源であり、日常生活に切り離せない存在である。ところが、これらを探って食用にすることについての意識はあっても、名前や生態等の知識は乏しく関心もうすかった。

人間は、他の生物と共に生き、他の生物の恩恵を受けて生きているわけであるから、生物を知る、愛する、ということが大切であると考え次のような案を立てた。

- 用務員さん中心の栽培活動から児童の参加する栽培活動へ
- 海の魚を飼ってみよう。
- 齋島の海岸にある貝がらを集めよう。

以上のことがらを中心に取り組みをおこなった。

#### 飼育活動

##### ○小鳥

昨年末つがいのインコのうち1羽が死んだが、今年の春、新たに4羽の寄贈を受けた。飼育は当番で活動しているが、当番以外の児童も、えさや水、小鳥の様子に気をつけている。

##### ○魚

昨年夏も飼育をおこなったが、設備が悪く全部死んでしまい、今年こそはと思えばエアポンプ、循環装置を取り付けて6月から飼いはじめた。その結果今年度は現在も生き続けている。この飼育から魚はどのようなものを食べているか、どんなにして泳いでいるかを知ることができた。

##### ○貝がら集め

ただ集めるだけでなく整理してみるということから保護者と協力して標本箱を作成し、名前を調べ展示した。児童は貝がらを拾ってきては、「この貝と同じかな。いやちょっとちがう。」と話し合い、同種・異種・形態のちがいに興味を持つようになった。

##### ○栽培活動

昨年度に採取したサルビアとマリーゴールドの種子を五月にまいた。児童にとって初めてのことであった。畑を耕し、山から取ってきた腐葉土をまぜ種子をまき水をやり続けた。その後移植の時期をむかえ、自分達の畑に植えかえた。余った苗は島内で希望される方に差し上げたり、また近隣の学校にも栽培していただくことができ、自分達の育てた苗がいろいろなところで元気に成長していることが児童にとって大きな喜びであった。

1. 複式学級とバズ学習

認知目標と態度目標の同時達成を目的とするバズ学習が複式学級そのものでなければならないと考える。このことは、つまり複式学級の基本的なあり方として私達が許容している範囲である。同時に私達は地域の課題に対応する教育の営みを指向しなければならないと考えている。

今日、工業最優先の行政的姿勢はまっしぐらに農村を貧困に追いやり、農村の労働力を吸収するその代償としての働き手に代わる機械の導入は、従来の手足を動かすことを忘れさせ、テレビの普及は子供をしてテレビの前に釘づけにしている。その結果、農村に生まれながら子供達は農村の実態を知らないという状態である。「顧ることのない農村」が現代化という名称の下で形づくられている。自分ではどうすることも出来ない力が自分達を動かしているんだという考えは今も昔も変わらない考え方も知れないが、農村での閉鎖性は今日も根強く生き続けている。

このような状況の中で教育の果たす役割は何かを考える時に、学習は教わるものということから学ぶものへという発想の転換が地域に活力を与えるものではないだろうか、長い者にはまかれるという考えから自分の力を信じ、自分の町は自分で考え行動し、顧ることのない農村は変革していく教育内容を樹立しなければならない。このような意味から学習は学ぶものという教育課題を設定した。

2. バズ学習は複式学級の原点といえるか。

農村の過疎化現象は教育の仕組を複式学級に編成させる。複式学級では自主学習が身につけていなければ学習が成立しない。従って児童の学習権を完全に児童が履行し得るには、児童自身が単元を見通した学習が展開されなければならない。(バズ学習と単元見通し学習とは別のものでもあるかも知れないが、この限りに於いては同一視して考えている)

そこで私達は単元見通しを児童にどう考えさせるか、単元を見通す能力をどう育てるかの一つのパターンを試みてみた。単元の見通しには、ロングな見通しというか10時間扱いの単元をどう考えさせるかという問題と、小単元に区切って学習方法を考えるというショートな見通しの二つの方法が考えられるが、たまたま4学年の校内研で単元名は小数・12時間扱いの見通し学習法を試みてみた。先づブリテストを実施する。

算数テスト (7小数 p52~p63)

1. ( )の単位で表しましょう。

◎小数の表し方

- ①5.9cm(m)      ②180cm(m)      ③205cm(m)  
 ④0.07m(cm)      ⑤1.48m(cm)      ⑥1.9m(cm)

2. どちらが長いでしょう。長い方に○をつけましょう。

- ①(3.95m    4.2m)      ②(5.5m    5.05m)

3. ( )の単位で表しましょう。

- ①350m(Km)    ②6060m(Km)    ③3.45Km(m)

4. □にあたる数を書きなさい。

◎小数のしくみ

- ①0.76は 0.01を□とあわせた数です。



○学習計画

次	学 習 活 動	学 習 課 題 ( 予 想 課 題 )	実 践 活 動	時 間
1		○力をためしてみよう。 ○学習の計画を立てよう。	○ブリテ スト	2
2	○ $\frac{1}{100}$ の位の小数の 概念と大小比較 ○ $\frac{1}{1000}$ の位の小数 の概念 ○ 小数の構成としく み	○ 幅とびの記録を $m$ で表わそう。( $cm \leftrightarrow m$ ) ○ マラソンの道のりを $km$ で表わそう。 ( $m \leftrightarrow km$ ) ○ 小数のしくみはどうなっているだろう。  ○ れんしゅうをしよう。		4
3	○ 小数の加算の暗算 ○ 小数のたし算の筆 算のしかたを考えよ う。	○ 小数のたし算を暗算でしてみよう。 ○ 小数のたし算の筆算のしかたを考えよう。		2
4	○ 小数の減法の暗算 ○ 小数の減法の筆算	○ 小数のひき算を暗算でしてみよう。 ○ 小数のひき算の筆算のしかたを考えよう。		2
5		○ ふくしゅうをしよう。 ○ 学習したことをたしかめてみよう。	○ ポスト テスト	2

このようにして以上の学習計画が作成されたわけであるが、なにせ学習計画を児童で考えると  
いうことは初めてであるので、児童もかなり混乱しているよりであった。

私達は、本校の児童が本当に単元を見通す能力と態度が身についた時、初めてバズ学習は複式  
学級の原点であると考えている。少なくとも、そういった願いの中から生まれた課題である。

3. 集合指導の試みとそのあり方はどうか。

集合指導は、なにかも条件を整えてから取りかかるものと考えてはいない。何かを得るため  
に何かを犠牲にするという考えの中で初めて実施できる。本校と斎小を結ぶ高速艇は時間的にみ  
て20分・1日に2回往復する連絡船である。

島と島という悪条件を 服するエネルギーは何かを得るために何かを犠牲にするという思い切  
った判断力と行動力であるとする。

蕭小は全校生徒4名である。2年生が2名、3年生が1名、6年生1名という実態の中では集団思考の経験は持てない。子供達は朝5時に起きて6時の高速艇に乗船する。大浜小に到着するのが6時20分である。大浜小の始業時間が8時10分、その間の空白をロス時間と考えるかどうかは今後の課題となるが、ともかく蕭小にとっては「集団思考」を得るために多くのものを犠牲にしていることは事実である。

# 算数科学習指導案

指導者 広近 先子

1. 日時 1984年 10月26日(金) 第1校時
2. 学年 第1.2学年 1年男1名女3名, 2年男6名女1名, 齋小2年男1名女1名, 計12名
3. 単元 1年「たしさん」 2年「かけさん」

4. 目標  
(ア) 認知的

1 年	2 年
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ (1位数)+(1位数)で繰り上がりのある場合、(和が十何)の計算ができるようにし、その計算の習熟をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的なことがらに即して、かけ算が用いられる場を知らせ、(5, 2, 3, 4)のかけ算ができるようにする。</li> </ul>

- (イ) 態度的

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ たし算の練習が進んでできる。</li> <li>○ 人の話をよく聞き、わからないことがたずねられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ かけ算の九九を覚えそれが用いられるようになる。</li> <li>○ 人の話をよく聞きつないで話すことができるようになる。</li> </ul>
--	---

5. 単元の取り扱い

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子供達は、今までに20までの範囲のたし算(繰り上がりのない場合)や、3口のたし算、等を学習している。したがってここでは、これまでの既習経験をもとにしながら繰り上がりのある場合の一位数どうしのたし算の計算の方法を理解させ、計算の習熟を図ることがおもなねらいである。</li> <li>○ 本学級の児童はこれまで学習してきた計算は指や具体物にたよらないでもできるようになっている。しかし本単元の繰り上がりのあるたし算は、かなり抵抗があり、その計算方法としては数えたしをつかっている。2つの数の和を「10とあといくつ」というように分析的にとらえて計算するこ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前学年で2とびや5とびの数え方や5個ずつ10個ずつまとめて数えるという乗法の素地となる経験を積んできている。ここでは、それをふまえて同じ大きさの集まりに着目して、まとめて数える工夫から倍の意味を理解させ(5, 2, 3, 4)の段の九九を構成しその適用を図ることをねらいとしている。</li> <li>○ 本学級の児童は前学年も複式学級を経験しているので九九を唱えることを聞き覚え割合に興味をもっている。しかし、その意味については殆んど理解していない。したがって、九九が唱えられるから構成上の意味も理解されているという捉え方に落ち入らないようにしたい。</li> </ul> |
|---|--|

とはできていない。

また、学び合いペア学習も自分のことでせいっぱいで、友達のよい点に気づいたり、間違いを正し合ったりするまでにはいたっていない。その上 何事にもひかえめで発表する声も小さく十分力を出しきっていない。

- そこで指導にあたっては、具体的な操作活動を通して10の補数を見つけることの意味やその方法を理解させ、10をまとまりとしたとらえ方で計算ができるようにしていきたい。

こうした学習の中で友達の話をよく聞き自分の考えを出し合いお互いに認め合いながら学習することの楽しさを味わってきたい。

また、本学級の児童は能力差が大きく、学習におくれがちな児童が多い。こうした児童を中心にして、2人組の集団を作り、教え合いはげまし合いながら学習を進めてきたが、とにかく、教える者と教えられる者といった立場になってお互いに学び合い過程がだいじにされていない。

- そこで指導にあたっては、相手の話をよく聞き自分の考えを出し合い途中で相手のよい点がわかり学習過程の中で認め合うことができるようにしたい。

また、九九の理解にあたっては、具体物の操作、作図や作問等によって乗法の意味を式と結んでおさえることを重視しながら九九の定着をはかっていきたい。

6. 学習計画 1年たし算(10時間)

2年かけ算(14時間)

時間	学習内容	学習課題	実践	時間	学習内容	学習課題	実践
前単元(3つのかず)6	○ポストテスト	○3つの計算テスト	○個人 ○グループで確かめる。	1	○ブリテスト ○学習計画をたてる。	○力をためす。 ○教科書。P. 22～35までの学習を見通し計画をたて計画表に書く。	○個人 ○全体 ○計画表に記入
1	○ブリテスト ○学習のめあてがわかり、意欲づけをする。	○力をためす。 ○P60～65のたし算の学習をすることがわかる。	○個人 ○全体 ○絵・教具を見る。 ○計画カードならべ。	2	○かけ算の意味、かけ算の式について理解する。 ○何倍と累加と式を結んで考える。	○かけ算はどんなとき、つかうのかがわかる。 P. 22～23 5×3 2×6	○絵 ○おはじき ○全体思考 ○個人 ○グループ

2	○繰り上がりのある計算の仕方を考える。	○8+3のたし算のやりかたがわかる。 P60~①②	○10枠カード おはじきで全体~個人思考	3	○連続量について、かけ算の意味、かけ算の式を理解する。	○かさや長さのかけ算がわかる。 P24~③④⑤	○図を見て個人~グループ~全体思考。
3	○10の補数を利用した計算方法になれる。	○7+5の計算の順序がわかる。 P61~③P62~④	○10枠おはじき操作 ○計算の方法を書く	4	○5の段の九九の構成を考える。 ○1倍の理解	○おはじきをつかって5のかけ算をつくる。 5×4 5×1 ○5の段の九九がわかる。	○式と具体物を結んで全体~個人~グループ
4	○被加数≤5の場合の計算方法を考える	○5+7の計算のしかたがわかる。	○おはじき操作。	5	○5の段の九九を練習し適用問題がわかる	○九九を覚え5の段の問題をつくる。	○個人 ○グループ
5	○抽象数の総合的な練習をする	○P62~⑦ プリントの問題ができる。	○個人 ○全体で確かめる。	6	○2の段の九九を構成し覚える。	○2の段の九九をつくる。 ○正しく唱える。 P28~29	○個人 全体~2人で練習
本時 6	○適用問題ができ計算の練習をする。	P63~⑧⑨ ⑩の問題ができる。 ○問題づくりをする。	○全体思考 ○作問。具体物の操作	本時 7	○2の段の九九を覚え適用できるようにする。	○2の段をつかった問題をつくる。 P28~29の②③	○九九カード練習。 個人~グループ ○作問
7	○たし算カードで計算の練習をする。	○たし算カードで練習をする。 ○答の同じカ	○個人 ○グループ ○全体	8	○3の段の九九を構成し覚える。	○3の段の九九をつくる。 ○正しく唱える。 P30~31	○おはじきで個人~全体思

		ードを集める。 P 64				①	考 ○グル ープ
8	○カードをつ かったゲーム 遊びによりた し算の習熟を はかる。	○カードでゲ ームをする。 (答あて) (カードとり) P65	○2人 組。 ○全体 ○個人	9	○3の段の九 九を覚え、そ の適用ができ る。	○3の段の九 九を覚え、そ れをつかった 問題をつくる。 P30～31 ② ③	○カー ド。 ○具体 物の操 作。
9	○カードをつ かって、たし 算の習熟をは かる。	○カードでゲ ームをする。 (おおきさく らべ)	○2人 組 ○全体 ○個人	10	○4の段の九 九を構成し覚 える。	○4の段の九 九をつくる。 ○正しく唱え る。P 32～31	○具体 物の操 作。 ○作図
10	○ポストテス トをする。	○テストをや ってみる。 ○できない問 題がわかる。	○プリ ント  ○個人 思考～ 全体	11	○4の段の九 九を覚え、そ の適用ができ る。	○4の段の九 九を覚え、そ れをつかった 問題をつくる。 P 32～33の ②③	○カー ド ○作図 ○作問 ○操作
次の 単元 (ひき ざん) 1	○おさらいで 繰り下がり ひき算のもと になる問題の 練習をする。	P69のおさら いをする。	○プリ ント ○教科 書の問題	12	○九九の練習 をする。	○おけいこを して自分のむ ずかしい問題 を見つける。 P 34～35	○個人 ○グル ープ ○全体 思考
2	○プリテスト ○学習のめあ てがわかる。	○力をためす。 ○P70～75 の学習がわか る。	○個人 ○全体	13	○問題づくり をする。	○2, 3, 4 5, の段の問 題をつくる。	○絵. 作問. 操作.
3	○ひき算の計 算方法を理解 する。	○ひき算のし かたを考える。 13-9	○絵 ○具体 物操作	14	○ポストテス トをする。	○テストで力 をためす。	○個人 ○全体 思考。

# 算数科学習指導案

指導者 竹内 ナオミ

1. 日時 1984年10月26日(金) 第1校時
2. 学年 第3学年 男子3名 女子3名 齋小学校女子1名 計7名
3. 単元 三角形
4. 目標

(ア) 認知的目標

- (1) 正三角形・二等辺三角形の概念を理解し、その作図ができるようになる。
- (2) 角について知り、大小判断ができるようになる。

(イ) 態度的目標

- (1) 進んでひとり学習ができる。
- (2) 自分で考え、友だちの意見もよく聞いて、考えを組み立てることができる。

5. 単元の取り扱い

- 本単元は、三角形の中でも基本的な正三角形と二等辺三角形について類似点・相違点を考察し、それと関連づけて作図ができるようにしようとするものである。さらに図形としての角を知らせ、切り紙や折り紙を通して、正三角形や二等辺三角形の角の性質にも着目させることをねらいとしている。
- 児童はこれまでに、三角形・四角形および正方形・長方形などの基本的な図形を学習する中で、直角三角形についても学習してきている。図形の学習は全員興味深く取り組み、作業も進んでやろうとするが、定規・コンパスなどの扱いは正確さに欠けている。また少人数のためか、自分の考えを納得してもらいまで説明しようとする意欲に欠け、グループ内の誰かの意見に同調してしまうことが多い。
- 指導にあたっては
  - ・ 三角形・角の概念については、幾つかの図形の中から正しいものを選び出したり、グループ分けをしたりすることにより、理解を深めさせたい。
  - ・ 角の大小比較や正三角形・二等辺三角形における角の性質については、三角定規を用いて直接比較したり、用紙を切る・折るなどの作業を通して理解させたい。
  - ・ 作図においては、定規やコンパスを正しく使う基本的な技能や、ていねいに作図しようとする態度を身につけさせたい。
  - ・ さらに、各自の考えをノートに書かせ、それをもとに話し合いをすることによって、1人ひとりの意見を大事にしながらグループ内あるいは全体での意見を深めていけるようにしたい。

6. 学習計画(10時間)

時間	学習内容	学習課題	実践活動

1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プリテストをする。</li> <li>○ 学習の課題を知らせ、内容をつかませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 力だめしのテストをする。</li> <li>○ 学習課題と授業の流れを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プリテストに取り組む。 (三角形の概念、正三角形・二等辺三角形の概念、作図、角の大小、二等辺三角形・正三角形の角の性質)</li> <li>○ 学習計画表に記入する。(教師の説明)</li> <li>○ 態度的目標を決める。(集団・全体思考)</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三角形の概念を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な図形の中から三角形を選び出す。</li> <li>○ ひごを用いて三角形を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題を確認する。</li> <li>○ 幾つかの図形の中から三角形を選ぶ。(個人思考)</li> <li>○ グループで話し合い。</li> <li>○ 全体で話し合い、まとめる。</li> <li>○ 色分けした <math>3\text{cm}</math>・<math>4\text{cm}</math>・<math>5\text{cm}</math>・<math>6\text{cm}</math>各3本ずつのひごを用いているいろいろな三角形を作り、用紙に記入する。(個人・集団)</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正三角形・二等辺三角形の概念を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 辺の長さに注目して三角形を分ける。</li> <li>○ 「正三角形」「二等辺三角形」を説明する。</li> <li>○ ひごを用いて「正三角形」「二等辺三角形」を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ 前時に作成した三角形を切り抜き、辺の長さに注目して仲間分けをする。(個人)</li> <li>○ 同じ仲間にした理由を発表する。(集団・全体)</li> <li>○ 「正三角形」「二等辺三角形」を知らせる。(教師説明)</li> <li>○ いろいろな大きさの正三角形・二等辺三角形を作る。(集団)</li> <li>○ 二等辺三角形ができない場合も知らせる。(全体)</li> <li>○ 自己評価表に記入する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正三角形・二等辺</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コンパスを用い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> </ul>

4	<p>三角形を作図できるようにする。</p>	<p>て正三角形・二等辺三角形を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ひどで <math>4\text{cm} \cdot 6\text{cm} \cdot 6\text{cm}</math> の三角形を作る。</li> <li>○ 作図のしかたを考える。(個人)</li> <li>○ グループで話し合い。</li> <li>○ 全体でまとめ、作図する。</li> <li>○ 正三角形も作図してみる。(個別指導)</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三角形についてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ P7のおけいこをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ 各自課題に取り組む。(個別指導)</li> <li>○ グループで確かめる。</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 角の概念を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「角とよべるもの」「角とよべないもの」を分けることができる。</li> <li>○ 角の大小判断をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ 三角形のかどに目を向けさせる。</li> <li>○ 「角」の用語を知らせる。</li> <li>○ 幾つかの図の中から、角といえるものに○をつける。(個人)</li> <li>○ グループで話し合い。</li> <li>○ 全体でまとめる。</li> <li>○ 様々な角を示し、大きい順に並べる方法を考える。(個人)</li> <li>○ グループで話し合い。</li> <li>○ 全体でまとめる。</li> <li>○ 三角定規の角の大きさを比べる。(集団)</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 二等辺三角形・正三角形における角の性質を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 二等辺三角形の角の大きさを比べ角の性質を説明する。</li> <li>○ 正三角形の角の大きさを比べ、角</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ 二等辺三角形を作図する。</li> <li>○ 角を比べる方法を考え、角の性質に気づく。(個人)</li> <li>○ グループで話し合い。</li> <li>○ 正三角形を作図する。(個人)</li> <li>○ 角を比べる方法を考え、角の性質</li> </ul>

		の性質を説明する。	に気づく。(個人) <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループで話し合う。</li> <li>○ 全体でまとめる。</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
8	○ 二等辺三角形について理解度を確かめる。	○ P11のわけいこをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ 各自課題に取り組む。(個別指導)</li> <li>○ グループで確かめる。</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
9	○ 本単元の復習をする。	○ P12のおさらいをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ 各自課題に取り組む。(個別指導)</li> <li>○ グループで確かめる。</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
10	○ ポストテストをする。	○ たしかめのテストをする。	○ ポストテストに取り組む。

# 算数科学習指導案

指導者 寺 一 史 子

1. 日時 1984年10月26日(金) 4時校
2. 学年 第4学年 男子11名, 女子4名 計15名
3. 単元 面積
4. 目標 認知的目標
  - (1) 面積の概念を明らかにし, 面積の単位  $1\text{cm}^2 \cdot 1\text{m}^2 \cdot 1\text{km}^2$  を知らせる。
  - (2) 長方形・正方形の面積の求め方と, その公式を理解させ, これを用いることができるようにする。

## 態度的目標

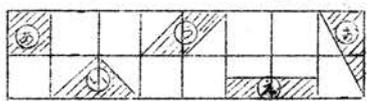
- (1) 面積の意味を理解し, 求積の公式を生み出そうとする。
  - (2) ひとり学習をはっきりさせ, 友だちの考えや意見をよく聞いて自分の考えを組み立てようとする。
5. 単元の取扱い
- 本単元は, 児童のもっている素朴な, 感覚的な経験の上に立って, 広さは二次元的な広がりを示すものであり, 長さや重さ・かさなどと同様に数で表わすことができることに気づかせ, 面積の概念を理解させ単位の個数によって数値化しそれを表わせることをねらっている。
  - 広さについては, 児童は低学年で, 2枚の紙の広さを直観的に見たり, 重ね合わせたりして比較するなどの経験から, ある程度の理解をもってきている。また, 遊びの中でもいろいろと経験を重ねている。

しかし, 日常生活で使用されている「広さ」ということばは, 「面積」という概念よりかなり広い使われ方をしている。そのため, 日常語をそのまま用いて, 単に「面積とは広さのことである」としてしまふことは, 明確さに欠ける。
  - そこで, 指導にあたっては,
    - ・ 児童の先行経験(広さの直接比較・間接比較, 任意単位による比較, 保存性)をたいせつにし, 作業を通して, 先行経験をまとめるようにする。この際「広さ」ということばのもつあいまいさを整理して, 「平面の広がり大きさ」であることをはっきりさせておく。
    - ・ 面積の概念を明確に理解させるために, 長さとの異同や関係について理解させ, その混同を防ぐようにする。
    - ・ 広さくらべ(見てくらべる・重ねてくらべる・方眼紙の上に置いてくらべる)を通して, 単位面積の必要性に気づかせるようにする。単位面積とするもの選択は, 身の回りの物を操作させることにより, 正方形が最もつごうがよいことに気づかせる。
    - ・ 普遍単位  $1\text{cm}^2$  を面積の明確な数値化という立場から導入し, その大きさの把握については, ことばのみでなく量感を持たせるよう指導したい。
    - ・ 求積の公式については, 児童が操作活動を通して生み出すようにさせたい。
- そのためには, 公式を生み出す過程, つまり単位面積の個数を調べることを重視し, その

後、個数を計算する手段として、「縦×横」、「1辺×1辺」とすればよいことを理解させて、公式を導き出すようにする。また、「縦×横、(1辺×1辺)」は、縦・横・(1辺)の単位をそろえた長さで表す数であることも留意する。

- ・ 大きな面積の単位は、児童に実感を持たせることは難しく、作業などを通して具体的に学習させることも困難である。しかし、縦・横の長さなどから、その大きさを推量させるようにしたり、1辺が1m・1kmの正方形を地図上に囲いなどして、量感を得させるようにしたい。

#### 6. 学習の計画 (11時間)

時限	学習内容	学習課題	実践活動
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プリテストをする。</li> <li>○ 学習の課題を知らせ、内容をつかませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 力だめしのテストをする。</li> <li>○ 学習の計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プリテストに取り組む。</li> <li>○ これから学習すること、及び学習計画について教師の説明。</li> <li>○ 態度的目標を決める。(個人・集団・全体思考)</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 面積の概念を明らかにし、面積の単位を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ カードの広さくらべをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題を確認する。</li> <li>○ カードの広さくらべをする。(重ねる、方眼の上に置く。)</li> <li>○ 広さは何でくらべればよいか考える。(個人思考)</li> <li>○ グループで話し合う。</li> <li>○ 全体で話し合い、まとめる。</li> <li>○ 面積の単位1cm<sup>2</sup>を知る。</li> <li>○ カードの広さを使って表わす。</li> <li>○ どれも1cm<sup>2</sup>であることを理解する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 面積を1cm<sup>2</sup>を単位にして求める。</li> <li>○ 長方形・正方形の面積の公式を導き出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 方眼紙に書いた図形の面積を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題を確認する。</li> <li>○ 方眼の目の数を数えて面積を求める。(個人)</li> <li>○ 答えを合わせる。</li> </ul>

3	す。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ きめられた広さの形を方眼紙に書く。(個人)</li> <li>○ グループで確認バズ。</li> <li>○ 面積が計算で求められるか考える。</li> <li>○ グループで話し合う。</li> <li>○ 発表・まとめ</li> <li>○ 公式を使って面積を求める。</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 面積の公式を利用して、L字型の図形の面積を求める。</li> <li>○ 長方形の面積と横の長さを知って、縦の長さを求めることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ L字型の面積を求める。(公式で)</li> <li>○ 縦の長さを求める。(公式で)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ L字型の図形の面積の求め方を考える。(個人)</li> <li>○ グループで話し合う。</li> <li>○ 発表・まとめ。</li> <li>○ 縦の長さを求めるには、どうしたらいいか考える。ノートに立式し、縦の長さを求める。(個別指導)</li> <li>○ 理由を述べる。</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ れんしゅう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習したことをたしかめてみる。(れんしゅう)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ 各自課題に取り組む。(個別指導)</li> <li>○ 班で確認バズ。</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 面積の単位 <math>1m^2</math> を知らせ、<math>m^2</math> 単位で長方形・正方形の面積が求められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ すな場の面積を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ 大きい正方形・長方形の面積を求めるにはどうしたらいいか話し合う。(全体バズ)</li> <li>○ 砂場の面積を求める。(cm単位で)</li> <li>○ 簡単に求める方法はないか考える。(個人)</li> <li>○ グループで話し合う。</li> <li>○ 全体・まとめ。</li> <li>○ <math>m^2</math> の書き方をノートに練習する。</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>

7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <math>m^2</math>単位で、長方形・正方形の面積を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <math>m^2</math>単位で面積を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ 長方形・正方形の面積を求める。</li> <li>○ グループで確認バズ。</li> <li>○ 長方形の一部が欠けている場合の求積のしかたを考える。(個人)</li> <li>○ グループで話し合う。</li> <li>○ 全体, まとめ。</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長さの単位と面積の単位の間を関係を理解する。</li> <li>○ 面積の単位 <math>km^2</math> を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長さの単位と面積の単位の間を調べる。</li> <li>○ 町の面積を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ 長方形の面積を求めて、長さの単位と面積の単位がどうなっているか考える。(個人)</li> <li>○ グループで話し合う。</li> <li>○ 全体, まとめ。</li> <li>○ 町の面積を求めるにはどうしたらいいかグループで話し合う。(町のふかん図)</li> <li>○ 全体, まとめ。</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ れんしゅう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習したことをたしかめてみる。(れんしゅう)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ 各自課題に取り組む。(個別指導)</li> <li>○ 班で確認バズ。</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ふくしゅう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ふくしゅうをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ 各自課題に取り組む。(個別指導)</li> <li>○ 班で確認バズ。</li> <li>○ 自己評価票に記入する。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ポストテスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ たしかめのテストをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ポストテストに取り組む。</li> </ul>

# 算数科学習指導案

指導者 小林英臣

1. 日時 1984年10月26日(金) 第2校時
2. 学年 第5・6学年(5年男4名, 女8名, 6年男2名, 女4名, 齋小6年女1名)計19名
3. 単元 5年「分数の①」, 6年「三角形と四角形」
4. 目標

(ア) 認知的目標

5年	6年
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 分数の意味(分数の第二義<math>a \div b = \frac{a}{b}</math>)や分数の約分・通分について理解させる。</li> <li>○ 異分母分数の加法, 減法の計算ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 辺の長さや角の大きさの観点から三角形及び四角形のそれぞれの相互関係を考察する。</li> </ul>

(イ) 態度的目標

5年	6年
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計算の仕方を知るだけでなく計算の過程を理解した上で計算できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三角形や四角形の類似点や特徴を自分達で発見しようとする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友だちの考えをよく聞き自分の考えを組み立てようとする。</li> </ul>	

5. 単元の取り扱い

5年	6年
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本単元は, 分数の意味について理解を深め, 分数について計算する能力を伸ばすことを目標としている。分数の加減の計算では, 約分・通分をていねいに扱い, 計算の過程をわかり易くとらえさせることが大切である。</li> <li>○ 本学級の児童は, 能力差が大きく, 問題文の読みとりが不十分であったり, じっく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本単元は, 基本的な図形についてその相互関係を調べる程度で, いわば三角形や四角形を統合的に考察しようとする考え方の初歩を経験させることがねらいである。具体的な作業を通して納得させることが大切である。</li> <li>○ 本学級の児童は, 図形はかけるようになってはいるが, 応用力にやや欠け思考が深ま</li> </ul>

り考えようとしない投げやりな態度や計算まちがいのよく見受けられる。

- そこで、指導にあたっては、分数は1つの数であって、それは整数とちがった新しく作られた数であることを理解させ、図解による方法で計算の過程をとらえさせるようにする。また、わからないところをみんなで教え合い、励まし合いながら学習していきたい。

らない。また、助け合いながら学習を進めているが、発表はひかえめて声も小さい。

- そこで、指導にあたっては、図形の相互関係の学習は、ここがはじめてであるから実際に図形をかかせて、児童の発見をリードしながら学習を進める。また、ひとりひとりで考えさせ、グループで確認させながら、自信を持って発表できるように学習していきたい。

6. 学習計画 (5年11時間, 6年6時間)

5 年				6 年			
時間	学習内容	学習課題	実践	時間	学習内容	学習課題	実践
1	○力だめし ○学習計画をたてる。	○ブリテスト ○教科書P4 ~14をみてたてる。	個人 全体思考	前単 元の 7	○鏡を使って 対称図形をつくる。	○教科書P13 ㊸~㊹の対称 図形をつくれる。	操作 全体思考
2	○分数の第二 義の理解と商 を分数で表す。  ○分数の2つ の意味を知る。  ○分数を小数 になおす。	○P4の㊸で $2 \div 3 = \frac{2}{3}$ を 理解し、㊹が できる。 ○ $\frac{3}{4} = \frac{1}{4} \times 3$ と $\frac{3}{4} = 3 \div 4$ を理解する。 ○P5の㊻㊼、 ㊽ができる。	図や線 分図で 教師説 明	1	○力だめし  ○学習計画を たてる。	○ブリテスト  ○教科書P14 ~17をみて たてる。	個人 全体思 考
3	○等しい分数 をつくる。	○P6の㊿で $\frac{1}{2}$ に、㊾で $\frac{8}{12}$ に等しい分数 がつくれる。	図や線 分図を もとに 個人、 集団、	2	○既習のいろ いろの三角形 をみつける。  ○二等辺三角	○P14の絵で みつけ、その 性質も発表で きる。	個人、 全体思 考

			全体思 考		形と正三角形 の関係を考え る。	○P14の①の 中に正三角形 があることに 気づく。	作図 個人 全体思 考
4 (本時)	○分数を約分 する方法につ いて考える。	○P7の①② で約分の意味 と方法がわか り③ができる。	個人・ 集団・ 全体思 考	3 (本時)	○既習のいろ いろな四角形 をみつける。  ○2組の平行 線で囲まれて できる四角形 について考え る。	○P15の絵で みつけ、その 性質も発表で きる。  ○P15の①の 中で長方形、 正方形、ひし 形ができるこ とに気づく。	個人・ 全体思 考  作図 個人・ 集団・ 全体思 考
5	○通分の意味 とその方法を 考える。	○P8の①で $\frac{4}{5}$ と $\frac{2}{3}$ の大小 比べから通分 の意味とその 方法を理解し P9の③⑤が できる。  ○P9の⑥で 3つの分数の 通分のしかた を考え、⑦が できる。	個人・ 集団・ 全体思 考	4	○平行四辺形 と長方形、ひ し形の関係 を調べる。  ○長方形と正 方形、ひし形 と正方形の関 係を調べる。	○P16の②③ で、平行四辺 形の中に長方 形、ひし形が あることに気 づく。  ○P16の④で ⑦が正方形に ①も正方形に なることに気 づく。	操作 作図  個人・ 集団・ 全体思 考
6	○練習をする。	○P10の① ～⑥ができる。	個人 全体	5	○練習をする。	○P17の①～ ③ができる。	個人 全体
7	○異分母分数 のたし算のし かたを考える。	○P11の①で $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ の計算 のしかたを理 解し、②がで きる。	図をみ て個人 ・集団 ・全体 思考	6	○学習したこ とをたしかめ る。	○ポストテス ト	個人

8	<p>○異分母分数のひき算のしかたを考える。</p>	<p>○P12の③で <math>\frac{1}{2} - \frac{1}{3}</math> の計算のしかたを理解し、④ができる。</p> <p>○P12の⑤で答えを約分できる分数の計算を理解し、P13の⑥ができる。</p>	<p>図をみて個人・集団・全体思考</p>	<p>次単元 (資料の調べ方) 1</p>	<p>○力だめし</p> <p>○学習計画をたてる。</p>	<p>○ブリテスト'個人</p> <p>○教科書P18 全体思考 ～P29をみて考 たてる。</p>
9	<p>○たし算・ひき算のまじった計算、および帯分数のはいったたし算・ひき算をする。</p>	<p>○P13の⑦で <math>\frac{1}{2} + \frac{3}{4} - \frac{1}{6}</math> の計算のしかたを考え、⑧ができる。</p> <p>○P13の⑨で <math>2\frac{1}{2} + 1\frac{5}{6}</math>, <math>2\frac{1}{2} - 1\frac{5}{6}</math> の計算のしかたを考え、⑩ができる。</p>	<p>個人・集団・全体思考</p>	<p>2</p>	<p>○資料を整理して、度数分布表に表し、資料のちらばりを調べる。</p>	<p>○P18の「身長調べ」の一覧表をみて、P19の①の「ちらばりの表」のようにまとめ、そのちらばりを読む。</p> <p>教師説明表をみて作業 個人・集団・全体思考</p>
10	<p>○練習をする。</p>	<p>○P14の①～④ができる。</p>	<p>個人・全体</p>	<p>3</p>	<p>○度数分布表をもとに柱状グラフのかき方・読み方を理解する。</p>	<p>○P20の③を参考にして④の柱状グラフがかける。</p> <p>教師説明作業</p>
11	<p>○学習したことをたしかめる。</p>	<p>○ポストテスト</p>	<p>個人</p>	<p>4</p>	<p>○柱状グラフから、男女の身長分布を比べる。</p>	<p>○P21の⑤のグラフで④の割合をだせる。</p> <p>個人・集団・全体思考</p>

# 豊 浜 町 立 豊 島 小 学 校

## 研究授業

### 1. 時間配分

	10:00	10:30	11:15	11:25	12:10	13:00	13:50
受付	1校時授業	休憩	2校時授業	昼食	研究協議	移動	

### 2. 授業内容

学年	授業者	教科	単元	
幼	新開 菊美		リズムであそぼう	一校時
1年	川崎 芳江	算数	かたちづくり	
3年	深見 直彦	社会	市民のつくり出すもの、「農家のしごと」	
5年	金子 順子	社会	わが国の製鉄所， 「ふえる鉄の生産と輸出」	
4年	久保岡 司	国語	小さな犬の小さい青い服	二校時
6年	竹内 優	社会	天下統一と鎖国，「大阪と江戸」	

## 豊島小学校のとりくみ

豊島は広島県の南端にあって、愛媛県と境を接する周囲12Km、面積5.2Km<sup>2</sup>の瀬戸内海の小島である。主な産業は、小型漁船による(一本釣り、はえなわ漁法)水産業と柑橘栽培の農業である。水産業者のほとんどは、西は遠く九州の五島列島、琵琶、対馬の方面まで、東は伊豆諸島方面にまで出漁している。農家では、柑橘の価格安からくる収入減により農業だけでは生活が成り立たず、島外に働きに出る者も多い。

本校は、かつては近在にはまれな1000人に余る児童を擁したマンモス校であったが、今では240名になり、年々減少の一途をたどっているのが現状である。子ども達の大部分は漁業家庭で、両親がそろって3か月以上に及ぶ長期出漁の不在家庭が多く、幼稚園、小学校、中学校の子ども達のなかには両親のもとを離れ豊浜学寮で生活している者や、兄弟姉妹や祖父母、親せきのもとで生活をして、正月、夏休み、盆、秋祭り等に親の帰って来るのを楽しみに待ちながら、通園、通学している。

児童はいたって素直で明朗であるが、全般的にみて基礎学力に乏しく、また基本的な生活習慣に欠ける面がみられる。本校において、学校教育を計画実践していくためには、不在家庭という生活条件のなかで、どのように生活し、どのように成長しているかということを学校教育の根底に考え、その事実の把握の上に立った教育計画であり実践でなくてはならないと考える。

### 1. 学校経営の基本方針

#### (1) 教育目標

「ひとりひとりを大切にし、お互いの立場や願いを認め合い、助け合い、補い合って学び、健康で明るく情操豊かな子どもを育成する」

#### (2) 求める児童像

- ① 物事をよく考えて、自主的・主体的に行動のできる子ども。
- ② きまりを守り、思いやりの心で仲間と共に伸びる子ども。
- ③ 何事も責任をもって最後までやりとげる子ども。
- ④ 鍛練によって強い体をつくる子ども。

#### (3) 具体的実践目標

##### ① 学習指導の充実

- イ. バズ学習を通して基礎学力の向上を図り、個の能力を伸ばす。
- ロ. 実態に即した学習指導の創造。
- ハ. 基礎的事項の反復練習。
- ニ. 基礎的学力の補充。

##### ② 健康安全指導の強化

- イ. 健康状態を正しく把握し、阻害のある子は全職員で適切な処置をする。
- ロ. 個々の子どもに目標を与え、旺盛な気力とたくましさ育てる。
- ハ. 正しい運動の仕方と健康の知識を身につけさせる。

③ 生活指導の充実

- イ. 自分から進んで仕事のできる子どもに育てる。
- ロ. 責任をもって最後までやりとげる子どもに育てる。
- ハ. 感謝の心をもって物を大切に扱う子どもに育てる。

④ 基本的生活習慣の確立

- イ. きまりを守って楽しく生活のできる子どもに育てる。
- ロ. なかまと共に力を合わせて伸びようとする子どもに育てる。
- ハ. 自他の立場を考えて行動のできる子どもに育てる。

(4) 研究主題

「進んで学び、考えて、行動できる子どもをめざして」

- ひとりひとりが課題をもって、仲間とともに学び行動し、ともに高まっていく子どもをめざして。(聞く―話す―考える―行動する)
- 進んで体力づくりにはげむ子ども。

(5) 具体的とりくみ

① 学習指導の充実

- 全教科でバズ学習の授業研究を進める。
- ―児童の相互作用をとおして、ひとりひとりをいかす学習指導―

② 健康安全指導

- 体操朝会(水・金週二回15分間)を設定し、体力づくりに努める。
- 体力テストを実施して、その診断をし、体力についての自覚を高める。
- がんばりカード(かけ足・なわとび)を活用し、自己の記録に挑戦しながら体力の向上をはかる。
- 給食の偏食を矯正し、食べ残しをしないよう給食指導を行う。
- 給食後の歯みがき、うがいの励行につとめる。(歯みがきカードの活用)
- 交通道徳の徹底
  - ・正しい歩行・自転車の乗り方(自転車整備合格シール, 自転車許可証)
  - ・登下校時の状況の把握と指導(街頭指導・集団下校指導)

③ 生活指導の充実と基本的生活習慣の確立

- 児童会活動をとおして児童が主体的に生活を高めていこうとする心と態度を育てる。
  - ・児童代表委員会―児童会役員, 学級委員, 各委員会の委員長で構成。
  - ・委員会活動―生活委員によって決められた月の努力点をみんなで実行していく。
    - 努力点の決定―実行方法を話し合う(各学級で)―実行方法の発表(児童朝会で)
    - ―実行と点検(お互いに注意し合いながら実行し, 帰りの会で反省)―反省(各学級で月の反省をし, 児童朝会で発表) 努力点の例―名札をつけよう。あいさつをしよう。集団登校をしよう。チャイムの合図を守ろう。等
  - ・校外児童会活動―町内の道路掃除(ゴミの落ちていない町に)

# 算数科学習指導案

指導者 川崎 芳江

1. 学年 第1学年1組 男子18名 女子20名 計38名

2. 単元 かたちづくり

3. 単元の取り扱い

○図形では、ものの形を色・材質・大きさ・位置が異なっていても同じ図形として抽象して認めていくことが重要である。ここでは、色板や棒の操作を通して図形の構成力や移動に関する考察力を養うのをねらいとしている。

○児童は、「いろいろなかたち」で、立体図形について形の特徴や抽象を学習している。その中で、積木の一面を写し絵を描くことにより、平面図形にも着目している。しかし、まだ面構成・線構成について理解していない。

○そこで指導にあたっては、色板や棒を操作し、図形の構成・分確の経験を豊富にさせ、図形概念を深めさせたい。また、単に児童の興味を満足させるだけにとどまらず、図形に対する関心をいっそう深めさせたい。

4. 単元の目標 認知的 ○色板や棒を使って、いろいろな形を作ることとおして、図形を構成する力を伸ばす。

○色板や棒を並べた図形を変形し、図形を動的に考察する力を伸ばす。

態度的 ○友だちの意見をよく聞き、仲良く学習する。

5. 下位目標

①面の抽象図形から具体物を想像する力、色板を使っていろいろな図形を構成する力を伸ばす。

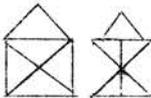
②色板の影絵を通して面積の素地を養う。

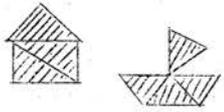
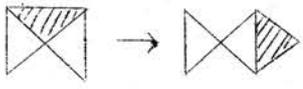
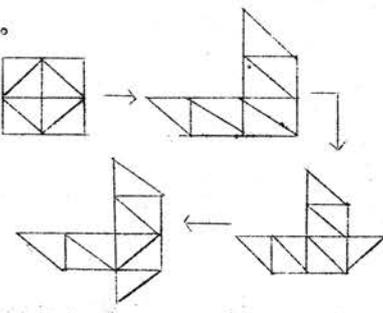
③色板で、図形の動的な変化に着目させる。

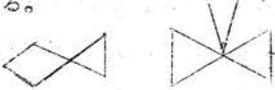
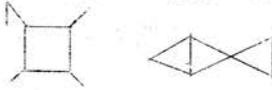
④線の抽象図形から具体物を想像する力、棒を使っていろいろな図形を構成する力を伸ばす。

⑤棒図形の変化を通して図形を考察する力を伸ばす。

6. 学習計画(8時間) ( )内の数字は、下位目標の内容

時	学 習 課 題	実 践 活 動
1	1. テストをしてみよう。 2. 学習の計画を立てよう。	○ブリテストをする。 ○学習計画を把握する。
	3. 色板で作った図形は、何の形に見えるか。(①-1) 4. 色板を使っていろいろな形を作る	○本時の課題を知る。 ○色板で作った図形が何の形に見えるか発表する。 

2	う。 (①-2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人ひとりが色板で形を作り、何枚できているか考え、グループで話し合う。</li> <li>○発表し、全体で確かめ合う。</li> <li>○まとめを聞く。</li> </ul>
3	5. 影絵は何枚の色板できているか (②-1) 6. 影絵の大きさ比べをしよう。 (②-2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の課題を知る。</li> <li>○影絵が何の形に見えるか発表する。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人ひとりが何枚の色板できているか予測し、作ってみる。</li> <li>○グループで話し合い、発表する。</li> <li>○色板の枚数で、大きさを比べる。</li> <li>○まとめを聞く。</li> </ul>
4	7. 色板を動かして、形を変えよう。 (③)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の課題を知る。</li> <li>○何の形に見えるか発表する。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○形を変えるには、色板をどのように動かしたらよいか個人でやり、グループで確かめ合う。</li> <li>○発表する。</li> </ul>
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>○どんな形に変わっているか考え、発表する。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各自で色板を動かしたり、つけたしたりして形が変わる様子を調べる。</li> <li>○グループでどのように動かしたか確かめ</li> </ul>

		<p>合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発表する。</li> <li>○まとめを聞く。</li> </ul>
6	<p>8. 棒で作った図形は、何の形に見えるか。(④-1)</p> <p>9. 棒を使っていろいろな形を作ろう。(④-2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の課題を知る。</li> <li>○棒で作った図形が何の形に見えるか発表する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人ひとりが棒で形を作り、何本できているか考え、グループで話し合う。</li> <li>○発表し、全体で確かめ合う。</li> <li>○まとめを聞く。</li> </ul>
7	<p>10. 棒を動かして、形を変えよう。(⑤)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の課題を知る。</li> <li>○何の形に見えるか発表する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○各自で棒を動かして向きを変える。</li> <li>○一人ひとりが棒で8を作り、何本か棒を取って違う数字を作る。</li> <li>○グループで話し合い、いろいろな数字を作る。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○発表し、全体で確かめ合う。</li> <li>○まとめを聞く。</li> </ul>
8	<p>11. まとめをしよう。</p> <p>12. テストをしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「かたちづくり」のまとめをする。</li> <li>○ポストテストをする。</li> </ul>

# 社会科学習指導案

指導者 深見直彦

1. 学年 第3学年1組 男子14名 女子26名 計40名
2. 単元 市民のつくり出すもの(農家のしごと)
3. 単元の取り扱い

- 本単元は、1年生「うちの人のしごと」、2年生「いろいろなしごと」の学習をふまえて、3年生「ちがった土地の暮らし」、5年生「産業の結びつきと国民生活」・「日本の農業」へと発展し、本単元を通して、地域の特徴を具体的に体験的に学習することによって、地域理解へとつなげている。
- 児童は、農地で何が栽培されているかは、わかっているが、どうして、それが栽培されているか、今どんな仕事をしているかなどについては、全く知らないし、関心もしめていない。
- ここでは、表やグラフ・スライドなどの資料からの読みとりと、聞きとり・見学などの具体的な活動を過して、自分たちの町の重要な生産活動についての理解を深め、その生産活動と自然環境・社会環境との関係、生産活動を通しての他地域との結びつきについて考えさせたい。

## 4. 単元の目標

- 認知的 ○豊島の農村部についての具体的な観察・訪問調査などの活動を通して、農家の人々が、地形や気候などの自然条件と社会条件を生かしながら、いろいろくふうし、また組織的に働きながら、生産活動を行っていることに気づかせる。
- 態度的 ○豊島の農業のよすをくわしく知るため、観察・訪問調査ができる。
- 友人の発表・意見をよく聞き、すすんで発表ができる。

## 5. 学習計画(13時間)

時	学 習 課 題	実 践 活 動
1	1. 学習課題を知り、学習計画をたてる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブリテスト</li> <li>○教科書を読み、学習内容の概略をつかむ。</li> <li>○学習課題をのせたブリテストを配布し、学習計画に解説を加える。</li> </ul>
2	2. 豊島の農業の概略をつかむ。 ・田畑の広さのうつりかわり ・働く人の数のうつりかわり ・田畑の分布 ・作られている物	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を確認する。</li> <li>○資料を配布し、黒板にも掲示する。</li> <li>○個人で、変化や分布などをノートに書く。</li> <li>○それをもとに、グループ学習をする。</li> <li>○全体バズで、グループの意見を出す。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体バズをうけて，教師がまとめる。</li> <li>○授業のまとめをノートに記入する。</li> </ul>
3	<p>3. みかんのとれ高のうつりかわりについて，グラフを見て，気づきを発表する。</p> <p>4. その変化の理由をあげよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増加してきた理由</li> <li>・減少してきた理由</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を確認する。</li> <li>○資料を配布し，TPでも提示する。</li> <li>○資料をみて，変化をノートに書く。</li> <li>○個人が，ノートをもとに発表する。</li> <li>○教師が，小まとめをする。</li> <li>○個人で考え（予想し）ノートに書く。</li> <li>○それをもとにグループ学習をする。</li> <li>○全体バズで，グループの意見を出す。</li> <li>○全体バズをうけて，教師がまとめる。</li> </ul>
4	<p>5. みかん農家見学で，どんなことを観察するか，どんなことを質問するか，見学ノートにまとめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を確認する。</li> <li>○教科書を参考にしながら，個人で見学の視点をあげ，ノートに書く。</li> <li>○グループで，さらに広げていく。</li> <li>○全体バズで，グループの意見を出す。</li> <li>○教師の助言をうけ，見学ノートをつくる。</li> </ul>
5 6	<p>6. みかん農家を見学しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みかん畑にある機械や設備のようす。</li> <li>・みかん作りの仕事内容やくふう</li> <li>・苦勞について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見学の視点を再確認し，現地での行動について，注意をうける。</li> <li>○現地につき，見学の視点にそって観察をする。</li> <li>○農家の人の話を聞き，メモをとったり，質問したりする。</li> </ul>
7	<p>7. 見学に行った気づきをあげよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みかん畑のようす</li> <li>・みかん作りに使われる道具</li> <li>・どうして，みかん畑が多いのか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を確認する</li> <li>○自分の見学ノート・メモをもとに，グループで話し合い，まとめていく。</li> <li>○全体バズで，グループの意見を出す。</li> <li>○教師が，スライドなどを使って，まとめをする。</li> </ul>
8	<p>8. みかん作りのむかしと今をくらべ，みかん作りのくふうや苦勞を</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を確認する。</li> <li>○資料を提示し，考えるヒントにさせる。</li> </ul>

	あげよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の見学ノート・メモの該当する所に線を入れ、提示された資料から、個人で考えていく。</li> <li>○グループ学習で深めていく。</li> <li>○全体バズで、グループの意見を出す。</li> <li>○教師が、スライドや資料を使って、まとめる。</li> <li>○見学ノートを完成する。</li> </ul>
9	<p>9. 農協のやくわりをあげよう。</p> <p>10. 農協見学で調べることを見学ノートに書こう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を確認する。</li> <li>○個人の考えをノートに書く。</li> <li>○個人の考えをもとに、グループで学習をする。</li> <li>○全体バズで、グループの意見を出す。</li> <li>○全体バズをうけて、農協見学の視点をグループで決め、見学ノートをつくる。</li> </ul>
10 11	<p>11. 農協を見学しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農家と農協との関係</li> <li>・農協のしごと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見学の視点を再確認し、見学場所での行動について、注意をうける。</li> <li>○農協につき、係りの人の説明を聞き、メモをとったり、質問などをしたりする。</li> </ul>
12	12. 見学をもとに、農協のはたらきとやくわりをまとめてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を確認する。</li> <li>○個人で、見学ノートからまとめていく。</li> <li>○グループで、さらに広げ、深める。</li> <li>○全体バズで、グループの意見を出す。</li> <li>○教師が、スライド・資料を使って、まとめる。</li> <li>○まとめをうけて、見学ノートを完成させる。</li> </ul>
13	13. 今までの学習をたしかめよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師が、スライド・TPを使って、これまでの学習のまとめをする。</li> <li>○ポストテスト</li> </ul>

# 国語科学習指導案

指導者 久保岡 司

1. 学年 第4学年2組 男子10名 女子11名 計21名
2. 単元 小さな青い馬 (物語)
3. 単元の取り扱い

本題材は、少年のぼると不思議な青い馬との交流が中心となり、父親への信頼と亡き母への思慕が底流となっている。幻想的な作品ではあるが、情景はのぼるの視点で描かれており、心情の推移もわかりやすい。

指導にあたっては、行動から心情を読み取らせるようにし、その際、ノートに書くことによって考えをまとめ、グループで話し合うことにより考えを深めるようにさせたい。

## 4. 単元の目標

### 認知的

- 場面や情景を想像しながら、人物の気持ちの移り変わりを読み取ることができる。
- 感想を吟味し、段落相互の関係を考へて焦点化された感想文を書くことができる。
- 気持ちを表す言葉や記号(ダッシュ)の働きなどに気を付けて、幻想的な作品を読み味わうことができる。

### 態度的

- 登場人物の気持ちになって音読しようとする。
- 友達の話を書くことによって、自分の考えを深めようとする。

## 5. 学習計画 (11時間)

時	学 習 課 題	実 践 活 動
1	ブリテスト 1. 全文を読んで感想文を書く。 (1) おもしろいところ (2) 疑問に思ったところ (3) 全文の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブリテスト(漢字・難語句)をする。</li> <li>○教師の範読を聞きながら、おもしろいところ、疑問に思ったところにサイドラインを引く。</li> <li>○感想文を書く。</li> <li>○グループでサイドラインを引いたところや感想文を発表し合う。</li> </ul>
2	2. 全文の音読をする。 3. あらすじをとらえ、学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2人組で全文を音読する。</li> <li>○グループであらすじをとらえながら、これから勉強していきたいことを出し合う。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループで出たことを全体に出す。</li> <li>○教師を中心に課題をまとめ、学習計画を立てる。</li> </ul>
3	4. のぼるは今の生活をどう思っているのだろうか。(P4~P8と9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の課題を確認する。</li> <li>○本時学習部分を音読する。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 家族についてどうか。</li> <li>(2) 友達についてどうか。</li> <li>(3) どんな遊びをしているか。</li> <li>(4) どんな夢をみているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時学習部分の漢字、難語句について確認する。</li> <li>○各自でサイドラインを引いておいたのぼるの行動の部分から、のぼるの気持ちを読み取り、教科書に書きこむ。</li> </ul>
5	<p>5. 青い馬に出会った場面でのぼるの気持ちはどう変わっていったか。</p> <p style="text-align: center;">(P8と10~P12と2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 青い馬に出会いまでの気持ちの変化はどうか。</li> <li>(2) 青い馬に出会ってからの気持ちの変化はどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループで意見を出し合う。</li> <li>○グループで出た意見を全体で話し合う。</li> <li>○本時の学習と次時の課題を確認する。</li> </ul>
6	<p>6. 青い馬が来るようになってからのぼるの気持ちはどう変わっていったか。</p> <p style="text-align: center;">(P12と3~P14と5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) なぜ父ちゃんにだましていることにしたのか。</li> <li>(2) なぜ母ちゃんの夢を見なくなったか。</li> </ul>	
7	<p>7. 馬のことが父に分かった時ののぼるの気持ちはどう変わっていったか。</p> <p style="text-align: center;">(P14と6~P17と12)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 父ちゃんが病気で帰ってきてからの行動と気持ちはどうか。</li> <li>(2) 思わず馬のことを言ってしまうからのぼるの気持ちはどうか。</li> </ul>	
8	8. 青い馬が来なくなった時ののぼるの	

(本時)	<p>気持ちはどう変わっていったか。 (P18 ℓ1～P20 ℓ1)</p> <p>(1) どんな気持ちでくちびるをかんだのか。 (2) どうしてだまってこらえたのか。 (3) 父ちゃんとの会話でのぼるの気持ちはどうなったか。</p>	
9	<p>9. 小さな青い馬とは何だったのか。 (P20 ℓ2～P20 ℓ12)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ 本時の学習部分を音読する。</li> <li>○ 本時の学習部分の漢字、難語句について確認する。</li> <li>○ 各自で全文を通して考えて、ノートにまとめる。</li> <li>○ グループで意見を出し合う。</li> <li>○ グループで出た意見を全体で話し合う。</li> <li>○ 本時の学習と次時の課題を確認する。</li> </ul>
	<p>10. 全文を通してののぼるの気持ちの移り変わりについて感想文を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題を確認する。</li> <li>○ 各自でのぼるの気持ちの移り変わりを中心に感想文を書く。</li> <li>○ 各グループで、感想文を回し読みして話し合う。</li> </ul>
11	<p>11. 学習の確認をする。</p> <p>(1) ポストテストをする。 (2) 登場人物になったつもりで劇をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ポストテスト (プリテストで出題した漢字、難語句および、課題4～9) をする。</li> <li>○ 2人組でのぼると父ちゃんの会話の場面を劇化する。</li> </ul>

# 社会科学習指導案

指導者 金子 順子

1. 学年 第5学年1組 男子10名 女子10名 計20名
2. 単元 わが国の製鉄所
3. 単元の取り扱い

- 児童は、工業の発展が人々の生活や産業に大きな影響を与えていることについて、既単元で学習しているので、これらを十分ふまえて授業を進めていく。
- この単元では、工業の基盤とも考えられる鉄の生産過程がいちじるしく近代化されていることや工場立地条件もよく考えられていることを知り、製品の輸出の問題にも気づくようにさせる。又、いかに近代化した機械でも、それを使っているのは働いている人であることを理解させる。
- そこで、児童に 具体的な写真・図表等の資料を活用させることにより、原料の入手先、製品輸出先、立地条件の共通点などを考えながら、主体的に学習する態度を身につけさせたい。

## 4. 単元の目標

- 認知的
- 製鉄所では、近代的なしくみで、ほとんど外国から運ばれてくる原材料をもとに、鉄の生産を行っていることを理解させる。
  - 自動的に作業を進めるコンピューターのしくみを取り入れているが、働く人にとっては、つかれる労働であることを理解させる。
  - 製鉄所の共通した立地条件は、海上交通の好条件な所にあることに気づかせる。
  - 日本は、世界でも有数な、鉄の生産国であるが、原料をほとんど輸入にたよっており、また輸出量も多いことを理解させる。
- 態度的
- 自分から進んで、グラフ・地図・写真などの資料を活用して、学習することができるようにさせる。
  - 友だちの考えに反応し、事実にもとづいた、自分の考えを持つようにさせる。

## 5. 学習計画（9時間）

時	学 習 課 題	実 践 活 動
1	1. 学習の課題を知ろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブリテスト</li> <li>○教科書を読み、学習内容の概略をつかませる。</li> <li>○各時間の学習課題を知り、ねらいを把握させる。</li> </ul>

2	<p>2. 豊島の中で使われている鉄製品を調べよう。 (杵組みとして船具・工具・日用品・農機具)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題を確認する。</li> <li>○各自がプリントに作業する。</li> <li>○グループにして、発表し合う。</li> <li>○まとめ</li> </ul>
3 . 4	<p>3. 鉄ができるまでの歩みをまとめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題を確認する。</li> <li>○各自、自由に考えをまとめる。</li> <li>○グループで話し合い、鉄ができるまでの話をイラスト入りで、画用紙などに各自が分担して作業をする。</li> <li>○グループごとにできあがったものを発表する。</li> <li>○まとめ</li> </ul>
5	<p>4. 鉄の原材料は、どんな方法で工場に、運ばれてくるだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題を確認する。</li> <li>○さし絵やグラフ・表などを参考に一人学習をする。</li> <li>○グループで話し合い、まとめる。</li> <li>○まとめたことを発表する。</li> <li>○整理</li> <li>○鉄の原材料・入手先など分かったことを整理して、各自ノートにまとめる。</li> </ul>
6	<p>5. コンピューターを取り入れたことによって、工場の中はどよう変わったろう。</p> <p>6. 働く人は、どんな仕事をしているだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題を確認する。</li> <li>○本文を読む。</li> <li>○写真・図などを参考に自分で考え、自分なりに考えをまとめプリントに書く。</li> <li>○グループで話し合い、まとめる。</li> <li>○グループ発表</li> <li>○課題6に取りくむ。</li> <li>○グループで話し合い、まとめる。</li> <li>○グループ発表</li> <li>○整理</li> </ul>
	<p>7. 製鉄所の分布図を見て、太平洋</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題を確認する。</li> </ul>

7 (本時)	側に製鉄所が多いわけをあげなさい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えをまとめプリントに書く。</li> <li>○グループで話し合い、TPにまとめる。</li> <li>○グループ発表</li> <li>○整理</li> <li>○製鉄所が太平洋側に多かった理由を各自ノートに整理しておく。</li> </ul>
8	<p>8. 1960年ごろから日本の鉄の生産量は各国とくらべてどうなっただろう。(P111のグラフから)</p> <p>9. 日本で生産された鉄の輸出先と輸出量を調べよう。 (P112の表から)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習課題を確認する。</li> <li>○課題8に取りくむ。</li> <li>○グループで意見を出し合いまとめる。</li> <li>○グループ発表</li> <li>○課題9について取りくむ。</li> <li>○グループで、意見を出し合い確かめる。</li> <li>○グループ発表</li> <li>○整理</li> </ul>
9	<p>10. 「鉄をつくる工場」を学習して分かったことをまとめよう。</p> <p>11. 今までの学習をたしかめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習について確認する。</li> <li>○全体で学習のまとめをする。</li> <li>○ポストテスト</li> </ul>

## 社会科学習指導案

指導者 竹内 優

1. 学年 第6学年1組 男子12名 女子13名 計25名
2. 単元 むかしの日本 江戸時代「幕府政治の移り変わり」と町人の文化」
3. 単元の取り扱い

○歴史の単元では、先人の業績やすぐれた文化遺産を、身近なものとして理解するとともに、人間尊重の姿勢を確立させようとししました。庶民の歴史なかでも庶民の暮らし、とりわけその自立への願いや経緯についての叙述に重点をおきました。

○歴史学習においては、歴史を学ぶ、おもしろさや楽しさを感じとらせるため、歴史的事項をより身近なものとしてとらえられるよう、絵を中心に物語や逸話をより多くとり入れていきたい。

○本学級の児童は自分から進んで学習していく意欲が少し足りないことと、自分の意見を出しにくい子が数名いる。全員が学習意欲をもって課題にとりくめるようグループでの話し合いとか全体での話し合いをより多くもつようにしていきたい。

### 4. 単元の目標

認知的

○箱根用水をとおして、新田開発など農業生産の高まりについて知るとともに、長い間には武士中心の政治体制もゆらぎ、政治の改革が行われ身分制度もひきしめられていったことを理解する。

○大阪、江戸の様子をとおして、このころには、農業をはじめ諸産業や交通が発達したこと、とくに商工業の発展にともない町人勢力が増大し、特色ある町人文化が栄えたことを理解する。

態度的

○ねらいにそって自分で一人学習ができ考えをまとめることができる。

○班の中で協力して調べたり、作業ができる。

○自分の意見をはっきり出し、また、人の意見をよく聞くことができる。

### 5. 学習計画（8時間）

時	学 習 課 題	実 践 活 動
1	1. プリテストをやる。 2. 単元の学習課題を把握する。	○プリテスト ○前単元とのつながりを説明する。 ○グループで学習課題をつくる。 ○児童に単元の学習計画をおしえる。
2	3. 箱根用水に代表されるような工事を	○本時の課題を示す。

	<p>なぜ、行ったのか理由をあげなさい。</p> <p>4. 元禄時代は世の中がどのようにかわってきたのか、その変化をかきなさい。</p>	<p>○課題3についてとりくむ。</p> <p>○全体で整理する。</p> <p>○課題4についてとりくむ。</p> <p>○全体で整理する。</p> <p>○まとめる。</p>
3	<p>5. 吉宗の行った政治をあげなさい。</p> <p>6. 吉宗のねらいは何だったのか。</p>	<p>○本時の課題を示す。</p> <p>○課題5についてとりくむ。</p> <p>○全体で整理する。</p> <p>○課題6についてとりくむ。</p> <p>○班で発表する。</p> <p>○まとめる。</p>
4	<p>7. このごろ、どうして身分制度がゆるいでいったのか理由をあげなさい。</p> <p>8. なぜ、身分制度をひきしめる必要があったのか理由をあげなさい。</p> <p>9. どうして、きびしい差別をおしつけていったのだろうか理由をあげなさい。</p>	<p>○本時の課題を示す。</p> <p>○課題7についてとりくむ。</p> <p>○全体で整理する。</p> <p>○課題8と9についてとりくむ。</p> <p>○班で発表する。</p> <p>○まとめる。</p>
5 (本時)	<p>10. 江戸時代と現在の交通のちがいをあげよ。</p> <p>11. なぜ、旅をするのにきびしいきまりがあったのか理由をあげなさい。</p>	<p>○本時の課題を示す。</p> <p>○課題10についてとりくむ。</p> <p>○全体で整理する。</p> <p>○課題11についてとりくむ。</p> <p>○班で発表する。</p> <p>○まとめる。</p>
6	<p>12. 江戸時代の農業は、前の時代にくらべどのように進んできたのかのべなさい。</p>	<p>○本時の課題を示す。</p> <p>○課題12についてとりくむ。</p> <p>○班で発表する。</p> <p>○まとめる。</p>
7	<p>13. 大阪、江戸を中心にした文化のようすをそれぞれのべなさい。</p> <p>14. 江戸の町の文化は、どう変ってきた</p>	<p>○本時の課題を示す。</p> <p>○課題13についてとりくむ。</p> <p>○全体で整理する。</p> <p>○課題14についてとりくむ。</p>

	のだろりかのべなさい。	<input type="checkbox"/> 班で発表する。 <input type="checkbox"/> まとめる。
8	15. 単元のまとめを行おう。	<input type="checkbox"/> 単元全体の流れを説明する。 <input type="checkbox"/> 個人で整理しまとめる。 <input type="checkbox"/> ポストテスト

# 豊 町 立 沖 友 小 学 校

## 研究授業

### 1. 時間配分

10:00 10:30      11:15 11:25      12:00 12:20      13:10      14:00

受付	研究授業	休憩	児童会	祭り ばやし	昼食	研究協議	移動
----	------	----	-----	-----------	----	------	----

### 2. 授業内容（合同授業）

学 年	教 科〔体育〕・内 容	授 業 者
全 児 童	準備運動（柔軟運動・す早い動き）	
1・2年	とび箱あそび	松 本 智 子
3・4年	腕立て開脚とび	松 浦 良 孝
5・6年	台上前転	惣 明 修 市
全 児 童	整理運動	
幼 稚 園	おみせやさんごっこをしよう	池 内 文 子

## 沖友小学校のプロフィール

### はじめに

本校は、へき地一級指定で児童数17名。小規模校の例にもれず下級生の面倒をよく見る。消極的なところもあるが、素直で学校全体が一家族のようなふん囲気である。また地域住民は学校に対して全面的に協力し学校を大切にす素朴な気風は昔ながらのものである。このような地域の実態から校区の課題が考えられる。温かい住みよい地域づくりと地域を維持発展させる後継者の育成が必要である。後継者の地域定着、高齢化社会の問題も考えなければならない。地域の伝統を受け継ぎ、時代の流れを見つめながら住みよい社会を創造できる子どもになるためには、学力・体力を身につけ、多人数の中でも気おくれせず自分の目標に向かって積極的にねばり強くやりぬく子ども、人の立場になって考え協調できる子どもでなくてはならない。このような子どもの育成を目指して、今重点的に取り組んでいることは、

- ともに支えあう学級、学校集団づくり……心のふれあいを大切に。
- 体力づくり ……特に柔軟・なわ跳び。
- 言語について ……特に大きな声で発表。
- 複式指導 ……少人数の利点を生かした、ひとりひとりの能力に合った指導。
- 家庭や地域との関係……両親学級、祖父母参観日、地域の伝統の継承(祭ばやし)

などであるが、へき地の特性を活かし、へき地だからできる教育を、地域に支えられながら地域の文化センターとしての役割を果たすべく、私たち7名の教職員はささやかな取り組みを続けている。

### 授業について

国社算理の四教科については複式で、他の四教科並びに道徳については単式で授業を行っている。複式授業では、学年目標を目指して学習を進めることができるが、単式授業においては、二学年が同一教材で学習するので上学年には容易になりすぎない様に、下学年には、過重にならない様指導計画を立て学習を進めている。単式授業は、AB年次で行っているので本校独自の指導計画のもとに、二年間の積み上げの結果、目標が達成できる様に学習している。複式授業の長所は、学年に応じた目標を目指してそれぞれ学習できること。下学年の一年間に上学年の学習をそれとなく見ているので全く新しい教材を学ぶ時の様な抵抗が少ないこと。異学年の児童が同じ教室にいたので上学年が下学年とマンツーマンになって容易に教え合えること。教師が一時間中指導することができないので自分たちで話し合い学習を進めていく主体性が身につくなどが挙げられる。短所としては、上学年になった時、教材への新鮮さに欠けること。教師が一方の学年を指導している間、他の学年は、能率的な学習ができにくいこと。技術的能力的に下学年の方がすぐれていて上学年が劣等感をもつ場合があること。他学年の邪魔にならない様に小さい声で話し合いをする習慣がついていて大勢の前で大きな声が出せないことなどがある。様々な問題点をかか

えながら、それを克服するように手立てをしているが、本校では特に複式授業の間接指導を能率的にするためにはどのようにしたらよいかということ話し合いを進めてきた。現在はシンクロファックスの活用と手引きを利用している。シンクロファックスは全校児童が同時に使える様に台数が備えてあり、一年生も一学期の間に使いこなす様になった。シートは三年生以上は既成のものが三教科備えてあり、いつでも活用できるようになっている。しかし、進度の異なる場合や、教師の語りの方がよいと思われる場合には、自作のシートで学習を進めている。器械の操作によって聞き直しもできるし、個々の進度に合わせて学習することもできるので効果的である。もう一つの方法である手引きの利用については、一時間ごとの学習内容をプリントし、その内容にそって、読んだり書いたり、観察したり話し合ったりして児童が主体的に進めていくものである。高学年では、内容を話し合いによって広めたり、深めたりすることができるが、低学年では、答えを確かめ合ったり異なる意見もあることを知る程度に終わっている。シンクロファックスの場合も手引きの場合も授業以前の準備に時間がかかることや、授業中その都度教師が助言することができないことなどの問題点がある。今後も教職員でさらに研究していかなければならない。

複式学級こそバズ学習の原点であると言われる。特に間接指導においては、話し合い活動が不可欠のものである。一学年が2～4名しかいない本校では、話し合いが活発になりやすく、全員発言はもちろんのこと、友達の意見を聞きながら一人が何回も発言していかなければ話し合いが成り立たない。そこでお互いによく聞き合うために、発表者は初めと終わりに「はい………です。」を明確にすること、聞いていた者は前の発表者の意見とのかかわりをしている。しかし、またつぶやきとしては言えても、発表としてはなかなか言えない現状である。大きな集団に入っても堂々と自己を表現できるような子どもを育てるために研修を深め、一時間一時間の授業を大切にしていきたい。

#### 児童会活動

幼稚園9名、小学校17名、計26名を縦割りして4班編成し、児童会活動を行っている。月1回の児童会では、生活の中からお互いを理解するための問題を出し合って話し合い活動を進めている。縦割り集団の目標は、「できるだけ大ぜいの友だちと仲よくし、力を合わせて物事をやりとげていく楽しさを身につける。」ことである。

縦割り集団の活動は、週3回以外掃除、金曜日のレクリエーション朝会、合同体育、業間体育、学校園畑作りなどである。行事としては、七夕誕生会（7月）、もちつき誕生会（12月）、お別れ運動会（誕生会・3月）などを設け、班長会を開いて、誕生会をいかに盛り上げるか話し合い、更に、各班で班会議を開いて班の出し物や、やり方などを決めている。

練習や準備は昼の休憩時間を利用したり、放課後を利用したりして行い、各班独特のものができ上がっている。準備や練習にあたっては、各班担当の教職員がこれに加わり、主体性を育てながら行事が進行できるようにつとめている。

次に、学期に一回、自分達がやってみたいことを提案し、児童会（幼稚園から6年生まで）で

話し合っで決定している。1学期は「宝さがし」が提案され、どのような方法で「宝さがし」をするか班長会でしっかり話し合い、児童会3役を中心に準備は順調に進められた。仕方には多少の反省点は残るものの、自分たちで行事がやりとげられたという喜びが、後の反省会にもよくでていた。また賞状まで準備して、内容をより充実しようとした跡もみられた。7月7日の七夕誕生会では、各班の人数が少ないこともあって、1班と2班、3班と4班の2組に分かれ、笹を持ってくる係や短冊の作り方を話し合い、協力して七夕かざりを作った。幼稚園児の願いは、高学年の児童が書いてやり、一人残らず思いを短冊にたくすことができた。

1人1人の願いが充分話し合われて班の願いとなり、さらに学校全体の願いが高まり、方法をみんなで話し合っで願いを表現していく。このことが子どもの主体性を育てるすじ道であり、あくまでも教職員は陰にまわってアドバイスしていく形をとっている。

縦割り班の目標に迫るためにも、個々の子の実態をよく把握し、全教職員が協力して、より質の高い縦割り班を育てていきよ。

#### 保健面より

小学校で、もっとも多い疾病異常は、う歯で、広島県においては罹患率昭和58年度 93.4% 沖友小においては100%と、見のがせない保健上の問題点である。本校では前年度より、歯みがきカレンダーへのチェックを足掛りに歯みがき指導を行っている。う歯は、発音、顔、表情への悪影響は、もちろん、身体的発育への影響、精神的に落ち着かないなどと子ども達の健全な発達へのさまたげとなっている。本年度においても歯みがきカレンダーの継続とともに、虫歯予防週間を中心に保健指導を行っている。特に歯に関するアンケート及び歯科検診の結果より、1日3回の歯みがき習慣は、だいたい身につけてきたが、夜の歯みがきを忘れやすいこと、歯のみがき方や時間が不十分でみがき残しが多いこと、その結果、6才臼歯が早期にう歯にかかっている。おやつはスナック菓子、炭酸飲料が多く、飲食後のうがいは、殆んどされていないなどの問題が明らかになった。そこで本年度は、おく歯のみがき方、うがいの効果についても全学年を通して指導し、高学年では歯のために良い食品などの勉強も行っている。また本校は、幼稚園も校内にあり連携がとりやすいので、乳幼児からの正しい歯みがきの習慣化をはかるため、参観の日などを利用し保護者を交じえて、紙芝居や歯みがき指導をし、また音楽にあわせて3分間の歯みがきが自然に身につくよう、給食後は必ず音楽を流して歯みがきをしている。その他年2回の仏素塗布のおり、カラーテストを使って歯のよごれのチェックをし、みがき残しのないよう指導している。しかし残念ながら、無医地区であり、交通の便の悪い沖友地区では、治療を受けにくい現状にある。また町の補助をうけて毎年4～8月は町内の小学生の歯科治療は無料となっているが、子ども達の治療を受けやすい夏休みは、柑橘の害虫予防薬散布の時期と重なり、保護者が多忙でつきそって行きにくいということもあって治療率が低下している。そこで保護者に対して検診後の早期治療を保健だよりや治療勧告用紙によって呼びかけ、子ども達にもクラスごとの治療状況を掲示板に示し、4～8月に治療がされるように取り組んでいる。この外、豊同教健康部会で

も、虫歯予防の小・中学校を通しての保健指導案を立てて、町内の学校が連携をとりながら取り組みができるようにつとめる。

#### 掃除について

旧校舎は、一部二階建てであったが、現在の新校舎は三階建てとなり、掃除場所が広がった。その反面、児童数は減少し、十分手が行き届かない現状である。ここの状況の中で、内掃除は毎日15分間、昼の休憩時間の後に、学年毎に場所を配当して実施している。また、廊下や教室のワックス掛けは、月に一回全校あげて実施している。外掃除については、場所を四区分して、月水金の朝会の前に10分間、幼～6年までの縦割り班で、高学年が低学年をいろいろ助けながら当っている。このように全員が、それぞれの掃除場所に責任をもって取り組んでいる。中には時間内にできなかつたり、遊んでいたりする子どもがいる。そこで、各掃除場所の人数配分とやり方を話し合い、子どもと共に掃除する中で、細かい指導をし、子ども達も、掃除のやり方がだんだんと身についてきている。さらに、今後は17名で能率よく時間内に掃除ができるように、手順を考え、協力して仕事を進めることを身につけさせるように継続して指導していく。また自分たちの学校だから自分たちの手でいつまでもきれいに使うという気持ちを更に育てていきたい。以上のように掃除においても、やはり児童と児童・児童と教職員間に相手を認めあい、協力し合える人間関係を育てていくことが大切である。

学 年	掃 除 個 所	○ = 人数
1 2 年	教室② 2階廊下②	
3 4 年	3 . 4 年教室① 理科室、図書室② 1 . 2 . 3 階段 . 3 階特別室② 3 階廊下①	
5 6 年	5 . 6 年教室① 校長室、保健室、1階廊下① 玄関 ① 体育館②	1 . 2 . 3 階便所① 職員室①

## 体育科学習指導案

沖友小学校 指導者 (1,2年担任) (3,4年担任) (5,6年担任)  
松本智子 松浦良孝 惣明修市

1. 日時 昭和59年10月26日(金)
2. 学年 1,2年(4名) 3,4年(6名) 5,6年(7名) 計(17名)
3. 題材 跳び箱運動
4. 目標

認知的目標 (技能) ○固定施設や器具などを使って、跳び箱では、またぎ越し、踏み越し、腕立て跳び  
上がり降りができるようになる。 (1,2年)

○跳び箱での腕立て開脚跳び、腕立て閉脚跳びができる。 (3,4年)

○跳び箱で、大きな動作で、腕立て跳び越しや、台上前転が調子よくできる。  
(5,6年)

### 態度的目標 (全学年)

- 運動の仕方のきまりをつくり、それを守って運動できる。
- 友達の動きを見たり、自分の動きを見てもらったりして、お互いに注意し合って仲よく運動できる。
- 運動をする場所を整備し、器具、用具の安全を確かめるなど健康、安全に留意して運動ができる。
- 能力に適した課題をつくり、自己の練習目標をはっきりさせ、根気よく練習できる。

### 5. 題材の取り扱い

- 器械運動は、技能の優劣を競う競技スポーツとしてではなく、遊びから入って器具になれ、「できない」状態から、「できる」状態に、「できる」状態から「より上手にできる」状態へと課題の達成を目指すことを中心とした運動である。
- 本校の児童は、休憩時間などでも固定施設を使って遊んでいる姿はあまり見かけない。時々鉄棒をしているのを見かけるくらいである。ましてや、準備のいるマット、跳び箱などは、全くといってよいほど普段の生活ではなじんでいない。
- 指導に当たっては、先ず器具になれさせる為に、体育館に跳び箱を常備しておき、自由にいつでも使えるように配慮する。跳び箱運動の学年毎の段階を追ってできる喜びを味わせたい。

○準備運動，整理運動を全学年合同の縦割り班で行うのは，平素業間体育で柔軟運動，なわとび運動，ゲームなどを行っている形をそのまま取り入れたものである。

6. 学習計画 (1.2年) 時の欄◎=合同体育

次	次目標	時	学習課題	実践活動
1	学習計画のあらましをつかむ	1	学習計画を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の技を見てこれからやる運動を知る。</li> <li>○一つ一つの技のチェックポイントを知る。</li> <li>○プリテスト</li> </ul>
2	またぎ越し，ふみ越し，腕立て跳び上がりおりができるようになる。	◎2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○またぎ越し，踏み越しが上手にできる。</li> <li>・またぎ越しは，両足を大きく開いて遠くへ跳ぶ。</li> <li>・跳び箱を横や縦にして遠くへ高く跳ぶ。</li> <li>・着地はひざをまげ体を小さくして安定させる。</li> <li>・助走から着地までリズムカルに行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のめあてをつかむ。</li> <li>○高学年のまたぎ越しの技を見る。</li> <li>○練習をする。</li> <li>○高学年の踏み越しの技を見る。</li> <li>○練習をする。</li> <li>○相互評価をする。</li> <li>○次時の予告</li> </ul>
		◎3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○腕立て跳び上がり跳びおりができる。</li> <li>・体を伸ばして跳んでおりる。</li> <li>・腕立てでおりる。</li> <li>・うしろむきにおりる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のめあてをつかむ。</li> <li>○高学年の腕立て跳び上がり跳びおりの技を見る。</li> <li>○腕立て跳び上がり跳びおりの練習をする。</li> <li>○相互評価をしながら練習をする。</li> <li>○次時の予告</li> </ul>
3	またぎ越し，踏み越し，腕	4	○2次の学習を活かして，マット・平均台	<ul style="list-style-type: none"> <li>○器具の配置をする。</li> <li>○またぎ越し，踏み越し，腕立て跳び上</li> </ul>

	立って跳び上がりおりが、より上手にできるようになる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・跳び箱を組み合わせ、いろいろな遊びを作り出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がりおりをする。</li> <li>○いろいろな遊びを工夫する。</li> <li>○作り出した遊びをする。</li> <li>○反省と次時の予告</li> </ul>
		◎ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2次の内容がより上手にできるようになる。</li> <li>・全体を通してリズムカルに大きな動作で運動ができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のめあてをつかむ。</li> <li>○またぎ越し、踏み越し、腕立て跳び上がりおりがスムーズにできるよう練習をする。</li> <li>○友だちと直し合いながら、よりうまく運動ができるようにする。</li> <li>○ポストテスト</li> <li>○反省と次時予告</li> </ul>

(3・4年)

1	学習への見通しをつかむ。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○腕立て跳び上がりおり、腕立て開脚跳びをし、学習計画を立てよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プリテスト</li> <li>○練習計画を立て練習する。</li> <li>・練習のめあて(個人・全体)</li> <li>○本時の反省と次時予告</li> </ul>
2	腕立て開脚跳びの基本的な技術を習得しより上手にできるようになる。	◎ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○腕立て跳び上がりおりができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の課題とめあての確認</li> <li>○腕立て開脚跳びの基本を知る。</li> <li>・踏み切りは大きく高く</li> <li>・手は前方に着き手のひら全体でつきはなす。</li> <li>・着地は調子よく</li> <li>○各自課題について練習をする。</li> <li>○本時の反省と次時予告</li> </ul>
		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○腕立て開脚跳びが上手にできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあての確認をし、各自の課題について練習をする。</li> <li>・踏み切り、跳び越し、着地が調子よくできるようになる。</li> <li>○相互評価と次時の予告</li> </ul>

3.	腕立て閉脚跳びの基本的な技術を習得しより上手にできるようになる。	◎ 4 ・5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○腕立て閉脚跳びが上手にできる。</li> <li>・踏み切りは低く</li> <li>・ひざを胸に近く</li> <li>・手を早くはなす</li> <li>・やわらかく着地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の課題とめあての確認</li> <li>○低い跳び箱で1～2歩助走して跳ぶ練習をする。</li> <li>○跳び箱を高くして練習をする。</li> <li>○本時の反省と次時の予告</li> </ul>
4	助走を工夫して腕立て開脚跳び、腕立て閉脚跳びが、大きな動作で調子よくできるようになる。	◎ 6 (本時) 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三つの技の基本ができてきているかチェックして復習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の課題とめあての確認</li> <li>○踏み切り、跳び越し、着地が調子よくできるように練習をする。</li> <li>○自己評価（自己の方向づけ）</li> <li>○各自の課題で練習する。</li> <li>○相互評価（グループの方向づけ）</li> <li>○本時の反省と次時予告</li> </ul>
		8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○腕立て開脚跳び、閉脚跳びが、大きな動作で調子よくできる。</li> <li>・基本技が身についたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の課題とめあての確認</li> <li>○跳び越す時のリズムを身につけるよう練習をする。</li> <li>○高さや踏み切り板の位置を変えて練習をする。</li> <li>○ポストテスト</li> <li>○本時の反省と次時予告</li> </ul>

(5.6年)

1	跳び箱運動のやり方をつかみ、学習計画を立てる。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今までの自分の力をためす。</li> <li>○台上前転のやり方がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プリテストを行う。</li> <li>○学習計画の概要を聞き、あらましを知る。</li> </ul>
2	腕立て開脚跳びがより上手にできるようになる。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○腕立て開脚跳びで、踏み切りから着地まで、大きな動作で調子よく跳ぶようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の課題とめあての確認</li> <li>○腕立て開脚跳びの練習をする。</li> <li>○相互評価をしながら練習をする。</li> <li>○本時の反省と次時予告</li> </ul>

		◎ 3	○踏み切りの距離をのばし、両手を着く位置を決め、着地の距離をのばす。	○本時の課題とめあての確認。 ○めあてを決め、練習の仕方を工夫して自分のわざを伸ばす。 ○相互評価をしながら練習をする。 ○本時の反省と次時予告
		4	○踏み切りから着手までと、つき放しから着地までの動作を大きくして跳ぶようになる。	○本時の課題とめあての確認 ○めあてを決め、練習の仕方を工夫して大きな動作でできるようになる。 ○相互評価をしながら練習をする。 ○本時の反省と次時予告
3	腕立て閉脚跳びがより上手になる。	5	○腕立て閉脚跳びで、踏み切りから着地まで、大きな動作で調子よく跳べるようになる。	○本時の課題とめあての確認 ○腕立て閉脚跳びの練習をする。 ○相互評価をしながら練習をする。 ○本時の反省と次時予告
		◎ 6	○踏み切りの距離をひろげ、体を水平にし、手のつき放しを強くして跳べるようになる。	○本時の課題とめあての確認。 ○体が水平になるように踏み切り、手のつき放しが強くできるように練習をする。 ○相互評価をしながら練習をする。 ○本時の反省と次時予告
		7	○踏み切りから着地までを大きな動作で調子よく跳べるようになる。	○本時の課題とめあての確認。 ○助走→踏み切り→着手→着地が、大きな動作で調子よくできるように練習をする。 ○相互評価をしながら練習をする。 ○本時の反省と次時予告
4	台上前転が、より上手にできるようになる。	8	○踏み切りから着地までが、調子よく回るようになる。	○本時の課題とまとめの確認。 ○台上前転の練習をする。 ○相互評価をしながら練習をする。

		○本時の反省と次時予告
◎ 9 (本時)	○自分の力に合っためあてを決めて、台上前転の技を伸ばす。	○本時の課題とめあての確認 ○強く踏み切り、高く入ること、まっすぐに回ることを重点にして練習をする。 ○相互評価をしながら練習をする。 ○本時の反省と次時予告
10	○大きな動作で調子よくできるようになる。	○本時の課題とまとめの確認。 ○大きな動作(着手の際の膝の位置・台上での回転の大きさ・ひざを伸ばす)で、できるように練習をする。 ○調子よく(スピード・なめらかさ)でできるように練習をする。 ○相互評価とポストテスト。 ○本時の反省と次時予告

# 豊 町 立 久 比 小 学 校

## 研究授業

### 1. 時間配分

10:00	10:30	11:15	11:20	12:05	13:00	14:00
受付	1校時授業	休憩	2校時授業	昼食 アトラクション	研究協議	移動

### 2. 授業内容

学 年	授 業 者	教 科	一 校 時
1 年	小 林 千 浪	算 数	
3 4 年	川 原 祐 子	算 数	
6 年	藤 田 登 喜 子	算 数	
幼 稚 園	石田瑞枝・田中時恵	のりものを作って遊ぶ	
5 年	宮地キヌ子	算 数	

## 久比小学校の子どもへのとりくみ

### 1. 本校の重点研究について

一昨年度、教材、教具の工夫をして、子どもの学習意欲を高めていく研究を進めたが、どのように教師側からお膳立てをしても、真の学習意欲づけには到達しにくいという考えから、みんなで協議し、納得し合える研究主題になったが、「個の問いかけに応え、磨き合う学習集団づくり」である。

ひとりひとりが問題を持ち、それをみんなの前に出し合い、人の考えや意見を自分の考えに吸収しながら問題にとりくませ、自分たちの力でやりとげたという成就感を味わわせて、真の学習意欲を高ゆる授業になるよう研究と実践をすすめている。

この目標を達成するために、子ども達の生活全般から「自分から何かを言ってみようとする子ども」「自分から動いてみようとする子ども」を見つけ出し、その言動が、全員を高めるすばらしいものであると励ましていくことから始めている。

#### ○研究の実践と反省（低・中・高学年）

##### ・低学年 なかまづくり

おはようバズ、さようならバズを大切に、学級内で起った問題を出し合い、これからは、どうしたらよいかを話し合っている。

学習中は、2人～4人で話し合い、それを学級全体に出している。そのことによって進んで発表していなかった子ども、少しずつではあるが積極的になってきている。

自分の意見は言えるようになったが、少人数ということもあってか、話し合いが深まらないこともある。

##### ・中学年 効果的な話し合い学習

話し合いの仕方を身につけさせるために、学級会で身近なことを議題にして話し合い、全員が班で意見を出すことから始めた。班で話し合ったことは、全体に出すようにしてきた。

教科学習にもバズ学習を位置づけ、わからないこと、考えたこと、気づいたこと等を出し合い課題の解決に向けていくことができるようになってきた。

教科学習では互いに支え合い、わからない場合は説明し、間違いを馬鹿にするのではなくそれを大切に、間違いから出発し学ぶことから仲間意識も育ちつつある。

##### ・高学年 個人思考と集団思考

日記を書くことは、主体性を育てることにつながると考えられるので、子どもに毎日の記帳を奨めた。全力を注いでの日記となり、学習や生活に活力が見られるようになった。

ひとりの発言内容に対して、反応していけるようになり、みんなで考えることができるようになった。ひとの意見と自分の意見を相互に関連づけながら、相手が納得してくれるまで話したり、わからないことは聞けるようになり、人間関係を意識するようになった。

### 2. 児童の主体性を育てるために

#### ○体力づくり

日々の体力づくりとして、業間体育を実施している。縦わりの班編成で、学期ごとにグループを組替え、6年生を中心に自主的に行なっている。種目もいろいろ工夫され、記録に挑戦しており、充実してきている。

体力や運動能力の差をお互いが、励まし合ったり、助けあったり、仲間づくりもできている。しかし、縦わり集団の活動では、時間も少ないということもあって、高学年の運動量が少ないように思われる。

#### ○児童会の育成

教師に指示されて、ようやく動く児童会ではなく、児童の力で企画、運営のできる児童会をめざしている。

児童会は、児童みんなの会であることを自覚し、みんなが躍動する学校にするためにも児童会を除いては考えられない。

##### ・目 標

- ア 自他を尊重する生き方を確立していく。
- イ 学校生活にみられる問題を解決していく。

##### ・実践目標

- ア 友だちと協力して共に楽しさがわかる。
- イ ものごとをやり遂げたときの喜びを味わう。

##### ・企画実践

- ア 児童委員会 (月1回)
- イ 児童総会 (学期2回)

これらを確実にもつことにより、低学年も高学年と対等の立場で発言でき、各学級からの生の声が学校全体のものとなり、久比小学校を自分たちの学校と意識し、よくしていこうとする態度が芽生えている。

- ・児童委員会での要求を教職員が大切にすることが、児童会を活性化させることになった。そこで、教職員の構えの大切さを反省している。
- ・小運動会、読書感想文発表会等、教師の手をかりすに、やりとげ、自分たちの手でやれるという自信がついてきた。

#### ○生活指導

##### ・目 標

- ア みんなの生活が、よりよくなるための仕事を見つけることのできる子ども。
- イ すすんでみんなのために働く子ども。

##### ・月別努力目標

月	項目	目 標
4	美化	学校を美しくしよう。

5	規律	きまりを守ろう。
6	衛生	からだをせいけつにしよう。
7	不屈	さいごまでがんばろう。
8	自主	計画を立てて実行しよう。
9	健康	からだをきたえよう。
10	学習	おちついて勉強しよう。
11	勤労	進んでお手伝いしよう。
12	親切	気もちよく助けあおう。
1	礼儀	礼儀正しくしよう。
2	素直	人の教えをよくきこう。
3	感謝	感謝の気持ちを表わそう。

○音楽朝会・発表朝会

・音楽朝会は、毎週水曜日、8時10分から8時20分までの10分間、全児童が体育館に集まり合唱を行なっている。選曲、指揮、伴奏と児童が自主的に活動し、児童なりの工夫が見られ、主体性も育ってきている。

・発表朝会は、毎週金曜日の8時10分から8時20分までの10分間、各学年とも平素学習していることを基にして、工夫した発表をしている。低学年の発表を見ることも楽しみにしており、朝会への参加態度もよく、他学年の発表を見て、自分たちはどんな発表をしようかと自主的に考える児童もでてきている。また、児童の表現が少しずつではあるが、豊かになってきた。

週 間 ・ 月 間 行 事 計 画

週 間					月 間
曜	こ と が ら	内 容			
月	全校朝会	訓 話 週番活動等 ラジオ体操	朝 の 自 主 活 動	業 間 体 育	・火曜日 特別教育活動  ・月始め 安全点検 貯蓄活動  ・月曜日と毎月一日 交通安全活動 街頭指導
火	おはようバズ	一日の努力目標 (各自のがんばり)			
水	音楽朝会	歌のけいこ			
木	おはようバズ	一日の努力目標 (各自のがんばり)			
金	発表朝会	学年創意工夫による 発表			
土	おはようバズ	一日の努力目標 (各自のがんばり)			

## 算数科学習指導案

指導者 小林千浪

1. 日時 1984年10月26日(金) 第1校時
2. 学年 第1学年 男子4名・女子7名 計11名
3. 単元 ひきざん(2)
4. 目標

認知的 ○(十何)−(1位数)で、繰り下がりのある場合(差が1位数)の計算ができるようにし、その計算の習熟をはかる。

○繰り下がりのあるひき算の適用問題が解けるようにする。

態度的 ○自分の考えをはずかしがらずに言うことができ、友だちの考えも聞くことができる。

### 5. 単元の取り扱い

- (十何)−(1位数)で、繰り下がりのある場合の計算のしかたとしては、数えひく、補加法、減々法などが考えられるが、理解しやすいということと、今後の暗算、筆算、珠算などに広く利用できるということで減加法によって算法の形式化をはかるようにしている。

減加法では、次のような数観念が計算の基礎となっている。

・減数の、10に対する補数を見つけること(10は9と□)

・3口の数の計算を頭の中ですること( $13 - 9 = 10 - 9 + 3$ )

これらのことを抽象的、形式的に理解することはやさしいことではないので、実際の指導では、あくまで具体的な操作をとおして、実証的に理解させることが重要である。

- 本学級の児童は、1学期に(1位数)+(1位数)=(10以下の数)と(10以下の数)−(1位数)の計算を学習し、繰りかえし練習をしたり、おはじきで考えたり、カードを使ったりして、計算できるようになっている。また、すでにひき算の意味についても学習している。だが、被減数と減数の区別がまだはっきり意識できない子どももいる。そのような実態をとらえて、ひき算の意味をより確かなものにさせたい。

- 指導にあたっては、記数法の理解に基づいているわけなのでおはじきを利用して具体的な操作で考えさせ、操作を通して結果を求める考え方を大切にしていきたい。

- 適用題にあたっては、1人で考えさせ次に、みんなで考えを出しあいながら学習していきたい。

### 6. 下位目標

- ①(十何)−(1位数)で、繰り下がりのあるひき算を具体的なもの(おはじき)を操作して解決できるようにさせる。
- ②(十何)−(1位数)で、繰り下がりのあるひき算を具体的なものを使わずに解決できるようにする。

③ 適用題から式をたてて計算できるようにする。

7. 学習課題

- ①-1 減数が6以上の場合のひき算をおはじきを使って答えを求める。
- ①-2 減数が5以下の場合のひき算をおはじきを使って答えを求める。
- ②-1 減数が6以上の場合のひき算を念頭で抽象数によって解決する。
- ②-2 減数が5以下の場合のひき算を念頭で抽象数によって解決する。
- ③ 適用題を読んで式をたてて答えを求める。

8. 学習計画(9時間)

時	学習課題	実践活動
1	ブリテスト	<p>○減数が6以上の場合のひき算, 5以下の場合のひき算や適用題のテストをする。</p>
2	①-1	<p>○13-9をかきの切りぬきやおはじきを使って答えを求め, 計算のしかたを発表する。</p> <p>○13-9を10のおはじき板を使って, 口で「10から9をひいて1と3で4」と唱えながら, おはじきを操作して答えを求める。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>○11-8, 12-7を10のおはじき板を使って, おはじきを操作しながら答えを求め, 算法に慣れる。</p>
3	②-1	<p>○14-8, 13-6を算法の形式で, 具体的なものを使わずに答えを求める。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p>14-8</p> <p>10から8をひいて2 2と4で6</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;"> <p>13-6</p> <p>10から6をひいて4 4と3で7</p> </div> </div> <p>○抽象数のひき算に慣れる。</p>
		<p>○12-5, 11-3をおはじきを使って答えを求め, 計算のしかたを</p>

4	①-2	発表する。 ○抽象数のひき算に慣れる。
5	②-2	○抽象数のひき算練習をする。 ○計算練習をする。
6	③	○問題を読んで大切なところに線をひく。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 12人あそんでいました。  4人かえった。  あとに何人のこったか。 </div> ○立式する。 $12 - 4 = 8$ 口で唱えながらおはじきを操作して、答えを求める。 ○立式したものを解かめ合う。  ○適用題の練習をする。
7	②-1 ②-2	○ひき算のカードを使って、計算練習をする。
8	②-1 ②-2 ③	○ひき算のカードを使って、ゲームをする。 ・いってごらん ・かあどとり ・おおきさくらべ ○計算練習をする。 ○適用題をする。
9	ポストテスト	○ポストテストをする。

# 算数科学習指導案

指導者 川原 祐子

1. 日時 1984年10月26日(金) 第1校時
2. 学年 第3, 4学年(複式学級) 3年 男子3名 女子4名  
4年 男子4名 女子6名 計17名
3. 単元 3年 三角形 4年 面積
4. 目標  
認知的

3年	4年
<ul style="list-style-type: none"> <li>○正三角形, 二等辺三角形の概念を理解させ, その作図ができるようにする。</li> <li>○三角形と関連して角を知らせ, その大小や相等関係が, とらえられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○面積の概念を明らかにし, 面積の単位 <math>1\text{cm}^2</math>, <math>1\text{m}^2</math>, <math>1\text{Km}^2</math> を理解させる。</li> <li>○長方形, 正方形の面積の求め方とその公式を理解させ, これを用いることができるようにする。</li> </ul>

## 態度的

<ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちの考えや意見をよく聞き, 自分の考えがはっきりと言える。</li> <li>○3人あるいは4人のグループで, 主題にそって, 十分な話し合いができる。</li> <li>○相手の話で, わからない部分について, 質問することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちの考えや意見を自分の考えと比較しながら聞き, 自分の考えを順序よくまとめ言うことができる。</li> <li>○3人あるいは4人のグループで, みんなが積極的に話し合える。</li> <li>○相手の話で, わからない部分について, 質問することができる。</li> </ul>
---	--

## 5. 単元の取り扱い

### 3年 三角形

○本単元は, 三角形の中でも基本的な正三角形と二等辺三角形について, それらの類似点, 相違点を考察し, それと関連づけてそれらの作図が, 方眼紙・コンパスを用いてできるようにする。また, 角について知り, 直観的, あるいは直接比較によって, 角の大小をとらえることができるようにするのがねらいである。

二等辺三角形, 正三角形の概念を理解させるには, 辺の長さに着目させることが必要であるが, これは子どもにとって, そう簡単なものではないと思われる。長方形, 正方形の学習

でも辺の長さに着目させている訳ではあるが、これは豊かな経験に基づく直観的な弁別の傾向が強く、辺の長さの相等関係がしっかりと意識づけられているとはいえない。角の大きさに着目させることも同様である。したがって、次の学年における学習への発展も考えて、平面図形を考察するときの重要な観点として辺の長さや角の大きさに着目することの意味をしっかりと理解させることが大切である。

○本学級の児童は、図形の学習については、具体的操作、作業を伴うということもあってか興味深いようである。が、その反面、コンパスや定規の使用に慣れさせていないため、作図には時間がかかるものと思われる。

話し合い活動については、3人～4人の班でバズを行なっている。班での学習は、全員が必ず発言できるようになってきており、発表の時も協力し、工夫して発表するようになってきた。一人学習では、個人差はあるが、各自が自分の考えをノートに書けるようになってきている。

○指導にあたっては、「正三角形と二等辺三角形」「角」の2つの小単元が相互に関連をもっていることを十分にふまえて取り扱うことが大切である。

正三角形、二等辺三角形の概念を理解させるために、作業を中心にして展開していきたい。特に、辺の相等関係に着目させる時は、長さごとに色をかえ、長さの相等が視覚的にとらえられるようにしたい。角についても、切ったり折ったりの具体的操作をとおして、二等辺三角形や正三角形の角の性質に気付かせたい。

作図に関しては、本学年は、コンパスや定規を使った作図が始まる学年であるため、作図用具を正しく使う技能や、ていねいに作図しようとする態度を身につけさせたい。

#### 4年 面積

○単位のもので、すき間なくいくつ並べられるかということが面積の基本である。このような視点から、面積の単位量の必要性を認めさせ、1辺が1cmの正方形を、面積の単位(1cm<sup>2</sup>)として用いることを指導する。また、長方形、正方形の面積の求め方とその公式を理解させ、これを用いることができるようにすることをねらいとしている。

○本学級の児童は、量の大きさを数で表すような数量的なとらえ方を図形にあてはめるのは最初であり、広さを数値で表すことに抵抗を覚えると思われる。

話し合い活動については、3人～4人の班で、バズを行なっている。話し合いの中心が固定しがちであったが、リーダーを輪番制にする等の取り組みの中で、次第に、ひとりひとりの意見がはっきりと班の中に出せるようになってきた。

○指導にあたっては、広さくらべから面積の概念を導入するのだが、⑦見てくらべる ④重ねてくらべる ⑤方眼紙の上に置いてくらべるなどの具体的操作を十分に経験させたい。また、面積の公式については、形式的に公式を用いて面積を求めることをいそがず、公式を生み出す過程、つまり単位面積の個数を調べることを重視し、その後個数を計算する手段として「縦×横」「1辺×1辺」とすればよいことを理解させ、公式を導き出すようにしたい。

## 6. 下位目標

### <3年>

- ① 三角形の概念を理解させる。
- ② 正三角形，二等辺三角形の概念を理解させる。
- ③ 二等辺三角形，正三角形の作図ができるようにする。
- ④ 角の概念を理解させる。
- ⑤ 角の大小・相等を直観や直接比較（重ね合わせる）で判断できるようにする。
- ⑥ 二等辺三角形，正三角形の角の性質を理解させる。

### <4年>

- ① 長方形，正方形における面積の概念を理解させる。
- ② 面積の単位（ $1\text{cm}^2$ ， $1\text{m}^2$ ， $1\text{km}^2$ ）と，その相互関係を把握させる。
- ③ 長方形，正方形の面積の求め方を理解させ，さまざまな正方形，長方形に求積公式の適用ができるようにする。
- ④ 面積の公式を利用して，いろんな形の面積や辺の長さを求めることができる。

## 7. 学習課題

### <3年>

- ①-1 さまざまな図形の中から三角形を選び出す。
- ①-2 ひごを使っていろいろな三角形を作る。
- ②-1 辺の長さに目をつけて，三角形を分ける。
- ②-2 どういう三角形が，正三角形か説明する。
- ②-3 どういう三角形が，二等辺三角形か説明する。
- ③-1 ひごを用いて，正三角形，二等辺三角形を作る。
- ③-2 コンパスを用いて，正三角形，二等辺三角形を作図する。
- ④-1 角と呼べるものと角と呼べないものを分ける。
- ⑤-1 角の大小・相等を直観や直接比較で判断できる。
- ⑥-1 二等辺三角形，正三角形を作図し，切り取って角の異同を比較する。
- ⑥-2 二等辺三角形の角の性質について説明する。
- ⑥-3 正三角形の角の性質について説明する。

### <4年>

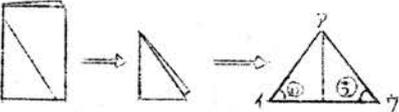
- ①-1 正方形と長方形の面積の大小判断を行なう。
- ②-1 面積の単位（ $1\text{cm}^2$ ， $1\text{m}^2$ ， $1\text{km}^2$ ）を覚える。
- ②-2 面積は単位をもとにして表すことができることを知る。
- ②-3 面積の単位相互の関係を理解する。
- ③-1 方眼の目の数を数えて，長方形，正方形などの面積を求める。

- ③-2 長方形，正方形の面積の公式を導き出す。
- ③-3 さまざまな正方形，長方形に面積の公式を適用して求積する。
- ④-1 面積の公式を利用して，いろいろな形の面積や辺の長さを求める。

8. 学習計画

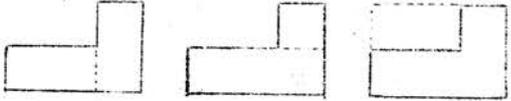
3年（9時間）

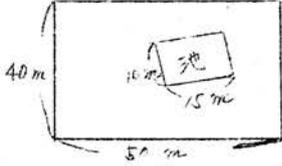
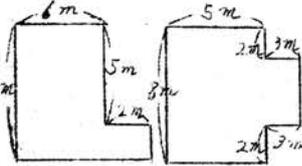
時	学習課題	実践活動								
1	ブリテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブリテストにとりくむ。</li> <li>○単元の見通しを与える。</li> </ul>								
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>① - 1</li> <li>① - 2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いろいろな図形の中から三角形を選び出す。</li> <li>○4種類 12本のひこの中から任意に3本を選んで，形のちがった三角形をいろいろ作る。</li> </ul> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>3cm</td> <td>3本(赤)</td> <td>5cm</td> <td>3本(緑)</td> </tr> <tr> <td>4cm</td> <td>3本(黄)</td> <td>6cm</td> <td>3本(青)</td> </tr> </table>	3cm	3本(赤)	5cm	3本(緑)	4cm	3本(黄)	6cm	3本(青)
3cm	3本(赤)	5cm	3本(緑)							
4cm	3本(黄)	6cm	3本(青)							
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>② - 1</li> <li>② - 2</li> <li>② - 3</li> <li>③ - 1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時に作った三角形を，辺の長さ目をつけて分ける。</li> <li>・3つの辺の長さが，みんな同じ三角形</li> <li>・2つの辺の長さが，同じ三角形</li> <li>・辺の長さが，みんなちがう三角形</li> <li>○三角形のうち，3辺が等しいものを「正三角形」2辺が等しいものを「二等辺三角形」と呼ぶことを知る。</li> <li>○前時のひごを使って，いろいろな正三角形や二等辺三角形を作る。</li> </ul>								
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ - 1</li> <li>③ - 2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○辺の長さが，4cm，6cm，6cmの二等辺三角形をかく。</li> <li>・各自が自由に試みる。</li> <li>・ひごを使って三角形を作る。</li> <li>・コンパスを使って作図する。</li> <li>( i ) 4cmの辺をかく。</li> <li>( ii ) 辺の両端を中心にそれぞれ6cmの円弧をかいてその交点を求める。</li> <li>( iii ) 交点と辺の両端を結ぶ。</li> <li>○二等辺三角形，正三角形をかく練習をする。</li> </ul> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>・6cm，4cm，4cm</td> <td>・5cm，5cm，5cm</td> </tr> </table>	・6cm，4cm，4cm	・5cm，5cm，5cm						
・6cm，4cm，4cm	・5cm，5cm，5cm									

5	② - 1 ③ ③ - 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○練習問題をする。</li> <li>・辺の長さに着目して二等辺三角形，正三角形を見つける。</li> <li>・方眼紙を利用した二等辺三角形の作図</li> <li>・コンパスを使った正三角形，二等辺三角形の作図</li> </ul>
6	④ - 1 ⑤ - 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三角形のかどの形に着目させ，「角」の用語を知らせる。</li> <li>○図を見て，角と呼べるものと呼べないものを分ける。</li> <li>○図を見て，直観的に角の大小比較をする。</li> <li>○三角定規の角の大小比較をする。</li> <li>・見当をつけた後，重ねて比較する。</li> </ul>
7	⑥ - 1 ⑥ - 2 ⑥ - 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○画用紙の上に，3辺が6 cm，8 cm，8 cmの二等辺三角形を作図し，切りとって，三角形の底辺の両端の角の大きさをくらべてみる。</li> <li>○二等辺三角形では，2つの角が等しくなっていることをまとめる。</li> <li>○画用紙の上に，一辺が6 cmの正三角形を作図し，切りとり，三つの角の大きさをくらべてみる。</li> <li>○正三角形では，3つの角が等しくなっていることをまとめる。</li> </ul>
8	② - 2 ② - 3 ⑥ - 1 ⑥ - 2 ⑥ - 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○練習問題をする。</li> <li>・作業を通して，二等辺三角形の理解（二等辺三角形では2辺が等しく，2角も等しい）をよく確かなものにする。</li> </ul> <p>〔作業〕</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・正三角形，二等辺三角形の用語の理解をたしかめる。</li> </ul>
9	ポストテスト	○ポストテストにとりくむ。

4年（11時間）

時	学習課題	実 践 活 動
1	ブリテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブリテストにとりくむ。</li> <li>○単元の見通しを与える。</li> </ul>

2	① - 1 ② - 1 ② - 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3 cmと 5 cmの長方形のカードと 1 辺 4 cmの正方形のカードの広さをくらべる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直観的にくらべる。</li> <li>・ 重ねてくらべる。</li> <li>・ 1 目が 1 cmの方眼紙の上においてくらべる。</li> </ul> </li> <li>○ 面積という用語を知る。</li> <li>○ 1 辺が 1 cmの正方形の面積が、1 平方センチメートル <math>1 \text{ cm}^2</math>、<math>1 \text{ cm}^2</math>は面積の単位であることを知る。</li> <li>○ カードなどの面積は、<math>1 \text{ cm}^2</math>がいくつならべられるかで表すことを知る。</li> <li>○ <math>\text{cm}^2</math>を書く練習をする。</li> </ul>
3	③ - 1 ③ - 2 ③ - 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 方眼上の図形の面積を、<math>1 \text{ cm}^2</math>の正方形の数を数えて求める。</li> <li>○ きめられた広さ (<math>4 \text{ cm}^2</math>)の形を方眼上にかく。</li> <li>○ 長方形や正方形の面積を求めるとき、単位面積 (<math>1 \text{ cm}^2</math>の正方形)の個数がいくつあるか、どのように計算するとはやく求められるか考え、公式を導き出す。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">面積の公式</p> <p style="text-align: center;">長方形の面積 = たて <math>\times</math> 横</p> <p style="text-align: center;">正方形の面積 = 1 辺 <math>\times</math> 1 辺</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公式を使って、長方形・正方形の面積を求める。</li> </ul>
4	④ - 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ L字型の図形の面積を求める。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長方形の面積と横の長さがわかっているときに、縦の長さを求める。</li> </ul>
5	③ - 1 ③ - 3 ④ - 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 練習問題をする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 方眼上の図形の面積を求める。</li> <li>・ 公式を使って、長方形・正方形の面積を求める。</li> <li>・ 公式を使って、辺の長さを求める。</li> </ul> </li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 縦が 5 m、横が 7 mの長方形のすな場の面積を求める。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>\text{cm}^2</math>で求める。</li> </ul> </li> </ul>

6	② - 1 ② - 3 ③ - 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 辺が 1 m の正方形の面積は、1 平方メートル <math>1 m^2</math>、<math>1 m^2</math> は面積の単位であることを知る。</li> <li>○ <math>m^2</math> を書く練習をする。</li> <li>○ <math>1 m^2 = 10000 cm^2</math> であることを知る。</li> <li>○ すなわちの面積を <math>m^2</math> で求める。</li> </ul>
7	③ - 3 ④ - 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 面積の公式を用いて、<math>m^2</math> 単位で長方形、正方形の面積を求める。</li> <li>○ 長方形の畑の面積を求める。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公式を使って、辺の長さを求める。</li> </ul>
8	② - 3 ③ - 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長方形の面積を求めて、長さの単位と面積の単位の間を関係を考え、まとめてみる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>長さの単位が <math>cm</math> のときは、面積の単位は <math>cm^2</math>        長さの単位が <math>m</math> のときは、面積の単位は <math>m^2</math></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長さの単位が異なる場合の長方形の面積を求める。          ・ はば <math>150 cm</math>、長さ <math>4 m</math> のろうか</li> </ul>
9	② - 1 ② - 3 ③ - 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 辺が <math>1 km</math> の正方形の面積は、1 平方キロメートル <math>1 km^2</math>、<math>1 km^2</math> は面積の単位であることを知る。</li> <li>○ <math>km^2</math> を書く練習をする。</li> <li>○ 南北 <math>4 km</math>、東西 <math>2 km</math> の長方形の形をした町の面積を求める。</li> <li>○ <math>1 km^2 = 1000000 m^2</math> であることを知る。</li> </ul>
10	③ - 3 ④ - 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 練習問題をする。</li> <li>・ 長方形の面積を公式を使って求める。</li> <li>・ いろいろな形の土地の面積を求める。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div>
11	ポストテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ポストテストにとりくむ。</li> </ul>

# 算数科学習指導案

指導者 藤田 登喜子

1. 日時 1984年10月26日(金) 第1校時
2. 学年 第6学年 男子9名 女子7名 計16名
3. 単元 対称図形
4. 目標

認知的 ○いろいろな図形を折り曲げたり、まわしたりする活動を通して、図形の対称性に目を向けさせ、線対称、点対称の図形の性質を発見させる。

○既習の基本図形を対称性という観点から見直させ、図形の見方を豊かにさせる。

態度的 ○自分の意見を持ち、話し合い活動に参加し、考えを深めていく。

○協力して課題を解決していく。

## 5. 単元の取り扱い

○平面上の合同変換に相当する操作は、低学年から折り紙・切り紙、2つの図形の比較方眼紙上での作図など図形指導の中で取り扱ってきているが、本単元では、この操作を数量的に考察したり、論理的に考察したりする能力を伸ばすことをねらいとしている。

○本学級の児童は、能力差が大きい。学習の中で、必要に応じて操作活動を取り入れてきたが、個人によって操作の早さに差がでてきたり、具体的操作だけで終わってしまい数学的な考え方とつながらない児童もいる。

また、バズ学習を充実させるためにも、ひとりひとりの意見が大切であるので、ひとり学習の後、ノートに自分の考え、意見をメモさせるようにしている。まとめ方としては、まだ不十分な点が多いが、以前に比べて少しずつではあるが、進歩してきている。

○指導にあたっては、「二つに折ってきちんと重なる図形を線対称の図形という」というように具体的な操作活動から始めて、線対称の概念の理解まで高めるようにしていきたい。点対称の図形についても、一つの図形をある点のまわりに $180^\circ$ 回転させる活動を行なう中でもとの形にきちんと重なることを知らせたい。

線対称、点対称の図形の性質を発見させるとともに、対称性が図形の美しさにつながることを体感させたい。また、これまで別々に学習してきたいろいろな図形に関連をもたせ統合的な見方ができるようにしていきたい。

## 6. 下位目標

- ① さまざまなもようや図案を移動の観点にたって考察させる。
- ② 線対称の図形を理解させる。
- ③ 点対称の図形を理解させる。
- ④ 線対称、点対称の観点から、基本図形の性質を理解させる。

## 7. 学習課題

- ① さまざまなもようや図案の中から、2つに折ってきちんと重なる図形や、まわしてきちんと重なる図形を選び出す。
- ②-1 線対称図形の性質をあげる。
- ②-2 線対称図形の作図をする。
- ③-1 点対称図形の性質をあげる。
- ③-2 点対称図形の作図をする。
- ④-1 四角形について、対称の観点から考察する。
- ④-2 三角形について、対称の観点から考察する。
- ④-3 正多角形について、対称の観点から考察する。

8. 学習計画(9時間)

時	学習課題	実践活動
1	ブリテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テストに取り組む。</li> <li>○ テストと教科書を見て学習内容を知る。</li> </ul>
2	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図案やもようを見て、2つに折ってきちんと重なる図形は どれか調べる。</li> <li>○ 図案やもようについて、まわしてきちんと重なる図形は、どれか調べる。</li> </ul>
3	②-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2つ折りの紙から図形を切り抜こう。</li> <li>○ 切り抜いた形からどんなことがわかるだろうか、グループで話し合ってみよう。</li> <li>○ 線対称(直線について対称)、対称の軸という用語を覚える。</li> <li>○ 線対称、対称の軸とは、どういう意味なのか考える。</li> <li>○ 各自が切り抜いた対称図形について、グループで互いに、対称の軸、対応する点、対応する線をいひあう。</li> <li>○ 教科書4ページのもようの中から線対称の図形を選び出す。</li> </ul>
4	②-1 ②-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 対称図形について調べる。</li> <li>○ 対応する2つの点をむすぶ直線は、対称の軸とどのように交わっているか確かめる。</li> <li>○ 交わる点から対応する2つの点までの長さ確かめる。</li> <li>○ 線対称図形の性質をまとめる。</li> <li>○ 線対称図形の性質を使って、線対称図形をかく。</li> </ul>

5	③ - 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○方眼紙に図をうつしとり，切り抜く。</li> <li>○切り抜いた図を180°回転させ，できた全体の形について，考察する。</li> <li>○点について対称（点対称），対称の中心という用語を覚える。</li> <li>○線対称と点対称の区別をはっきりする。</li> <li>○切り抜いた図から，対応する点や線をいいう。</li> <li>○教科書4ページのもようの中から，点対称の図形を選び出す。</li> </ul>
6	③ - 1 ③ - 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○点対称図形について調べる。</li> <li>○対応する2つの点をむすんだ直線は，対称の中心を通るか確かめる。</li> <li>○対称の中心から対応する2つの点までの長さはどうなっているか，長さを比較する。</li> <li>○点対称図形の性質をまとめる。</li> <li>○点対称図形の性質を使って，点対称図形をかく。</li> </ul>
7	④ - 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平行四辺形，長方形，ひし形，正方形の4つの四角形について，対称の軸，対称の中心を確認し，線対称であるか，点対称であるかどうか確認する。</li> <li>○確認したことを表にまとめる。</li> <li>○対称の軸が1本だけある四角形をかいてみる。この四角形は点対称になっているか調べる。</li> </ul>
8	④ - 2 ④ - 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三角形で，線対称になっているのは，どんな三角形か調べる。</li> <li>○正三角形には，対称の軸が何本あるか確認する。</li> <li>○点対称になっている三角形があるかどうか調べてみよう。</li> <li>○正多角形について，線対称であるかどうか，対称の軸の数，点対称であるかどうか調べ，表にかき入れる。</li> </ul>
9	ポストテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ポストテストをする。</li> <li>○線対称，点対称の意味の理解を深める。</li> </ul>

# 算数科学習指導案

指導者 宮地 キヨ子

1. 日時 1984年10月26日(金) 第2校時
2. 学年 第5学年 男子9名 女子14名 計23名
3. 単元 面積
4. 目標

- 認知的
- 既習の正方形や長方形の求積方法や公式を基にそれを用いて面積が求められることができる。
  - いろいろな求積方法に着目することができる。
  - 図形の一部を移動したり、等積変形するなどして、既習の図形の面積と関連づけてみるといった見方や考え方をしようとする。
  - 人の意見や考えをよく聞いて自分の考えを組み立てようとする。

## 5. 単元の取り扱い

- 前学年では面積の概念と長方形や正方形の求積について指導してきている。この学年では、いろいろな基本的な図形の面積も必要な部分の長さを測りそれを用いて計算によって求められることを理解させることが主なねらいである。

三角形、四角形、多角形などの面積を求める指導では、単に公式を覚えさせるだけでなく既習の正方形、長方形などの求積をもとにして公式を作り出させるとともに、その過程で論理的な考え方を育てるように留意することが大切である。

図形の面積を求める指導では、次のような考えに注目させるようにする。

- ① 図形の一部を移動して既習の図形に等積変形しようとする考え
- ② 既習の図形の半分とみる考え
- ③ 既習の図形に分割しようとする考え

なお、三角形や平行四辺形の求積では底辺を適当にきめるとそれに伴って高さが考えられることを理解させることも大切なことである。

- 児童は4年までの学習の中で色紙を折ったり画用紙を切ったりして直角三角形を作った経験がある。また、5年になって長方形が1本の対角線で2つの合同な直角三角形に分かれるという学習もしてきている。しかし、ここでは切って重ねるとぴったり合りという指導しかしていない。

本単元では、まず、直角三角形の面積の求め方を考えさせるのであるが、実物大の三角形や方眼紙を持たせて直角三角形の面積が長方形の面積の半分であることを発見させたい。

直角三角形の求積から、三角形→四角形→平行四辺形→台形 という教科書通りの指導の流れを取り上げた。

三角形から導入すると三角形の求積にやゝ時間がかかるかもしれないが多角形の求積では、多角形を三角形に分割して求積するという一般的な方法を早期からしかも一貫してと

ることができると思う。

- 本学級の児童は一斉学習からバズ学習へと移行した場合、とても生き生きとし勉強が楽しい！と言いだした。「先生にしゃべられてはじっとしているだけなのでおもしろくない。みんなで話し合うのがいい」と殆どの児童が生き生きと学習する。また、短期間でかなりな方法も身につけて来たので各科に於てバズをとり入れ、自分達の勉強なんだと行動するようになった。そしてまた、班の運営についても友達ひとりひとりを意識しだし班員への気くばりも出てきたし、みんなでわかっていこうとする意欲も見えだし、四月当初では予想もできなかった友達関係も深まりつつある。

本校の研究主題である「個の問いかけに応え磨き合う学習集団づくり」へもなかなか近づくことはできないが「私はここまでしかわからんけど…」と内容や価値はさまざまではあるがみんなの前に出したり問いかけたりすることができるようになってきた。

しかし、その出し合った4人分を全体への発表にうまくつないでいくことができず、今後は全体発表については内容的にも時間的にも機能的な動きができるようにさせたい。

#### 6. 下位目標

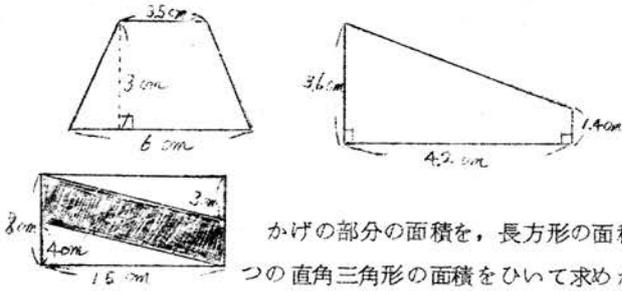
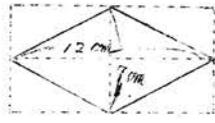
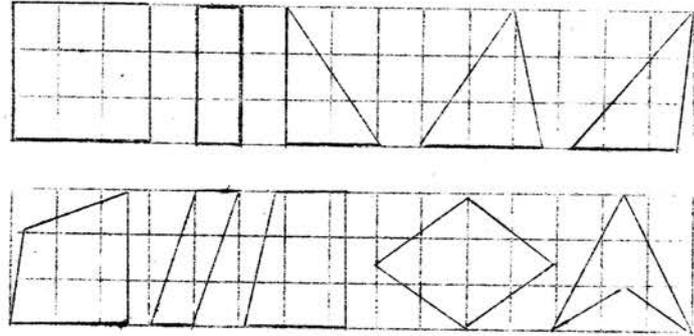
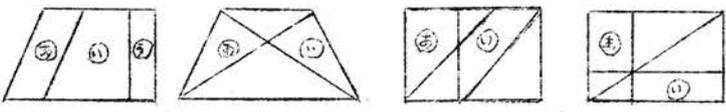
- ① 正方形や長方形の求積公式が小数を含む場合にも適用できることを理解させる。
- ② 正方形や長方形の面積をもとに三角形の面積の求め方を理解させる。→公式
- ③ 三角形の求積公式をもとに四角形の求積方法を理解させる。
- ④ 平行四辺形の求積方法を理解させ、公式の適用ができるようにする。
- ⑤ 台形の求積方法を理解させ、公式の適用ができるようにする。
- ⑥ 正方形、長方形、三角形、平行四辺形、台形の求積公式を用いてさまざまな図形の面積を求めることができるようにする。

#### 7. 学習課題

- ① 正方形、長方形の求積公式を用いて、小数を含む場合の面積を求める。
- ②-1 正方形、長方形の面積をもとに直角三角形の求め方を考えて公式を導き出す。
- ②-2 三角形の求積公式をさまざまな三角形に適用して面積を求める。
- ③ 三角形の求積公式を用いてさまざまな四角形の面積を求める。
- ④-1 平行四辺形の求積方法を考え、公式を導き出す。
- ④-2 さまざまな平行四辺形に公式を適用して面積を求める。
- ⑤-1 台形の求積方法を考え、公式を導き出す。
- ⑤-2 さまざまな台形に公式を適用して面積を求める。
- ⑥-1 正方形、長方形、三角形、四角形、平行四辺形、台形、ひし形の求積公式を用いてさまざまな図形の面積を求める。
- ⑥-2 いろいろな図形の面積を比較し、大小、異同判断を行う。

8 学習計画(14時間)

時	学習課題	実践活動
1	ブリテスト	ブリテストをする。
2	単元を見通す	教科書P24からP35(面積)までに眼を通し, どのような勉強かを, 個人, グループ, 全体でとらえる。
3	〃	個人の学習課題, グループの学習課題, 全体の学習課題をさぐりながら, 今後の学習への方向づけをする。
4	①	面積を求めることは, 単位の正方形( $cm$ )がいくつとれるかを調べたことを思い起こす。 辺の長さが小数になった場合はどうしたら求められるかを見つける。
5	② - 1	作業用の図にかき込んだり, 切りとって並べるなど自由に操作する。合同な三角形に着目したり, 図形の一部を移動して長方形に変形させながら三角形の面積を求める公式を見つける。
6	② - 2	さまざまな三角形の底辺や高さについて知り, 公式を適用しながら三角形の面積を求める。
7	③	四角形の面積は, 2つの三角形に分割すれば求められることに着目し, 対角線を底辺とする2つの三角形の面積を求める。
8	④ - 1	対角線によってできる2つの三角形は合同であることに気づき, 三角形の面積を2倍にして平行四辺形の面積を求める。 平行四辺形の底辺, 高さの用語を知り, 面積の求め方を公式にまとめる。
9	④ - 2	高さが図形の内側にある場合。高さが図形の外側にある場合。高さが図形の外側にあっても底辺の位置をかえて高さが図形の内側にくるようにして考える場合等, 公式を適用して平行四辺形の面積を求める。
10	⑤ - 1	台形を対角線で2つの三角形に分けて面積を求める。 同じ台形を実際に操作して2つ合わせると平行四辺形になることを

		<p>知り，できた平行四辺形の面積を2で割って台形の面積を求める。        上底，下底，高さの用語を知り，計算式から台形の面積を求める公式をまとめる。</p>
11	⑤ - 2	<p>○ 方向を変えて置かれた台形の面積を求める。</p>  <p>かけの部分の面積を，長方形の面積から2つの直角三角形の面積をひいて求めたり，かけの部分は1組の辺が平行になっていることから，台形と考えて面積を求めたりする。</p> <p>○ 全体から部分をひく考えを適用して，ひし形の面積を求める公式を導き出す。</p> 
12	⑥ - 1	<p>正方形，長方形，三角形，四角形，平行四辺形，台形，ひし形などさまざまな図形の面積を求める。</p> 
13	⑥ - 2	<p>図形が等積であることを論理的に考察する。</p> 
14	ポストテスト	<p>ポストテストをする。</p>

# 豊 町 立 豊 小 学 校

## 研究授業

### 1. 時間配分

10:00	10:30	11:15	11:25	12:10	13:00	14:00
受付	1校時授業	休憩	2校時授業	昼食	研究協議	移動

### 2. 授業内容

学 年	授 業 者	教 科	単 元
1 年	土 井 紀美子	国 語	くじらくも
1 年	小 草 ハツミ	算 数	たし算 (2)
4 年	赤 川 治	国 語	ごんぎつね
5 年	大 田 利 彦	算 数	面 積
幼稚園	大 番 五十鈴 大 亀 美保子 横 手 ひづる	( 合 同 ) 収穫の喜びを味わおう。	

# 本校におけるとり組みの重点

豊 小 学 校

## I. 授業改善と評価

### 1. はじめに

評価のない指導は、あり得ない。つまり、学習過程の全てが評価の場であり機会である。だから、評価によって軌道修正をはかったり、評価を指導の手がかりにしたりして、子供に力をつけている。

本校では、ここ数年来、到達度評価の考え方を取り入れた指導案を作成して、学習の効率化をはかる指導法の研究にとり組んでいる。

この研究こそが、授業を見る眼、授業を診断する眼、授業を直す眼をつくっていき、授業改善への糸口になることと思える。

授業改善のためには、評価が大きな役割を果たすものである。「どのような評価を、どのように生かせば、授業改善に資するか」という問題を中心に考えている。

### 2. 授業評価

私達教師は、子どもの成長が見える時、生きがいを感じる。そのために、よい授業を求めて努力を続けることが、教師に果せられた使命だと思ふ。だから、授業を評価することにより、教材解釈の未熟さや、学習者への理解の浅さを自覚し、それを反省材料として、自己の指導能力を高める契機としている。

#### (1) 「誰が、どのようにして」評価してきたか。

主体	授業者	学習者	観察者
評価法	指導プログラム 形成的評価	内容分析	評定尺度法による授業評価

#### (2) 学級についての評価

学級経営こそよい授業の基盤である。よい授業の下地は学級づくりにあると思ふ。授業設計、分析以前の問題として大切にしている。そこで、子供たちに学習をしやすくさせることが重要なので、学級への所属感、連帯感等の満足度を知り、学級の人間関係、雰囲気づくりに配慮したいと思ふ。学級について児童に評価させている。

#### (2) 授業者側からの評価

##### ア. 指導プログラム

研究の視点を明らかにした指導案（具体的に内容、方法がわかり、評価の観点をも含むもの）を作成し、参観者もその視点に即した目でとらえていく（目標の達成度を具体的に

とらえ、指導法を検討することができる) 指導案にしている。

#### イ. 形成的評価

指導過程において、子供が目標に向かってどのように進歩しているかを評価している。それが、授業の展開途上で行き評価反応では敏速性が要求される。この時、教師の経験や勘を総動員して、児童の表情、挙動、挙手の状況を収集、診断したりすると誤診もあるので、本校ではアナライザー、アンサーキューブを用いて、全ての学習者に自己の意志で反応させている。

そして、だれが、どんなまちがいをしたか、だれが「わからない」と答えたのか診断を下し、誤答者が多い場合は、誤答傾向に応じた治療と補足説明を行ない、学習者ひとりひとりに安心感を付与し、また、正答者が多い場合は激励の言葉をかけて、学習に意欲的に取り組む工夫をしている。

この学習の節々で即時評価をして授業を進めることは、落ちこぼしをなくする点からも大切なことだと思ふ。

#### (4) 学習者側からの評価<内容分析>

##### ア. 学習者が、授業者の指導法を評価する。

教師の独断を排するには、学習者がどう受けとめたか、その評価を大切にしたい。

「先生の説明がわかりやすかった」「OHPの使い方がよかった」「アナライザーの使い方がよかった」「先生の質問の意味はよくわかった」「考えたり予想したりする時間は十分あった」等々の質問項目を作成し、授業評価に用いた。

##### イ. 学習者が、自分の学習行動を評価する。

授業の中で子供自身が自己の行動をどのようにとらえていたか、またどんな反省や逆に意欲をもつに至ったか、子供の証言として大切にしたい自己評価である。

「習ったことは、まとめられた」「発表が十分できた」「聞きたいことは聞いた」「この時間の勉強は楽しかった」「授業に真剣にとり組んだ」「友だちの発表は、よくわかった」等々の質問項目を作成し、調査した。この調査により、子供の理解度、興味、関心、意欲、参加の程度がとらえられた。

##### ウ. 学習者が、自分たちの学級全体を評価する。

授業を通じて、子供たちが学級全体の雰囲気についてどんな進歩を感じとったかを調べ、それによって授業評価をする。

「学級の方は、よく勉強した」「班の方は、まじめだった」「班の人と協力できた」等の評価を子供たちに相互に行なわせることにより、集団の高まりをとらえることができる。教師側からの学級集団評価に終わらず、子供の側からそれを裏付けることも大切かと思ふ。

(5) 観察者側からの評価<評定尺度法による授業評価>

参観者に「児童について」「教師について」「授業時間全体について」の視点表に記入してもらった結果をもとに集計したもので、この評価により、授業者には見えにくい授業の実態を多くの目でとらえ、児童の実態やねらいに即した指導のあり方を追求できる。

3. おわりに

評価とは、児童にテストというものさしを当てて、できる子とできない子に分類することではない。

教師の側からは、評価の結果による資料に基づいて、授業の指導計画や指導方法の改善をほかり、児童に進歩や欠陥などを知らせ、各自の指導に役立てるためのものである。

また、児童も自分を評価することによって、自覚的な学習が進められる。

だから、子供たちの学習意欲を高め、方向づけていくには、的確な評価が大切だと思う。この評価により、ひとりひとりの子供の学習が成立するようになり、しかもそのひとりひとりの学習が、子供たち同士の相互作用によって深まるものと思える。

II 主体的学習を育てるための実践

1. 学習課題づくりの意義

いきいきと学習活動が展開されるには、学習の主体者が児童であることは、言うまでもないことである。八田洋弥氏はこのように述べておられる。

授業とは、学習者である子供が、教材に積極的にはたらきかけて活動する。その活動を活発化し、促進させるために教師がさまざまな援助の手立てをこころじる。この三者の相互の関係の活動によって、指導の目標に近づいていく営みが授業であると考えてよいであろう。

このように授業を考えると、子供一人ひとりが、本気になって国語の学習にうちこみ、指導の目標に到達させるための大事な要素として学習課題がある。

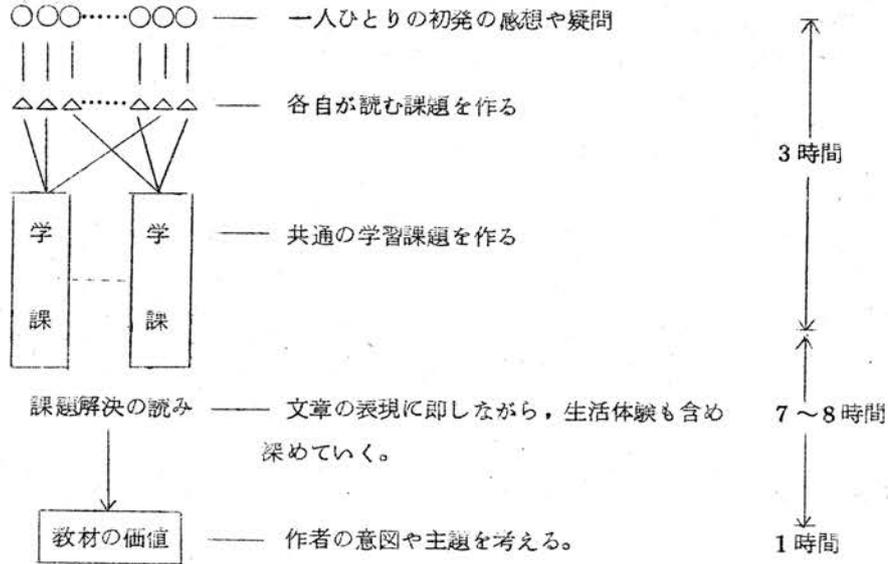
2. 取り組みの視点

物語文を指導する場合、大抵、初発の感想（第一次感想）を書かせることから始めていく。その根拠となる考え方は色々あるであろうが、本校の場合は、（1）児童がその教材について、どの程度の読みをしているか、その実態を知り、今後の指導に役立てる。（2）初発の感想を手がかりとして学習課題を作る。の二点を理由としている。

今回の取り組みは、（2）の方法をより充実させ、主体的な読み手を育てる学習の追究を試みようとしたものである。つまり、教師が学習課題を与えるのではなく、児童自らが文章を読んで、何を感じ、何を考え、何に驚き、何に疑問をもっているか、それをもとに、何が自分たちの学習事項になるのかを、はっきりさせることである。

最初は、素朴な疑問を大切にすることから始めたり、ブリテストを活用したりして、最後には、この教材では、何を学習することが最も大事なことなのか、を考えることができるようになることを望んでいる。

3. 主体的学習を育てていくための指導過程



4. 具体的な学習課題を設定するまでの手順

1時間目 (1) 通読 (2) プリテスト (3) 難語句や新出文字の指導  
(4) あらすじをつかむ

2時間目 (1) 感想文を書く (感想文を書かせる時、次のような方法が考えられる。)  
ア. 登場人物について      イ. 場面ごとに  
ウ. 一口感想 (50字以内)      エ. 文章全体から  
オ. 疑問点を中心に

3時間目 (1) 感想の発表 (2) 児童の感想を教師が板書したり、印刷して整理する。  
(3) 感想をもとに学習課題を作る。

5. 学習課題を設定する時の例

教材「ごんぎつね」

1場面での感想

児童1「……………いたずらなごんぎつねだ。」

児童2「……………ちえのあるごんだ。」

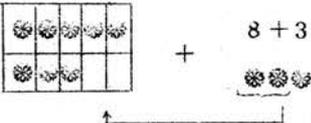
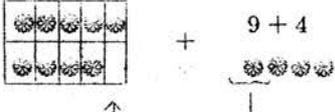
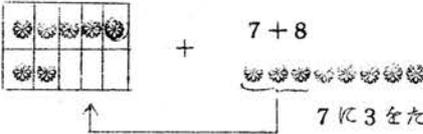
どんなごんなのたろう。調べてみよう。 — 1場面の学習課題

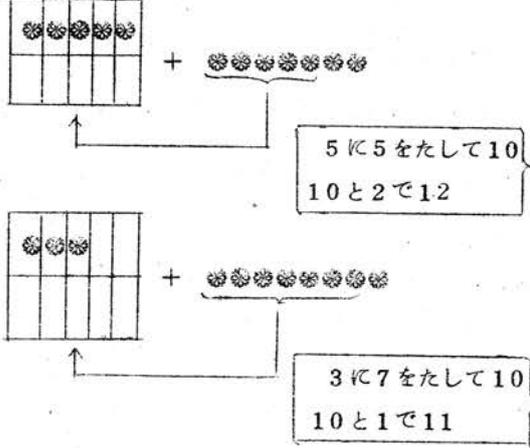
## 算数科学習指導案

指導者 小 草 ハツミ

1. 学 年 第1学年2組 男子11名 女子11名 計22名
2. 単 元 たしざん(2)
3. 要 旨
  - (1位数) + (1位数) で繰り上がりのある場合のたし算を理解させ計算技能の習熟を図ることがここでの大切なねらいである。
  - 本学級の児童は、10までの合成・分解・和が10までの加法は、繰りかえし練習をしてきて、殆どどの児童ができるが、繰り上がりのあるたし算は、今回はじめてで、数えたす児童が多く、10の補数を意識して加数を分解してたす児童は少ない。
  - 指導にあたっては、算法の理解を具体物(おはじき)を用いておはじきの操作を考えさせ、操作を通して計算のしかたを理解させる。理解できたらそれを楽しく練習させ、ある程度の速さで答えが求められるようにさせる。適用題にあたっては、1人で考えさせ、次にみんなで考えを出しあいながら学習していきたい。
4. 単元の見 標
  - 認知的目標
    - (1位数) + (1位数) で繰り上がりのある場合(和が十何)の計算ができるようにし、その計算の習熟をはかす。
    - 繰り上がりのあるたし算の適用問題が解けるようにする。
  - 態度的目標
    - 具体物を積極的に使って繰り上がりのあるたし算の方法を説明しようとする。
    - みんなの方を見て話したり、話し手の方を向いて聞こうとする。
5. 下位目標
  - (1) たされる数が6以上の場合のたし算を具体物(おはじき)を使って理解させる。
  - (2) たされる数が6以上の場合のたし算を具体物を使わずに計算できる。
  - (3) たされる数が5以下の場合のたし算を具体物を使って理解させる。
  - (4) たされる数が5以下の場合のたし算を具体物を使わずに計算できる。
  - (5) 適用題による繰り上がりのあるたし算ができる。
6. 学習課題
  - 1-1 たされる数が6以上のたし算で、おはじきを使って答えを求める。
  - 1-2 たされる数が6以上のたし算で算法をとえながらおはじきを操作する。
  - 2 たされる数が6以上のたし算をおはじきを使わずに計算する。
  - 3-1 たされる数が5以下のたし算で、おはじきを使って答えを求める。
  - 3-2 たされる数が5以下のたし算で算法をとえながらおはじきを操作する。
  - 4 たされる数が5以下のたし算をおはじきを使わずに計算する。
  - 5 適用題を読んで、式をたてその答えを求める。

7. 学習計画

時限	学習課題	実践活動
1	ブリテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り上がりのあるたし算をべんきょうする。</li> <li>○進んで問題に取り組む。</li> </ul>
2	1-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○絵を見て、おはじきにおきかえて考える。</li> <li>○おはじきを操作しながら考える。</li> </ul>  <p>10にするため 2 をもってくる 10 とのこりの 1 で 11</p> <p>○となえながら、おはじきを操作する。</p>
3	1-2	 <p>9に1をたして10 10と3で13</p>  <p>7に3をたして10 10と5で15</p>
4	2	<p>○具体物からはなれて、抽象数による算法の形式になれる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <math>7 + 5</math>    7に□をたして10                        10と□で12         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <math>6 + 7</math>    6に□をたして10                        10と□で13         </div>
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>○カードを見て答えることができる。</li> <li>○何回もくりかえして練習する。</li> <li>○たてにやったり、よこにやったりして練習をかさねる。</li> <li>○算法をとなえながら、おはじきを操作して答えを求める。</li> </ul>

6	3-1    3-2	 <p>5に5をたして10 10と2で12</p> <p>3に7をたして10 10と1で11</p> <p>○練習問題をやる</p> <p>5+9    5+6    5+8    4+8 4+9    4+7    3+9    2+9</p>
7	4	<p>○カードを使ってゲームあそびをする。</p> <p>① 2人で、カードを使って1人が式(3+9)を言ったら、相手が答え(12)を言う。カードを裏がえして、あっているか2人でたしかめる。</p> <p>② カードを裏返しにし、1人がカードを読み、その答えを相手がひろる。</p> <p>③ 2人でカードをよく切って、同時に1枚ずつ出す。答えが大きい方を勝ちとする。</p> <p>④ みんなと 仲よくゲームができる。</p> <p>○総合練習をする。</p>
9	5	<p>○適用題を読んで式と答えをかく。</p> <p>○みんなに説明することができる。</p> <p>○さんすうドリルをやって友だちと答え合わせをする。</p>
10	ポスト テスト	<p>○練り上がりのたし算が確実にできるようになったか、ポストテストをする。</p>

1. 学年 第5学年2組 男子7名 女子14名 計21名
2. 単元 面積
3. 要旨

- 前学年では、面積の概念と長方形や正方形の求積について指導してきている。この学年では、いろいろな基本的な図形的面積も必要な部分の長さを測り、それを用いて計算によって求められることを理解させるのが主なねらいである。しかし、三角形、四角形などの面積を求める指導では、単に求積公式を覚えさせるだけでなく、既習の正方形、長方形などの求積をもとにして、公式を作りださせるとともに、その過程で論理的な考え方を育てるように留意することが大切である。
- 本学級の児童は全員、問題集を持っており、各々自由に学習を進めている。そのため面積のところをすでに学習している者も多くいる。しかし、問題集の性格上、公式を知っていれば解ける問題が多く、「なぜ、こういう公式ができたのか。」と問うと、答えられない。
- そこで、本単元の指導に当たっては、単に公式を覚えさせ、使わせるだけでなく、正方形、長方形などの求積をもとに公式を作りださせるとともに、その過程で論理的な考え方を育てるようにしたい。

#### 4. 単元の目標

##### 認知的目標

- 三角形、四角形などの面積が計算で求められることを理解し、面積を求めることができるようにする。
- 基本的な図形について求積のしかたを工夫し、公式を導き出すとともに、論理的に説明できるようにする。

##### 態度的目標

- 自分の意見を言い、友達の意見を自分の考えと比較しながら聞こうとする。

#### 5. 下位目標

1. 長方形、正方形の面積を求める公式を理解させる。(辺の長さが小数の場合にも公式が適用できることを理解させる。)
2. 三角形の求積のしかたを理解させる。
3. 四角形の求積のしかたを理解させる。
4. さまざまな図形に応じた求積のしかたを考え、計算できるようにさせる。

#### 6. 学習課題

1. 辺の長さが小数の場合の長方形、正方形の面積を公式を用いて求める。
- 2-1 長方形の面積の求め方をもとに、三角形の面積の求め方を考え、公式の形にまとめる。

2-2 三角形の面積を公式を用いて計算する。

a 鋭角三角形

b 鈍角三角形

3-1 三角形の求積の公式を適用して四角形の面積を求める。

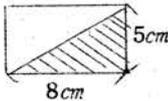
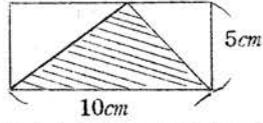
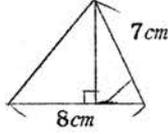
3-2 平行四辺形の場合の求積のしかたを考え、公式の形にまとめる。

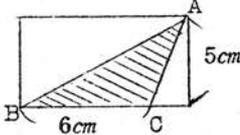
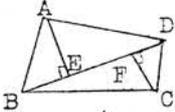
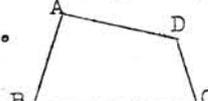
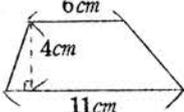
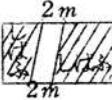
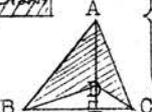
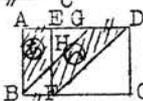
3-3 台形の場合の求積のしかたを考え、公式の形にまとめる。

4-1 さまざまな図形の面積を三角形、長方形、平行四辺形、台形の求積公式を応用して計算する。

4-2 三角形、長方形、平行四辺形、台形の求積公式を用いて、2つの図形の面積が等しいことを証明する。

## 7. 学習計画

時限	学習課題	実践活動
1	ブリ テスト	○ブリテストをする。
2	1	○たて $2.3\text{ cm}$ 、横 $3.5\text{ cm}$ の長方形の面積を求める。 ○たて $80\text{ cm}$ 、横 $2.5\text{ m}$ の長方形の面積を求める。 ○たて $7.2\text{ cm}$ 、横 $7.5\text{ cm}$ 、高さ $4.5\text{ cm}$ の直方体の体積を求める。
3	2-1	○右の直角三角形の面積を求める。  ○右の三角形 ABC の面積を求める。 
4	2-1 2-2a	○三角形の面積の求め方を公式の形にまとめる。 ○右の三角形の面積を求める。 

5	2-2	<p>○右の三角形ABCの面積を求めよ。</p> <p>○下の㊸㊹㊺㊻が同じ面積であることを説明する。</p>	 <p>○下の㊸㊹㊺㊻が同じ面積であることを説明する。</p> 
6	3-1	<p>○右図の面積を求めよ。</p> <p>○右の四角形の面積を求めよ。</p>	 <p> <math>\left\{ \begin{array}{l} AE = 58 \text{ m} \\ BD = 102 \text{ m} \\ CF = 35 \text{ m} \end{array} \right.</math> </p> 
7	3-2	<p>○平行四辺形の面積の求め方を考え、公式の形にまとめる。</p> <p>○右の平行四辺形の面積を求めよ。</p>	
8	3-3	<p>○台形の面積の求め方を考え、公式の形にまとめる。</p> <p>○右の台形の面積を求めよ。</p>	
9	4-1	<p>○右図のしほふの部分の面積を求めよ。</p> <p>○右図の色をつけてある部分の面積を求めよ。</p>	  <p> <math>\left\{ \begin{array}{l} AD = 5 \text{ cm} \\ DC = 3 \text{ cm} \\ BC = 8 \text{ cm} \\ EC = 3 \text{ cm} \end{array} \right.</math> </p>
10	4-2	<p>○右図の㊸と㊹の面積をくらべ、同じわけを説明する。</p> <p>○右図の㊸と㊹の面積をくらべ、同じわけを説明する。</p>	 
11	Pテスト	○ポストテストをする。	

国語科学習指導案

指導者 土井 紀美子

1. 学年 第1学年1組 男子11名 女子11名 計22名

2. 単元 はっきりしたこえで(くじらぐも)

3. 要旨

- 教材「くじらぐも」は、美しいさし絵や文章を手がかりに、くじら雲と子供たちの表情、しぐさ、会話など、心のかよいが想像できる作品である。このようにして、空想と現実の間に豊かな想像の拡充を図ることは、児童の空想力、やさしさ、思いやり、美的感覚など情操を培う滋養となるであろう。また、筋の運びも軽快で、リズムカルな繰り返しのおもしろさがある。こうした歯切れのよい文章なので、読む楽しさを味わい、すすんで他の読み物を読もうとする態度を養うことができるであろう。
- 本学級児は、想像して吹き出しに書いたり、動作化したりするのが好きである。しかし、楽しみすぎて文章表現から逸脱した想像になったり、場面の雰囲気になかなか合わなかったりすることがある。
- そこで、指導にあたっては、常によりどころをさし絵や文章表現におき、その場の様子や登場人物の気持ちを想像しながら、音読を工夫させたり、動作化させたりしたい。また、「～も」「～が」「～は」という表現をとらえて視写させることによって、語句の意味や使い方への関心を高めたい。

4. 単元の目標

認知的目標

- くじら雲や子供たちのしたことを、様子を思い浮かべながら、はっきりした声で音読することができるようにする。
- 表現したり、理解したりするために必要な語句の意味を正しくとらえ、その使い方を理解できるようにする。

態度的目標

- くじら雲や子供たちの動作や表情を思い描きながら、声の大きさ、抑揚に気をつけて音読しようとする。
- 自分の表現と比べながら、友達からも学ぼうとする。

5. 学習計画(10時間)

時限	学 習 課 題	認 知 的 目 標	態 度 的 目 標
1	○ この教材に出てくる漢字や片仮名、書き順のブリテストをして、学習している。	○ 新出漢字、片仮名に読み仮名を正しくつけ、筆順も正しく書ける。	○ 点画の長短、終筆、筆順に気を付けながら書こうとする。

	<p>(漢字, 片仮名, 筆順のプリテスト)</p> <p>○ 「くじらぐも」のお話を聞いて, 面白いなあ, 好きだなあ, すてきなあとと思ったことを書こう。</p> <p>(好きな場面のさし絵を描こう…図工科)</p>	<p>○ 物語を聞きながら, 気に入ったところへ朱線を引いて, それを書くことができる。</p>	<p>○ 範読する文章を目でおいながら, 面白いところへ線を引こうとする。</p> <p>○ 隣席の子と注意し合って, 正しい姿勢で書こうとする。</p>
2	<p>○ お話の筋は, どのように動いているのでしょうか。絵を話の筋に合うように黒板に貼ってお話しましょう。</p> <p>○ 場面ごとに交代しながら, 全文を読もう。(音読のプリテスト)</p>	<p>○ 場面ごとの絵をもとに, いつ, だれが, どこで, どんなことをしたのか話し, 物語の筋に合うように黒板に貼り付けることができる。</p> <p>○ 地の文, くじら雲, 子供たちに分かれて, 又章を正しく読むことができる。</p>	<p>○ 自分の描いている絵の場面について, わかりやすく話そうとする。</p> <p>○ 句読点に気を付け, 文として読もうとする。</p> <p>○ 聞き手の方を向いて, 語尾まではっきり話そうとする。</p>
3	<p>○ この教材でどんな勉強をするのかプリテストをしよう。</p> <p>(読みとりのプリテスト)</p> <p>○ この教材で学習していく課題を知ってメモしよう。</p>	<p>○ プリテストをして, この単元の学習内容を知ることができる。</p> <p>○ この単元の目標や学習計画を聞きながら, 各時間の学習範囲や学習していくことを, 教科書にしるしをつけたり, ノートに書くことができる。</p>	<p>○ 一生懸命プリテストをすることによって, 自分の力を知ろうとする。</p> <p>○ 学習の計画を知ったら, すぐに何時限にどんな内容を学習するのかを教科書やノートへ書こうとする。</p> <p>○ 一言ものがさずに, 単元の計画を聞こうとする。</p>
4	<p>○ 空くじらと運動場</p>	<p>○ 「～雲」で始まる文を</p>	<p>○ くじら雲と子供たちの</p>

	<p>の子供たちになって、文のとおり動作をしてみよう。そして、くじら雲の気持ちをまとめて発表しよう。</p> <p>( P. 5 L. 1 ~ P. 6 L. 4 )</p> <p>(くじら雲の面を作ろう…図工科)</p>	<p>視写したり、はっきりした発音で音読したり、動作化したりすることにより、くじら雲が子供たちと一語になりたがっているといえる。</p>	<p>動きを文章に即して動作化しようとする。</p> <p>○ 自分の表現と比べながら、友達の発表を聞こうとする。</p>
5	<p>○ くじら雲にのるまでの様子を、くじら雲と子供たちに分かれて、動作をしてみよう。そして、子供たちとくじら雲の気持ちはどうなるか発表しよう。</p> <p>( P. 6 L. 5 ~ P. 10 L. 1 )</p>	<p>○ くじら雲と子供たちの呼応をはっきりした声で音読したり、動作化したりすることにより、動きの面白さや繰り返しの面白さに気がつき、くじら雲と子供たちの気持ちが次第に高まっていると説明できる。</p>	<p>○ 呼びかけの繰り返しを、リズムカルに声の大きさを工夫して音読したり、動作化したりしようとする。</p> <p>○ 班員が、どんな気持ちや格好で動作化するかを話し合っ、よりすばらしい表現をしようとする。</p>
6	<p>○ くじら雲にのって、子供たちと同じ気持ちになって、言ったり、思ったりしたことを書いて発表しよう。</p> <p>( P. 10 L. 2 ~ P. 11 L. 6 )</p>	<p>○ くじら雲にのって青い空を進んでいく時の子供たちの表情や動作、文章表現などから、子供たちの喜びや叫び、張り切って泳ぎ回るくじら雲の楽しさなどを想像して、吹き出しに書き、動作化することができる。</p>	<p>○ くじら雲にのった子供たちが空を泳いで回る様子を、楽しく想像して話そうとする。</p> <p>○ 自分の気持ちがみんなにわかるように、話し方や動作を工夫して発表しようとする。</p>
7	<p>○ 「さようなら」した時のくじら雲と、1年2組の子供たちの気持ちを考えて音読しよう。</p> <p>( P. 11 L. 7 ~ P. 12 L. 9 )</p> <p>○ くじら雲にお願いし</p>	<p>○ 子供たちのさびしい気持ちがあらわれるように「さようなら」の音読をすることができる。</p> <p>○ ジャングルジムの上で別</p>	<p>○ 「さようなら」を、声の大きさに気を付けて、気持ちをこめて音読しようとする。</p> <p>○ 手紙を推敲して、正し</p>

	たいことや、聞きたいことを書いて、手紙を出そう。	れたくじら雲に、頼みたいこと、聞きたいことを、長拗、促音の表記、助詞「は」「へ」「を」を正しく使って手紙を書くことができる。	く書こうとする。 ○ 友達の読み方と比べて、読み方を工夫しようとする。
8	○ くじら雲と子供たちとの繰り返しの会話に注意して、はっきりした発音で読もう。 (音読のポストテスト) ○ くじら雲のしたことをノートへ視写して、「～も」「～が」「～は」の使い方の違いを知ろう。	○ 会話の部分を工夫して、一語一語しっかりと、はっきりとした声で読むことができる。 ○ くじら雲のしたことを書き出して比べることによって、助詞の使い方場面が運びと説明できる。	○ 動作に合わせて、声の大きさを工夫し、抑揚をつけて音読しようとする。 ○ 友達のよい読みを真似て音読し、自分の読み方の悪い点を直そうとする。 ○ ノートへ正しく視写しようとする。
9	○ 新しく出た漢字、片仮名、ことばの使い方の練習をしよう。 ○ (集団読書としての印刷物)「月夜のからす」を読み、他の作品も読もう。 (読書の時間)	○ 新出漢字、片仮名、語句を使って、短い文に書くことができる。 ○ 「月夜のからす」の会話文を気持ちよこめて、はっきりと音読できる。	○ 新出漢字、片仮名、語句に関心をもって、語句集めをしようとする。 ○ 会話文は、声の大きさ、抑揚に気を付けて音読しようとする。 ○ 他の本を紹介し合って、他の物語を読もうとする。
10	○ この単元の学習が理解できているかどうか確かめるために、ポストテストをしよう。 (漢字、片仮名、筆順、読みとりのポストテスト)	○ ポストテストをして、自分の採点をした後、誤答や無回答の箇所へ、班員の助言で書きこむことができる。	○ この単元の学習理解度を自己評価し、誤答、無回答の箇所をわかるまで知ろうとする。 ○ 班で班員が理解できているかどうかを相互点検して、班員が援助し合って、全問わかろうとする。

# 国語科学習指導案

指導者 赤川 治

1. 学年 第4学年1組 男子13名 女子11名 計24名
2. 単元 人物の気持ちになって(ごんぎつね)
3. 要旨

- この物語は、新美南吉の代表作の一つである。情景が生き生きと描かれているばかりでなく、人の生き方について考えさせるものをもっている。ひとりぼっちの小さつねごとんと、やはりひとりぼっちの兵十とが、お互い孤独な者同士でありながら、通じあおうとして通じあえない心の結びつきの姿をやさしく、かなしく描き出した物語である。美しい風景描写の中で展開するこの両者の様子や気持ちを、しみじみと読み、味わわせていくことによって、4年生なりに人間の側面を考えていくであろう。
- 本学級の児童は、これまでに、「白いぼうし」「とびこめ」などの作品を通して、場面の情景を想像しながら、人物の気持ちや行動を読みとる学習をしてきた。しかし、その場面の情景、気持ちを的確に、また想像豊かに読みとることのできる児童は5、6人にすぎない。
- そこで、指導にあたっては、常に文章表現に即して、場面の情景、人物の気持ちを的確に、また想像豊かに読みとらせていきたい。そして、児童一人ひとりが自分の意見をはっきり持ち、それを互いに発表しあっていく中から、ねらいにせまるものを求めていきたい。また、発表においては、話し方を工夫したり、動作化したりして、自分の意見が全員に理解されるまでがんばろうとする態度を育てたい。

## 4. 単元の日標

### 認知的目標

- 生き生きとした表現を通して、人物の様子や気持ち、場面の情景を思い描くことができるようにする。
- 効果的な情景描写や比喩表現を抜き出して視写し、優れた表現の仕方を理解できるようにする。

### 態度的目標

- 登場人物の動作、表情を思い描きながら、気持ちをとらえようとする。
- 発表等を通じて、自分の考えと人の考えとを比較したりする中で、自分の考えを確かなものにすると同時に、それが全員に理解されるように、工夫しながら発表しようとする。

## 5. 学習計画(13時間)

時限	学 習 課 題	認 知 的 目 標	態 度 的 目 標
1.	○ この教材に出てく	○ 新出漢字に読み仮名を正し	○ 点画の長短、終筆、筆

	<p>る漢字の読み方，書き方や意味のわからない言葉のブリテストをして，学習していこう。</p> <p>漢字，難語句のブリテスト</p>	<p>くつけ，筆順も正しく書くことができる。また，難語句の意味を正しく説明できる。</p>	<p>順などに気をつけながら書こうとする。</p> <p>○ 隣席の子と注意しあって正しい姿勢で書こうとする。</p>
2	<p>○ 「ごんぎつね」のお話しを読んで，印象に残っていることを書いてみよう。</p> <p>(感想のブリテスト)</p>	<p>○ この物語で，感じたこと，疑問に思ったことなどを，自由に書くことができる。</p>	<p>○ 一番印象に残っている自分の気持ちが，よくわかるように書こうとする。</p> <p>○ 自分の気持ちをはっきり書きあらわすために，表現等を工夫しながら書こうとする。</p>
3	<p>○ この教材で，どんな勉強をするのかブリテストをしよう。</p> <p>読みとりのブリテスト</p>	<p>○ ブリテストをして，この単元の学習内容を知ることができる。</p>	<p>○ 一生懸命ブリテストをすることによって，自分の力を知ろうとする。</p> <p>○ わからないところ，あいまいなところを知って自分の学習を高めようとする。</p>
4	<p>○ この教材で，学習していく課題を知ってメモしよう。</p>	<p>○ この単元の目標や学習計画を聞きながら，各時間の学習範囲や学習していくことを，ノートにまとめることができる。</p>	<p>○ 学習計画を知ったら，すぐに，何時限にどんな内容を学習するのか，ノートへ書こうとする。</p> <p>○ 一言ものがさずに，学習計画を知ろうとする。</p>
5	<p>○ ごんは，どのような小ぎつねなのか，まとめて発表しましょう。</p>	<p>○ ごんは，ひとりぼっちでさびしいために，人に相手をしてもらいたくて，いたずらばかりをする小ぎつねであるといえる。</p>	<p>○ ごんのいたずらをした気持ちや，ごんが置かれている立場，境遇とむすびつけながら考えようとする。</p>

	( P. 59 L. 1 ~ P. 60 L. 4 )		○ 班の中で、互いに意見を出しあっていく中で、自分の意見をはっきり持ち、それを全体に発表していこうとする。
6	○ ごんは、どのような気持ちで、どのようないたずらをしたのか書いて、発表しましょう。 ( P. 60 L. 5 ~ P. 64 L. 5 )	○ ごんは、びくの中の魚をつかみ出したり、うなぎの頭を口にくわえたりして、兵十の関心をひこうとしたといえる。	○ 兵十に対するごんの思いに注意して、いたずらをするごんの様子や気持ちを考えて発表していこうとする。 ○ 人の考えと自分の考えとを比較しながら聞き、自分の考えをすすんで、全体に発表していこうとする。
7	○ ごんの気持ちの変化をまとめて、発表しましょう。 ( P. 64 L. 6 ~ P. 67 L. 8 )	○ 兵十のおっかあの死を知ったごんは、今までの自分のいたずらを後悔し、兵十にすまない気持ちでいるといえる。	○ おっかあの死を知ると知った後のごんのつぶやきや行動を比べることによって、自分のいたずらに対する気持ちの変化を考えていこうとする。 ○ 自分の考えが全員に理解されるようにまとめてから発表していこうとする。
8	○ ごんは、どのような思いで兵十を見て毎日をすごしていたかを書いて発表しましょう。 ( P. 67 L. 9 ~ P. 70 L. 12 )	○ ごんは、ひとりぼっちになった兵十に、いたずらの償いをしようとする気持ちから、毎日、いわし、くり、まっただけを持っていったといえる。	○ 毎日のごんの行動から、兵十に対するごんのことを考えようとする。 ○ 人の考えと自分の考えとを比較しながら聞き、自分の考えが全員に理解されるように工夫しながら発表していこうとする。

9	<p>○ ごんは、なぜ、兵十と加助の後をついていったのか発表し気持ちを思いうかべながら、音読しましょう。</p> <p>( P. 71 L. 1 ~ P. 75 L. 5 )</p>	<p>○ ごんが、くりやまつたけを持っていていっていることを兵十にわかってもらっているかを知らいたために、2人の後をついて行ったといえる。</p>	<p>○ ごんのつぶやきや行動から、2人の後をついていくごんの気持ちを考えようとする。</p> <p>○ ごんの表情や行動を思いうかべながら、声の大きさ、抑揚に気をつけて音読しようとする。</p>
10	<p>○ 兵十は、ごんのどんなことを知り、どんな思いにとらわれていったかを発表し兵十とごんの気持ちになって音読しましょう。</p> <p>( P. 75 L. 6 ~ P. 77 L. 12 )</p>	<p>○ ごんの気持ちがわかった兵十は、ごんがくりやまつたけを持ってきてくれていたことに気づかないまま、うち殺してしまったことを、どうしようもなく悔やんでいるといえる。</p>	<p>○ ごんの真意を知った兵十の心情を適切にあらわす言葉を考え、それをふきだしに書いて発表していこうとする。</p> <p>○ 全体で出された考えに自分の考えをおりませたりして、わかりやすくまとめながら発表していこうとする。</p>
11	<p>○ 全文を朗読して、この物語で感じたことを書いてみましょう。</p> <p>( 感想の ポストテスト )</p>	<p>○ ごんと兵十の気持ちや行動を通して感じたことを文章に書きあらわすことができる。</p>	<p>○ この物語を読みおわって感じたことを書いた後初めの感想と読みくらべて、どのように変わってきたか。深まってきたかを知ろうとする。</p> <p>○ この物語を読みおわった後、自分の心に残ったことがよくわかるように表現等工夫しながら書いていこうとする。</p>
12	<p>○ 新出漢字や言葉の使い方の練習をしていきましょう。</p>	<p>○ 新出漢字や語句を応用して短文をつくることができる。</p>	<p>○ 新出漢字や語句を使って文章をつくった後、その使い方が正しいか確か</p>

			<p>め、あやまった使い方をしているところは、正しく使えるまで書きなおしていこうとする。</p> <p>○ 新出漢字、語句に関心をもって、語句集めをしようとする。</p>
13	<p>○ この単元の学習が理解できているかを確かめるために、ポストテストをしましょう。</p> <p>(漢字、難語句 読みとりの ブリテスト)</p>	<p>○ ポストテストをして、自分の採点をした後、誤答、無答の箇所へ、班員の助言などで書きこむことができる。</p>	<p>○ この単元の学習で、どれくらい理解できているかを自己評価し、到達目標に達するために、語答無答の箇所をわかるまで知っていこうとする。</p> <p>○ 自分たちの班で、班の人が、十分に理解できているかどうかを相互点検して、班の人がおたがいに援助しあって、全員がわかっていこうとする。</p>

# 豊浜町立豊浜中学校

## 研究授業

### 1. 時間配分

10:00 10:30 11:20 11:40 12:20 12:30 13:10 13:45

受付	研究授業	移動 町内バス会場	町内バス (公民館)	移動 中学校	昼食	研究協議	移動
----	------	--------------	---------------	-----------	----	------	----

### 2. 授業内容

学 年	教 科	授 業 者
1 年	社 会	底 押 正 司
3 年	理 科	丸 山 大 輔

## (1) 地域課題をふまえた指導法を求めて

生徒の過半数が漁業家庭であり、幼児期は両親と共に船上生活で育てられ、就学年令になって両親のもとを離れ兄弟姉妹や祖父母、親せきの家、あるいは豊浜学寮に入寮して通学することになる。このような地域の実態であるから、昭和42年からスタートした本校のバズ学習の歴史は地域や生徒の生活背景にまで視野を広げた取り組みの必要に迫られていた。

## (2) 復習バズから町内バズへ。

愛知県八開中学校の実践に学んで毎日、放課後30分間の復習バズが全学級で取り組まれた。このような人間関係を基盤にした指導の在り方が約5年ほど続けられたことによって、学習への全員参加の姿や好ましい人間関係の形成が認められて講義式授業の限界を感じとる教師が増加していった。そして教師集団自身が職員朝会の議題や校内研修会で随所にバズを取り入れる場面で定着していくことになった。しかし生徒の生活基盤である地域や家庭環境が変わらない限り、積木くずしのように、折角、学校で湧かした湯も地域に帰れば水にされてしまうような事態が後を絶たず、一部教師による小地域バズの実践もあったことから復習バズをそのまま地域に持ち込んで地域にゆさぶりをかけようという発想が出てきた。このころ高丘中学校の町内バズ(地域バズ)の実践があり、それに学んで急速に豊浜中学校における町内バズを軌道にのせることができた。

## (3) 単元見通し学習の実践的研究

バズ学習の実践と研究については小学校では教科学習中心の傾向が強く、中学校では生徒指導やクラブ活動、生徒会指導など、人間関係や態度形成に中心をおく傾向があるといわれている。中学校の場合、教科担任制とか高校入試の優先あるいはクラブ活動や生徒指導面など、いくらか学校実態に差があって教科学習中心の研究や実践へまともにくい学校が多いことも事実である。豊浜中学校においても離島へき地という条件から常に学卒新任が人事交流の主流で2~3年で移動するため、研究や実践の積み上げが弱くなることや、両親不在の問題が解決できず生徒指導面やクラブ活動の停滞を招かない範囲で授業改善のためのバズ学習研究を推進しているのが現実である。しかし学校教育である限り授業研究が基調であるべきは当然のことであり、教師研修の充実こそ学校教育の活力であり生命である。

単元見通し学習の研究は過去数年、実践事例を中心とした究明や積み上げが不十分であったために単元見通しに立つ指導計画の全体像を構造的に把握することができず、例えば、単元見通しとバズ学習の関係や達成目標と課題構成などを表面的・部分的なところで論議する域から脱し切れなかった。

本年度も前年に引き続き、単元見通し学習について研修をつみ重ねてきた。前年度10月にはバズ理論、指導案づくりの共同研究にふみ切った。前年度(昭和58年度)の集中指導は、国語科・英語科を中心とした指導案づくりから研究授業まで、塩田・石田・杉江各先生の助言指導により研究が進んだ。前年度の研究では、単元見通し学習こそその課題一覧表をふくめて教師、生徒双方に流しておくことで、生徒側にも対応ができ、また学習の見通しがたてられるとして一定の成果がみられたが、授業研究の中で、学習技能訓練の不足が各教科に見受けられるという非常

にきびしい指摘を受け大きな課題を持ち、3学期からは、指導案にもとづく、授業研究とそれに平行して、バズ場面の指導に力点をおいて研修をつみ重ねた、前年度何度か指導を受け、全員が指導案のかき方の意識統一をはかり、前年度の確認事項として、本年度（昭和59年度）4～5月頃に指導する単元の指導案を全員が書くことを約束していたため、4月当初、全員の指導案を集め、でき上がった指導案をもとに研修、単元目標設定、下位目標、そして、提示課題に一貫性があるかどうかといったような視点で検討して行った。最初の段階では教科が遠いから指導案を見てもわからないといったような発言もあったが、生徒の立場に近い位置でのチェックというメリットもあり、教科を越えての討議、研修を行うことができた。

#### (4) 研修内容の具体例

##### ① 指導計画の要件について（単元見通しの意義・役割）

① 達成目標を明確にする。（従来の授業では、1時間、1時間がこまぎれ目標に陥り、木をみて森を見ていない、最終的な全体像を明確に示しておく）

↓

② 目標達成に至る方法を示す。（課題一覧表提示、doing つまり、作業内容を示す）

↓

③ それに取り組みせる方法を取る。（とりくみの仕方→グループ・班・小集団・バズ）

↓

④ 最後に教師のまとめ、（生徒による課題処理の点検と修正）

##### ② 単元見通しと、バズ学習の関係

単元見通しは……教材内容の扱い方に見通しを与える。（上記の①と②）、単元教材（教材内容）は目標を設定して、学習内容の見通しをもたせた扱い方（具体的には、課題一覧表提示）

バズ学習……見通しをもった課題について、それへの取り組みせ方として、バズ方式が考えられる。（上記の③）

##### ③ 課題によるバズ学習の指導とは、

教材研究の結果を適切な課題(task)にまとめて指導する方法のことで、ここでいう課題とは、教師によって作成され、生徒がその解決に取り組むべき問題(仕事内容)のことを意味する。生徒は、その課題を達成する過程において認知的、態度的なものを学びとることになる。

従来の一般的授業が、児童・生徒に明確に取り組むべき学習課題を示すことなく、発問・応答という指導法で、教科書を解説していだけになりがちなために、話し合いが活発にならず、焦点のない話しあい、断片的な思いつき発言になり、無駄話が多くなりがちという批判がでている。課題(目標達成のために、果していくべき作業内容といえるもの)と、問題とは常に同じものではない、何らかの不明点をもつ問題を解決するということもあるし、一定の作業内容、命ぜられた課題を解決というより、達成することにより、学習目標に迫っていくこともありうる。

##### ④ プリテスト

プリテストは理論的には、その単元の学習に必要とされるレディネス的な問題項目から成るテストであるが、実際にはそれは容易でないので、その単元の学習の出発点の状況を知って、特に

力点において指導すべき所、反対に、それほど時間をかけなくてもよい所などを明らかにし、指導計画に修正を加えることをねらいとするテストである。即ち、学習課題の学習の結果として期待される知識、概念、理解、技能、能力などを測定するためのテストである。

単元に入る最初の時間にプリテストを実施する。実施に当っては、生徒にプリテストの意義、その目的などを説明する。生徒たちは、これから始まる単元の認知的、ならびに態度的目標を具体的かつ的確に把握することができる。いわゆる動機づけである。プリテストを実施することにより、学習すべき学習目標を具体的な形で子どもたちに的確に理解させることができる。

#### ⑤ 校内研修

校内研修については、木曜日を研修日に設定し、単元単位の学習指導案及び、前年度からの大きな課題であった、学習技能訓練、特にバズ場面の事例研究を校内授業研を通して継続研究をしている。

① 5月中旬までに、各自がつくった指導案について再検討、及び、1時間の細案をかき、①の②の内容について研修を行った。

② 5月下旬(25日)理科、数学科の校内授業研

3月上旬、指導案作りについて、塩田、杉江、石田先生から指導を受け、その指導案をもとに、公開研究会を行ない、指導を受けた。その時の評とし、教師が前面にまだまだ出すぎる、プリテストの意義、目的について充分時間をかけて指導したらどうかという指導を受けた。

③ 6月中旬、英語科、国語科の校内授業研究

④ 生徒の反応……1時間、1時間のこまぎれ授業より、単元全体を見通して計画を立てた授業の方がよいと答えた生徒の理由として、a)わかりやすい。b)みんなの意見や考えがよくわかる。c)次に何をすることがよくわかるので予習ができる。d)作業や実験をともなう教科では事前に何を準備しなければならないかなどがわかりやすい。

#### (6) 今後の課題

① 単元見通し学習の指導案を書いてみて、今までいかにこまぎれの授業をやっていたかに気づいた。今学期は、1単元、4~5時間を単位にまず書いてとりくんだ。継続して研修を進めていくことは非常に努力を要するが、一般的指導案モデルを足がかりにして豊浜中学校の生徒の実態に即した指導づくりを深めていきたい。

② 単元見通し学習にとりくむことにより、教師、生徒共に課題一覧表により、次のステップ(課題)の見通しができることから、家庭学習へのつながりを求めている。

③ プリテストの実施により、生徒の既習内容、学力等の実態把握ができ、学習を進める上で又、内容の精選などに非常に良い、しかし1単元の見通しをたてる時点でおこなうプリテストがその課題にどう組み込まれ、どう影響していくか、という点がまだかっちりしていない。単に1つのモデル・システムを組んだというだけでは学力保障につながるとはいえないので、今後の研究課題の一つであると思っている。

## 町内バス（地域バス）の紹介

豊浜中学校

### (1) 町内バスとは

毎週1回（水曜日）6校時目に、全校生徒が通学区域別集団として、11会場に分散して出向き教科プリントを中心に自主的なバス学習や地域活動をしている。これを名づけて町内バス（地域バス）と呼んでいる。

### (2) 町内バスが実践された背景

離島で漁業家庭の多い地域であり、しかも漁業者の多くが県外への長期出漁を余儀なくされているという実態がある。このため留守家庭を守って通学している小中学生の多くは家庭環境としては多くの課題を背負っている。とくに中学生らしい家庭学習の習慣が育ちにくい。また家庭的な愛情不足から情緒不安や対人関係についても孤立や対立を招きやすく、学習塾もない地域だけに学校におけるクラブ活動以外には余暇の過ごし方にも多くの問題をかかえている。このようなことから一部の教師が日曜日などに近所の子どもたちを教員住宅に集めて学習を見てやる程度の実践があった。学校では復習バスの実践があり、この形で地域にゆさぶりをかけては、の空気がでた。昭和47年夏の第4回全国バス研究集会の時点では全校態勢で受けとめるまでになった。各地域ごとに会場提供をうけ、地域によっては多額の出費で学習机を購入して提供してもらうなど、学校、生徒、保護者と地域ぐるみの町内バスが生れることになった。

当時すでに姫路市立高丘中学校において生徒や地域実態の中に豊浜中学校の実態と共通する課題があって町内バスの実践がなされていたという事情もあって、町内バスの技術面、運営面については高丘中学校の実践を取り入れることができた。

### (3) 町内バスのねらい

(ア)自主的な家庭学習を習慣化するためのステップとして町内バスを位置づけ、同時に地域ごとの仲間づくりと連帯感を高める。従って運営の基本は生徒の正副バス長を中心にした自律的なバス集団であって、授業の補充的な性格のものではない。

(イ)保護者が当番制で町内バスに出席していただき、わが子だけでなく地域の子どもとして見守ってもらえる人間関係をつくり生徒、教師、保護者、地域社会相互の信頼関係を育てる。

(ウ)道路などの地域清掃やレクリエーションなども取り入れて、地域活動を通じて中学生らしい生活態度を確立していく。

### (4) 実施方法

#### (ア)会場（11会場）

大浜地区……大浜農協                      立花地区……集会所                      内浦地区……農協 と 本覚寺

小浦地区……公民館Ⅰ、公民館Ⅱ、良鎮寺、室原神社、消防屯所

山崎地区・寄宿舎生……登照寺                      豊浜学寮……学寮会議室

#### (イ)学習内容

5教科を年間計画表に従って教師が学年別のプリントを作成し、町内バス教科委員に手渡す。地域活動の日は年間計画表に従って正副バス長で指揮運営に当る。

(ウ)進め方

午後2時45分に全校生徒が通学地区別にグラウンドに集合する。生徒会校外自治委員長の号令で2列縦隊、右側通行のもとに各会場に移動する。この際交通指導にも配慮する。

会場における町内バズの進行順序としては、

- バズ長の号令（これから町内バズを始めます。気をつけ。礼）
- 出欠の確認（副バズ長）      ○プリントの配布（各学年別の教科委員）      ○個人で取組む。
- 学年ごとのグループでバズ      ○答えあわせ      ○反省、発表      ○保護者気づき発表
- バズ長号令（これで町内バズを終わります。気をつけ。礼）      ○後片付      ○解散

(エ)町内バズの教科委員

町内バズの教科委員は会場別；学年別；教科別（2～3人）に選出されている。このため、ほとんど全員が何らかの教科委員として活動している。

(オ)家庭学習へのつながり

一応町内バズによって家庭学習への態度づくりや習慣化をねらった学習を経験させているわけであるが、さらに具体化させる試みとして、町内バズ用のプリントを作成する際、別に1枚家庭学習用のプリントをつくっておき、問題配布のときに渡しておく。生徒たちは町内バズ終了後、各自、自宅で学習しその結果については、翌日木曜日の朝、10分間のホームルームの時間に教科委員が正解を発表して各自が自己評価する方法をとっている。また問題作成に当ってはなるべくやさしいものを多く出して、できる喜びと自信をもたせるように心がけている。

(5) 町内バズの年間計画

月 日	活動内容	6・27	地域清掃	10・24	英 語	12・19	国 語
5・2	説明班編成	7・4	国 語	*・31	地域清掃	1・16	社 会
16	国 語	14	活の清掃	11・7	国 語	23	地域清掃
23	社 会	8・13	地域清掃	14	社 会	30	数 学
30	数 学	9・19	社 会	21	理 科	2・6	理 科
6・6	地域活動	26	地域活動	12・28	地域活動	13	地域活動
13	理 科	10・3	数 学	12・5	数 学	20	英 語
20	英 語	17	理 科	12	英 語	3・6	地域活動

(6) 本年度の取り組み

本年度は自主性を伸ばし、連帯感を強めることを大きなねらいとして実施してきた。

(ア) 自主的な家庭学習の習慣化を身につけさせることを主眼におき、町内バズで学習したことをさらに家庭学習につながるものにするため、バズ会場用プリントと、家庭学習用プリントを同時に配布することにした。家庭学習用プリントの内容は、バズ会場で行う学習内容と関連をもたせ、バズ会場で学習した内容の復習のための確認課題、発展課題の問題作製につとめている。そして生徒は、家庭学習用プリントを次の日学校に持って来、朝の10分間のHRの時に各クラスで、プリントについてバズセッションを行っている。

(イ) 地域活動については、各会場毎に生徒が自主的に計画立案し、各会場のバズ長がそれぞれの年間活動計画案を持ち寄り、活動内容の調整を行い実施されているが、各会場ごとに特色のある立案がなされている。その中には、ソフトボール・バレーボール等のスポーツ活動や料理、読書、室内ゲーム、お茶会、送別会などの内容がみられ、学年のわくを超えた同じ地域の仲間意識の高まりを感じさせる。

交通安全指導については、バズ会場移動のさい、バズ長を中心に指導を行うと同時に、毎月1日と交通安全週間・旬間中は、バズ長が交替で町内3か所に立ち指導を行なっている。

地域清掃は、会場・道路等を清掃している。町民から、ご苦労さんの声をかけられて地域ぐるみを願う主旨にもかない大きな励みになっている。しかし小浦地区会場での保護者の出席が得られにくい事情については、学校側として検討を要する課題となっている。

理 学 学 習 指 導 案

指導者 丸 山 大 輔

学 年 3 学 年 B 組 男子 8 名, 女子 13 名, 計 21 名

単 元 「運動と仕事」

そのうちの「Ⅲ 電流と仕事」

目 標 <認知目標>

- ① 電流によって磁界が生じる。
- ② 電流によって、仕事をすることができることを理解する。(電流→仕事)
- ③ 力学的な仕事をすることによって、電流がとり出せることを理解する。(仕事→電流)

<態度目標>

- ① 実験→考察→まとめをする中で、科学的概念を得ていく態度を身につける。

下位目標

- 1 電流は磁界を作り、磁界は磁力線を使って表わされる。
- 2 磁界の中を流れる電流は、磁界から力を受ける。
- 3 磁界の中を流れる電流によって、物体に仕事をすることができる。
- 4 磁界の中で、仕事することによって、電流をとり出すことができる。

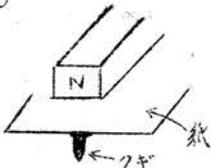
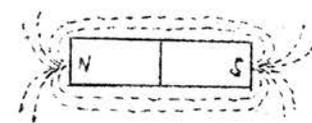
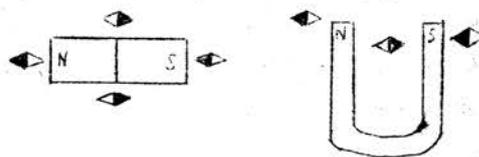
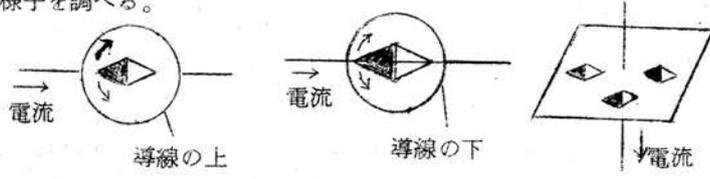
学習課題

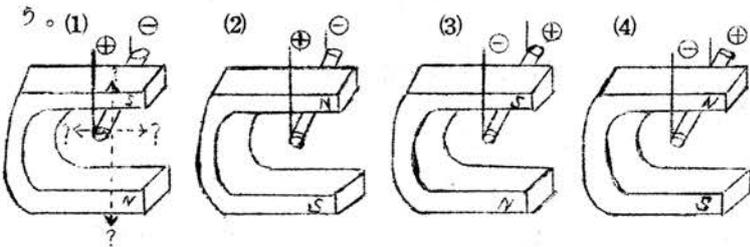
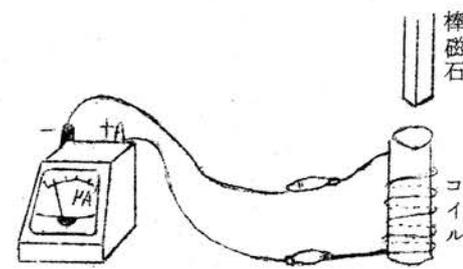
- 1-1 磁界のまわりの空間の様子を調べて、その様子を図(モデル)で表してみよう。
- 1-2 導線に電流を流すと導線のまわりには、どのような磁界ができるか調べよう。
- 2-1 磁界の中にある導線に電流を流すと導線はどのようになるかを調べよう。
- 2-2 フレミングの左手法則を使って、次の問題を解いてみよう。
- 2-3 磁界の中にある導線に、電流を流すとなぜその導線は、力を受けるのか、別紙プリントを読んで考えてみよう。
- 3-1 別紙プリント「模型のモーター」を読み、モーターの原理について考えてみよう。
- 4-1 コイルの中に、磁石を出し入れして、マイクロアンペア計の針の振れ方を調べよう。
- 4-2 コイルの中に磁石を出し入れすると、コイルにはどのような向きの誘導電流が流れるか調べてみよう。

<学習計画(11時間)>

○印は実験

時限	学習課題	実 践 活 動
1	ブリテスト	ブリテストに、取り組む。 簡単な演示実験をし単元の流れについて説明する。

②	1-1	<p>○実験 ①～③を行う。</p> <p>① </p> <p>② 磁石の上に鉄粉をまいていく。 </p> <p>③ 磁石のまわりに方位針を置き方位針のさす向きを調べよう。 </p> <p>○実験プリントに実験結果をメモする。 ○実験プリントの考察を行う。</p>
3	1-1	<p>○プリントの問題を教科書 P130～131 を参考にして行う。(個人)</p> <p>○班でバズを行う。</p> <p>○磁界, 磁界の向き, 磁力線について全体でまとめる。</p>
④	1-2	<p>○実験①～④を行う。</p> <p>導線やコイルに電流を流して, 導線やコイルのまわりに生じる磁界の様子を調べる。</p> <p></p> <p>○実験結果をまとめ考察を行う。</p>
		<p>○プリントの問題を行う。(個人)</p> <p>○班でバズして答え合わせ。</p> <p>○電流を流した時にできる磁界について全体でまとめを行う。</p>

⑥	2-1	<p>○図のような4つの場合について実験を行い、導線の動く向きを調べよう。(1) (2) (3) (4)</p>  <p>○実験プリントの考察を行いフレミング左手法則を導いていく。</p>
7	2-2 2-3	<p>○フレミング左手法則を使い、問題を考えてみよう。(個人) ○班でバズしてみよう。 ○「読み物」の部分を読んで、磁界の中にある導線に電流を流すとなぜその導線は、力を受けるのかを考えてみよう。</p>
8	3-1	<p>○別紙プリント「模型のモーター」を読み、モーターの原理について考えてみよう。 個人→班→全体</p>
⑨	4-1	<p>○棒磁石を出し入れすると、マイクロアンペア計の針の振れはどうか実験して調べよう。</p>  <p>○実験プリントの考察を行う。</p>
⑩	4-2	<p>○棒磁石を出し入れした時の誘導電流の向きについて実験で調べてみよう。 ○誘導電流の流れる向きについて、プリントを使ってまとめてみよう。</p>
11	ポスト テスト	<p>○ポストテストを行う。</p>

# 社会科学習指導案

指導者 底 押 正 司

学 年 1年c組 男子12名 女子12名 計24名

単 元 オセアニア

- 目 標 認知目標 1 オセアニア全体の位置、範囲を理解する。  
 2 オーストラリアの自然、社会、経済について理解する。  
 3 ニュージーランドの産業について理解する。

態度目標 〇 意欲的に資料・地図を活用できるようになる。

- 学習課題 1-1 オセアニアに関して知っている事を発表させる。  
 1-2 オセアニアの範囲を確認させる。  
 2-1 オーストラリア・ニュージーランドの略地図を書き、地形・気候を記入させる。  
 2-2 オーストラリア・ニュージーランドの共通した歴史について調べさせる。  
 2-3 オーストラリアの人口密度、人口の分布を調べよ。  
 2-4 オーストラリアの牧羊業について調べよ。  
 2-5 鉱業の発展の要因を調べよ。  
 2-6 日本とオーストラリアとの経済関係を調べよ。  
 3-1 ニュージーランドの産業について調べよ。  
 3-2 太平洋の島々の人たちの生活を調べよ。

## 学習計画

時 間	学習課題	生 徒 ・ 教 師 の 活 動	時 間
1		オセアニアの学習について説明	10分
	1-1	自由に発表（プリテスト）	5〃
	1-2	隣と確認する。掛図で再確認させる。	5〃
	2-1	地図帳で調べる。気候について説明する。	15〃
	2-2	教科書で調べる。	5〃
	2-3	地図帳で調べる。特色を発表	10〃
2	2-4	資料から羊毛産業についてまとめる。	15〃
	2-5	資料から鉱業についてまとめる。	20〃
	2-6	資料から考えさせる。まとめ	15〃
3	3-1.2	教科書でまとめる。補足説明	30〃
		ポストテスト	20〃

# 豊 町 立 豊 中 学 校

## 研究授業

### 1. 時間配分

10:00	10:30	11:10	11:20	12:10	13:00	14:00
受付	クラブ発表		研究授業	昼食	研究協議	移動

### 2. 授業内容

学 年	教 科	授 業 者
1 年	美 術	長 尾 源 一
2 年	国 語	小 迫 和 子
3 年	理 科	二 宮 力

## 豊 中 学 校 の 取 り 組 み

本校の教育目標「バズ学習の深化充実により、自主、協同、創造の学校、学級づくりの中で、単元見通し学習法の実践的研究を推進する」達成のために、次のような取り組みを続けている。

### 1. 生徒集会

本校では毎週月曜日の1校時目（30分間）に生徒集会を設定し、生徒会役員の司会で次のように運営している。

#### (1) ねらい

全校的活動として行ない、集会活動のやり方、あり方を学ばせると共に生徒の自主性を育成する。

#### (2) 内容

- 各委員会の活動の評価及び課題の報告、提案
- 週間実践の評価及び課題と重点目標の提案
- 学級活動状況の公開報告（学級の意見発表）
- 全身体操（冬期はかけ足）
- 教師からの諸注意及び連絡

以上の中で特に重視しているのが学級の意見発表である。学級毎の発表順番をあらかじめ決めておき発表に際しては学級で1つのテーマをもとに話し合い、その結果を代表者（順番制）が発表提案することになっている。発表内容は、①学習態度の見直し ②人権学習 ③身のまわりの問題 ④服装 ⑤掃除等学校生活全般についての問題がとりあげられている。全校生徒の前での発表は中学校生活の中でも貴重な体験をさせることになり、また学級内で個々の自覚を高めるためにも意義あるものとなっている。しかし、すべてを生徒まかせにしていると発表の内容や態度さらには聞く側に問題が生じてくるので教師は発表内容に目を通し筋道を立てて発表するよう指導したり、話し方、聞き方の態度を全領域で育てることに留意している。今後の課題として発表されたことに対して個々の生徒がどう受けとめたのか、そして今後どう対応してゆけばよいのかを考えさせ問題点を深めていく場を設定し、問題解決の能力と態度を磨くことに努めていきたい。

### 2. 進路指導

進路指導は生徒の一生を左右する重要な課題である。生徒ひとりひとりの進路を保障するために、どのような実践を行なっていくか。また、すべての生徒が自信と希望をもって歩んでいくための進路の選択のあり方とはどのようなものか検討してきた。

本校の進路指導上の問題点として、生徒および保護者共に地元高校に対する根強い偏見もっていること。また自己の能力、適性、家庭の経済的事情を無視し、単に仲間集団を維持するための希望とか、親元を離れての生活に対する漠然としたあこがれ等安易な考えから希望が出てくることである。中でも「地元高校に行くなら勉強しなくてもよい」という安易で打算的な傾向が存在していることは本校の平素の教育活動上の大きな問題である。その原因として、学

習することが生徒にとっては入試のための道具としてとらえられ、生きるための本質的な課題としてとらえさせる日常的な指導に欠けていたことが考えられ、教師集団として、こうした反省にたって教育内容の検討や改善に取り組んでいる。

進路指導は「自分が人間としてどのように生きたいのか。そのためにどんな職業につきたいのか。その生活設計に基づいて、今日のような学習をし、どこの高校や就職先を選ぶべきなのか等を考えさせ、自覚化させ、具体的に指導してゆくべきものと考えられる。そのために生徒達には「将来何になりたいのか」を自分で考え、自分で語らせ、それをもとに学級集団として共に将来を考え、そのために今自分達は何をしなければならぬかを話し合わせ、互いに高めあう実践を続けている。

学級活動において進路を考える中で、高校入試の問題、高校学区制の問題等を紹介し指導しながら矛盾点をあげ生徒と共に考え、また保護者に対しても家庭訪問、個人懇談会、三者懇談会、地域懇談会など機会あるごとに地域教育の振興の必要性について根気強く説明を続けている。現在の差別、選別の教育体制の中で不合理や矛盾、その集積としての差別を正しく見抜く力、更にそれをはね返していこうとする考えや力を社会事象の中での的確にとらえ指導していかなければならない。今日の子どもの姿は、明らかに現代の社会であり、学校であり、家庭なのである。自分で自分の生き方を選択し、社会に主体的に生きることのできる力を育てる教育のあり方を今後も追求していきたい。

### 3. 生徒指導とわかる授業の創造

本校の生徒指導においては次のような目標をあげ指導にあたっている。

- (1) 自他の生命を尊重し、仲間と協力してよりよい生活を築こうとする主体的生活態度の育成
- (2) 集団の一員としての自覚に立ち、集団のきまりを守り、進んで学ぼうとする主体的学習態度の養成。
- (3) 個性の伸長と忍耐力の養成
- (4) 基本的生活習慣の育成

以上の目標の実現のためには、まず生徒理解こそ生徒指導の原則との考えにたち、生徒の願いや気持ちを諸検査、班ノート、相談活動、その他諸活動を通して生徒との心の触れあいの場面も多くもち共に生きるという姿勢の中で課題を見い出していくことに努めている。

生徒にとって各教科の学習は学校生活の基盤であり、生徒自身の自己実現の場である。豊かで楽しい学校生活を送るために、まず、わかる授業を創造し、生徒が主体的に参加できる授業の確立を目指している。さらには、従来よりの「単元見通し学習法」を生徒に定着させることによって、人間関係を大切にしながら集団の中で自らが主体的に自己実現を図り、すべての生徒が生き生きと参加できる授業の創造に取り組んでいる。

また基本的な生活規律を身につけさせることも集団生活を営む上で欠かすことができないものである。指導の基本事項として、

○挨拶 ○言葉づかい ○服装 ○時間の厳守 ○掃除の徹底 ○給食 ○交通安全等をあげ教職員集団の意識統一を図り、保護者や地域社会と連携をとりながら、あらゆる場で指導に

あたることにしている。これらは教師や保護者などの一方的指導、訓育のみにたつのではなく、学校、学級集団の中でも獲得させるようにしている。生徒朝礼、道徳、HR、30分学活、クラブ活動、生徒会活動、校外自治会、リーダー講習会等の諸活動の中で自らの体験を通し生徒集団の連帯と規律ある集団に高めるよう努力をしている。特に1983年度より全校で統一した班日誌を作成し、学習面、生活面についてHRの中で自己評価、および相互点検活動を行ない生徒相互の力で正し合い、支えあう中で共に高めていく方向で取り組みを進めている。

#### 4. 30分学活

30分学活は、毎週木曜日の6校時に位置づけられた学級活動の時間である。当初は「ゆとりと充実」の時間の一端として、主に学級会活動および学級指導を内容として出発した。その後、検討を重ね、次のような内容で運営している。

##### (1) ねらい

- ① 自主、協同、創造の態度や能力を培い、問題解決の能力と態度をみがく。
- ② 集団に所属し、集団の一員としての役割を果たしていく力を養う。
- ③ 授業の中でのバズ学習がスムーズに進むための訓練の場とする。

##### (2) 活動目標

- ① 班活動における問題点をみんなで解決していく。
- ② わからないところをなくする。
  - ア. 教科でわからないところを出し合い（自主）
  - イ. ねり合い（協同）
  - ウ. 確かなものにし、理解を深め、高めていく（創造）

##### (3) 具体的活動

- ① 教科のわからないところ、あるいは班活動における問題点をみつける。
- ② 問題点をグループに出す。
- ③ 問題についてバズをしてねり合う。バズ長はみんなが自分の考えを出せるよう努力する。
- ④ バズをして得たことを整理し確める。
- ⑤ 必要に応じてバズグループから学級へ問題を出す。
- ⑥ 必要に応じて学級から教科へ問題を出す。

##### (4) バズグループでのルール

- ① 問題をみんなに出すとき、問題をはっきり人によくわかるように出す。
- ② 他人の出した問題に關して、自分の考えを出す。
- ③ 他人の意見集中して事をわけながらきく。
- ④ ひとりが発言しているときは、同時に他の人は発言しない。
- ⑤ 自分が話し終わったら「次の人どうぞ」と言って他の人の意見を出しやすいように誘う。

#### 5. クラブ活動

クラブ活動は、生徒一人ひとりの自由で自発的な発想を振り所として展開できる貴重な活動場面である。しかしながら本校では、従来「自主的に計画を立ててやる」という点が極めて弱

く、したがって「やらされるクラブ」という意識が生徒に強く、そのため活動が不活発となっていた。このような弱点を克服すべく、1982年度よりクラブのあり方について検討を重ねてきた。改革の視点は、活動の内容を見直し教科とは別のおもしろさ、楽しさが味わえ、生徒のやる気へとつながるものを設定し、生徒の自主的活動を保障していくことであった。そして今後のクラブのあり方として次のように確認した。

- ① 生徒がそのクラブで取り組む課題を明確にすること。
- ② 活動内容は例外はあるにせよ基本的には教科と関わるものにする。だが授業の延長のようなものであってはならないこと。
- ③ 生徒が自分で課題を設定する方向で教師は指導、援助すること。そのため学期初めに生徒一人ひとりに「クラブ学習計画」を立てさせること。
- ④ 学期初めに立てた学習計画に基づく活動を学期末に生徒が自分達で評価する「学習のまとめ」を記入させること。（クラブ学習計画と学習のまとめの様式は後に掲げる）

以上のような考え方にたって活動をはじめた。こうして従来の弱点をかなり克服することができたが、さらに意欲的な活動を促すためにということから、各クラブ活動の成果を全体の場で発表し、互いに交流しあうクラブ発表会を年に1～2度開催することにしていった。このことは1年間の活動状況の評価を全体から受けるよい機会であり各クラブはこの発表会を一つの目標として頑張ろうとする姿勢が生まれた。

現在、次のクラブを設置して活動をしている。

- ①新聞 ②手芸 ③旅行研究 ④美術 ⑤工作 ⑥体育 ⑦気象観測 ⑧音楽 ⑨英語  
⑩演劇 ⑪統計 ⑫文芸 ⑬保健 ⑭茶道 ⑮スポーツ統計

全体的に一步前進はみられるが、年度初めのクラブの決定、クラブ発表会の時期や回数など今後、検討を要する課題も残されている。

〔学習計画・まとめ様式〕

クラブ学習計画				クラブ学習のまとめ( )学期				
年 組 番 氏名				年 組 番 氏名				
クラブ名				クラブ名				
テ ー マ				今学期の 学習内容				
計 画	年 間			評 価	自己評価	A	B	C
	学 期	1			A	B	C	
	学 期	2			A	B	C	
	学 期	3		相互評価				
今 月			今学期の 反省と来学 期の課題					
準 備								

## 国語科学習指導案

指導者 小迫 和子

1. 学年 2年B組 (男子13名 女子16名)
2. 単元 文学の鑑賞 - 詩二編 (大阿蘇, 月夜の浜辺)
3. 目標

- (1) 認知的目標

- ア. 二編の詩を通して, 解釈の方法を学び, より深い鑑賞をすることができる。
- イ. 「大阿蘇」の詩を通して, 悠久な自然の描写を味わわせる。
- ウ. 「月夜の浜辺」の詩にこめられている作者の心象風景をつかませる。

- (2) 態度的目標

- ア. 詩の内容を理解することにより適切な詩の朗読ができる。
- イ. グループの中で協同して学ぶ態度を育てる。

4. 提示課題

「大阿蘇」

- 課題(1) 一頭一頭の草を食べている馬を描いているのか, 草を食べている全体の馬を描いているのだろうか, そのどちらだと思いか理由を述べなさい。
- 課題(2) 馬の背景に何があるのか, またその様子はどうなのかまとめなさい。
- 課題(3) 「…ている」の反復, 句読点がない事, 詞句のリフレインなどの表現の特色は, この詩でどのような状況を述べたいために使われているかまとめなさい。
- 課題(4) 「もしも百年が……」の一行で, 作者は何が言いたかったのか考えてみなさい。

「月夜の浜辺」

- 課題(5) 「月夜の晩に, ボタンが一つ 波打ちぎわに, 落ちていた」という表現が二度繰り返されているのはなぜかまとめなさい。
- 課題(6) 「それを捨てて役立てようと僕は思ったわけでもないが」という表現が二度繰り返されているのはなぜかまとめなさい。
- 課題(7) 第二連に, 「なぜだかそれを捨てるにしのびず」とあるが, なぜ捨てられなかったのか理由を書きなさい。
- 課題(8) 「月に向かってそれはほりれず 波に向かってそれはほりれず」とあるが, この場合の月や波にはどんなイメージが込められているか考えてみなさい。
- 課題(9) 浜辺で拾ったボタンに作者のどんな思いが込められているかまとめなさい。

5. 単元の学習計画

配当時間 6時間 期間 10月19日 ~ 10月29日

時間	課題	活動		評価方法	修正事項
		教師	生徒		
1	朗読	○擬態語（蕭々と、濛々と）の説明	○範読を聞く → 各自 微音読 → 指名音読	机間巡視 自己評価	
	ブリテスト	○ブリテスト配布	○ブリテストをする		
2	(1)	○学習計画の説明 ○馬の呼び方にも触れながら説明	○学習の見直しをもつ ○朗読 ○理由をノートにまとめる。 (個 → 班 → 全体)	机間巡視 発表 机間巡視 発表	
	(2)	○作者の視点が近景→遠景→近景と移動していることを補足説明	○背景とその様子をノートにまとめる。 (個 → 全体) ○朗読		
3	(3)	○1か所だけ又末の表現が違っていることも含めて説明。	○朗読 ○三つの特色の共通した効果をノートにまとめる。 (個 → 全体)	机間巡視 発表 机間巡視 発表	
	(4)	○課題(3)と関連させて説明。	○作者が言いたかった事をノートにまとめる。 (個 → 班 → 全体) ○朗読		
4	(5)	○リフレインの効果について補足説明	○朗読	机間巡視 発表	
	(6)		○理由をノートにまとめる。 (個 → 班 → 全体)		
	(7)	○課題(5)(6)と関連	○理由を第三連以降か		

時 間	課 題	活 動		評 価 方 法	修 正 項 事
		教 師	生 徒		
		させて説明。	らさがし、ノートに まとめる。 (個 → 班 → 全体) ○朗読	机間巡視 発 表	
5	(8)	○第二連と第四連の詞句の 違いは、この二行だけで あることを確認した上で 説明。	○朗読 ○月や波はどんなイメ ージかノートにまと める。 (個 → 班 → 全体)	机間巡視 発 表	
	(9)	○課題(8)と関連させな がら説明。	○ボタンにこめられた 作者の思いをノート にまとめる。 (個 → 班 → 全体) ○朗読	机間巡視 発 表	
6	朗 読 ポストテス ト 補 充	○情景や心情を味わいな がら朗読するよう指示。 ○ポストテスト配布。  ○弱い所を補足	○各自微音読 → 指名 音読。 ○ポストテストをする。 (個 → 班 → 全体) できなかった所を整 理し出し合ひ。	自己評価  通過率	

## 美術科学習指導案

指導者 長尾 源一

1. 学 年 1年B組 (男子18名 女子20名)
2. 単 元 版画共同製作 主題「みかん山」に学ぶ  
みかんの島 豊町。過去50年間、みかんと共に生きてきた郷土の姿と再話し、この島の先達の生きざまから何を学ぶべきかを考え、みかん山を確りとみつめ直し、みかん山の美を発見し、協同してその美を創造することを目的とした。
3. 目 標
  - (1) 認知的目標
    - ア. テーマ性の追求……みかんづくりについてのレポートの作製  
歴史的なもの、苦労話し、問題点 等を祖父母、親、その他の人達から聴取し、自分の考えを含めてまとめる。
    - イ. 共同製作についてのねらいを理解し、見通しをたてて製作出来るようになる。
    - ウ. 主題にもとづいた表現が出来るよう表現方法について研究する。
    - エ. 単色版画的持つ白、黒の美しさと、多色版画的持つ色彩美を学習する。今回は一版多色刷り版画を中心とした学習をする。
  - (2) 態度的目標
    - ア. 郷土の姿を確りとみつめる態度を培い、学んだことを自分の生活に生かせるよう努力する。
    - イ. グループにおける各自の仕事分担を確実に果たし、共同して作品に取り組み態度を身につける。
    - ウ. グループと個人の連携を計りながら作品に取り組み、自己を統合しようとする態度を培う。
4. 提示課題
  - 課題(1) 事前の課題で収集した資料(レポート)をもとにテーマを追求せよ。
  - 課題(2) 学習計画について確認し、版画共同製作について理解せよ。
  - 課題(3) みかん山を歩き主題のねらいを確認しながらモチーフを選択せよ。
  - 課題(4) 下絵の製作……モチーフとして使いたいものを各自でスケッチせよ。
  - 課題(5) 下絵の検討……下絵をもとに全体の構成について考えなさい。
  - 課題(6) 全体の構成に従って下絵を完成させ、版にトレースして墨入れをせよ。(太い筆を使って、黒いマツスとして捉えて下絵を描け。)
  - 課題(7) 彫りの準備と彫り……いかに多く彫るかではなく、いかに少なく彫って効果をあげるかを理解して彫れ。
    - (7-1) 下絵をもとにおおまかな形を彫りあげよ。
    - (7-2) 全体の彫り、形がどのような感じで進んでいるか検討せよ。
    - (7-3) 作品のねらいが生かせるよう工夫し細部をまとめよ。

(7-4) グループで彫りを修整せよ。

(7-5) グループの彫りを完成せよ。

課題(8) 刷り……試し刷り, 修正刷り, 本刷り

(8-1) 絵の具の混合を工夫し表現効果を考えて刷れ。(試し刷り)

(8-2) 試し刷りの効果を相互に検討しながら修整し本刷りせよ。

(8-3) 各自の刷りを完成せよ。

課題(9) パネルづくり。台紙の水張り。

(9-1) グループ毎にパネルづくりをせよ。

(9-2) パネルに台紙を水張りせよ。

(9-3) パネルを完成せよ。

課題(10) 構成

(10-1) 各自の作品を切り取り, 必要な枚数を揃えよ。

(10-2) 各自の作品を持ち寄り, グループ毎に構成し, 作品を貼れ。

(10-3) 構成要素が生かされているか検討し修整せよ。

課題(11) パネルカバーかけ。展示

(11-1) パネルにカバーをかけ, 温風をあててカバーを張らせよ。

(11-2) 展示場所, 展示効果を考え, 作品が生きるように工夫し展示せよ。

課題(12) 評価

(12-1) 各自の作品について自己評価し, その後, 班で相互評価せよ。

(12-2) 各班の作品を相互に鑑賞し。テーマに対して, 木版画独特の明快な美しさが表現されているか意見交換せよ。

#### 5. 単元の学習計画

配当時間 18時間 期間 9月5日 ~ 10月31日

時間	課題	活動		評価方法	修正事項
		教師	生徒		
1	プリテスト	○プリテスト配布 ○机間巡視	○各自でやった後, 教科書, 参考書を使い分からない箇所を班で調べる。(個→班)	○自己評価 ○相互評価	
2	(1)	○テーマについての説明	○資料を相互に発表しテーマを明確にする	○レポートの提出	

時間	課題	活動		評価方法	修正事項
		教師	生徒		
2	(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これからの学習計画についての説明</li> <li>○版画共同製作についての説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の見通しをもつ。</li> <li>○教師の説明を聞く。</li> <li>○版画共同製作について理解する。</li> <li>○ノート整理 (個)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴態度</li> <li>・ノート点検</li> </ul>	
3	(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○モチーフの選択の仕方について説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主題に合ったモチーフを選択する。(個)</li> <li>○班毎に分担を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡視</li> <li>・班活動</li> </ul>	
4	(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巡視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○モチーフを各自でスケッチする。(個)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡視</li> </ul>	
5	(5)		<ul style="list-style-type: none"> <li>○班毎に構成をまとめる。(各自の下絵を生かすよう工夫する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケッチの点検</li> <li>・班活動</li> </ul>	
6	(6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○トレース、墨入れについての説明。</li> <li>○画面構成について再度補足説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○下絵を完成させる。</li> <li>○下絵を版に写し、墨入れをする。(個)</li> <li>○班で下絵を検討する。</li> <li>○画面構成を修整する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品点検</li> <li>・活動状況</li> </ul>	
7 10	(7) (7-1) (7-2) (7-3) (7-4) (7-5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○彫りについて説明。</li> <li>○特に刀の生かし方について個人指導を行なう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各自の担当箇所を彫る。</li> <li>○注意事項を確認しながら彫りを進めていく。</li> <li>○班毎に彫りの修整。(個→班)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視</li> <li>・作品点検</li> <li>・活動状況</li> </ul>	

時間	課題	活動		評価方法	修正事項
		教師	生徒		
11 12	(8) (8-1) (8-2) (8-3)	○刷りの要領を演示し、理解させる。	○刷り ○ためし刷り→修整 →本刷り。(個)	・机間巡視 ・作品点検	
13	(9) (9-1) (9-2) (9-3)	○パネルづくり、水張りについての要領の説明。	○規格に従ってパネルをつくる。 ○台紙にムラが出来ないようにパネルに水張りする。(班)	・パネルの点検 ・水張りの状態を点検	
14 15	(10)	○構成要素、構成のし方について補足説明。	○構成……パネルの上に各自の作品を持ち寄り、構成要素を生し各自で構成してみる。 ○班での話し合いをもとに構成を決定する。	・活動状況 ・個人発表 ・作品点検	
16	(11) (11-1)  (11-2)	○パネルカバーかけについての説明  ○展示のし方について説明	○パネルカバーかけ パネルカバーの性質をよく理解しカバーをかける。 ○展示 適当な場所に展示する。(班)	・パネルカバーの点検 ・展示状況	
17	(12)	○評価カードの使い方、評価方法についての説明 ○講評	○評価 ○個人評価 ○班での相互評価	・個人評価 ・相互評価 ・全体評価	
18	ポストテスト	○ポストテスト配布	○テスト(個)	・通過度	

1. 学年 3年B組 (男子21名 女子16名)
2. 単元 「運動と仕事」 第1章 運動のようすと力 (東書)
3. 目標
  - (1) 認知的目標
    - ア. いろいろな運動を速さや向きについて分類しその多様さに気付かせる。
    - イ. 運動を記録したり, その結果から平均の速さを求めたり, グラフ化する科学の方法を学習させる。
    - ウ. 等速直線運動や速さが変わる運動について実験・観察を基に, 時間と速さ, 時間と移動距離の関係について理解させる。
    - エ. 速さの変化の原因が力であることに気付かせ, 力のはたらかない場合の慣性の法則について理解させる。
  - (2) 態度的目標
    - ア. 積極的に実験に取り組み, 実験を工夫しようとする態度
    - イ. 学習内容と身近なものを関連づけて考えようとする態度
    - ウ. 目的意識をもって実験, 観察する態度
4. 提示課題
  - 課題(1) 日常生活の中で見られる運動を分類せよ。
    - (1-1) 向きの変わる運動と向きが変わらない運動に分けよ。
    - (1-2) 速さの変わる運動と速さが変わらない運動に分けよ。
  - 課題(2) 物体の運動を記録するには何を測定すればよいか書け。
  - 課題(3) おもちゃの運動の様子を記録し, 時間とはじめの位置からの距離のグラフと時間と1秒ごとに動いた距離のグラフを作成せよ。
  - 課題(4) 運動を記録した結果から平均の速さを求めよ。
  - 課題(5) 同じ運動でも基準のとり方によって運動の向きや速さがどのように違ってくるか説明せよ。
  - 課題(6) 記録タイマーを使って, 手がテープを引く運動を記録し, 手の速さがどのように変化したか, テープの打点から読みとれ
  - 課題(7) 台車を短時間手で押した時の運動や斜面での台車の運動を記録タイマーを使って記録せよ。
  - 課題(8) 等速直線運動とはどのような運動か説明せよ。
    - (8-1) 課題(7)のテープの記録から時間と速さのグラフを作成せよ。
    - (8-2) " 時間と距離のグラフを作成せよ。
  - 課題(9) 速さ・時間・距離のうち, 2つが分っている場合, 単位に注意して他の1つを計算で求めよ。

課題(10) 摩擦力とは何か。運動している台車にはたらく摩擦力を測定せよ。

課題(11) 斜面での台車の運動はどのような運動か説明せよ。

(11-1) 課題7のテープを6打ごとに切りとり、時間と速さのグラフを作成せよ。

(11-2) 速さが変化する原因は何か答えなさい。

課題(12) 物体が落下するときの運動を記録タイマーを使って調べよ。

(12-1) 時間と速さの関係をグラフに表せ。

(12-2) 時間と距離の関係をグラフに表せ。

(12-3) 落下運動はどのような運動か、グラフから解釈せよ。

課題(13) 慣性の法則について説明し、その実例を上げよ。

6. 学習計画 14時間 10月24日～11月20日

時 間	課 題	活 動		評価方法	修 正 事 項
		教 師	生 徒		
1	ブリテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブリテスト配布</li> <li>○解答する。</li> <li>○学習計画を説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書を見ながらでもいいからまず自分で取り組む</li> <li>○班で解らない所を出し合う。</li> </ul>	○机間巡視	
2	(1) (1-1) (1-2) (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書(P92～93)も参考にさせる。</li> <li>○写真などを使用して、何と何がわかれば速さを計算できるか、考えさせる。</li> <li>○単元の学習内容を説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各自で考えたのち、班でまとめて発表</li> <li>○各班でいろいろな考えを出し合ってみる。</li> </ul>	・発表  ・机間巡視 ・発表	
3	(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験1(P96～97)の注意を与える。</li> <li>○役割を交代して各自が記録した紙をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書を読んで実験計画を立てる。(班)</li> <li>○記録の前に2～3回練習する。</li> <li>○教科書P98を参考に記録をグラフ化する。</li> </ul>		

時間	課題	活動		評価方法	修正事項
		教師	生徒		
4	(4) (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○速さは単位時間に進む距離であることを説明</li> <li>○平均の速さについて補足説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書を参考にし、自分の記録から平均の速さを求める。(個)</li> <li>○例題を解く(個→班)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表</li> <li>・小テスト</li> </ul>	
5	(6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○記録タイマーの使用方法をプリントを使って説明(実習1), P102～P103</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テープを手が引く速さをいろいろ変える</li> <li>○班の中でテープから手の運動を指摘し合う(班)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視</li> </ul>	
6	(7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験上の注意を与える</li> <li>○各グループごとの実験の援助をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験方法を教科書から読みとる(個)</li> <li>○役割を分担し、各自でテープをもてるよう実験回数を多くする。</li> </ul>		
7	(8-1) (8-2) (8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○等速直線運動の定義を説明する。</li> <li>○平均の速さをグラフにするときの点を打つ位置を説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各自テープから打点の間隔が等しい部分をさがす。(個)</li> <li>○誤差を考えて線を引く。</li> <li>○グラフから関係を考える。(個→班→全)</li> </ul>		
8	(9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○等速直線運動において、速さ、距離、時間の関係を復習させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単位に注意して練習問題を解く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小テスト</li> </ul>	

時 間	課 題	活 動		評 価 方 法	修 正 事 項
		教 師	生 徒		
9	(10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの実験結果から 摩擦力について説明</li> <li>○台車の動摩擦力を測定 (演 示)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書を参考にま とめ、分らない所を出 し合う(個→班→全)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡師</li> </ul>	
10	(11-1) (11-2) (11)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テープの記録を切って、 はる速さのグラフの作り 方を説明する。</li> <li>○補足説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グラフのたて軸、横 軸は何かはっきりさ せる。(個)</li> <li>○力の向きと速さの関 係を考えまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視</li> <li>・発表</li> </ul>	
11	(12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験上の注意。</li> <li>○結果を予想させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験方法を教科書を 参考に学習する。</li> <li>○各班ごとに係を分担</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡師</li> </ul>	
12	(12-1) (12-2) (12-3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グラフの特徴から、落下 運動についてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの学習を思 い出しながらグラフ を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視</li> </ul>	
13	(13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○演示実験の説明をする。</li> <li>○実験後、結果をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○結果とそうなる理由 を考え発表する。 (個→班→全)</li> <li>○話し合ったことや、 教科書を参考に、慣 性の法則についてま とめる。(個→班→全)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表</li> <li>・発表</li> </ul>	
14	ポストテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ポストテスト配布</li> <li>○補充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○わからなかった所を 発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通過率</li> </ul>	

# 広島県立豊高等学校

## 研究授業

### 1. 時間配分

10:00	10:30	11:20	11:30	12:20	13:10	14:00
受付	研究授業		研究協議	昼食	研究協議	移動

### 2. 授業内容

1の1	商業経済	奥家豊治	1の2	数学Ⅰ	佐伯志津代
2の1	世界史	住吉光彦	2の2	数学Ⅱ	丸山孝寛
3の1	化学	出川克彦	3の2	英語Ⅱ	松本光彦

## 基礎学力の充実をめざして

広島県立豊高等学校

はじめに

1978年度「地域の教育課題をふまえた教育内容の創造」を研究主題に、当面く幼・小・中・高一貫教育態勢づくりをめざして、広島県豊高校区教育推進協議会が結成されました。

そして、教育課題をより科学的に明らかにするために、実態調査を実施してきました。その実態調査にもとづいて、具体的な実践目標の模索をつづけるなかで、'80年度末に「共に生きる集団づくり」「教育活動の全領域で言語認識を」というふたつの実践目標も掲げられ、今日まで具体的な活動が展開されてきました。

この推進協が結成された背景として大きな二つの流れがありました。

そのひとつは、被差別部落の完全解放を期する同和教育運動の豊・豊浜両町における幼・小・中の日常的な連携による活動の積み上げと、もうひとつは、進路保障の観点から、地域の子どもを地域の責任で育てていくための地域総合高校構想による当時の下島分校（現豊高校）の独立校化運動と、それを基盤にした中・高連携の実績でした。

そうした二つの流れが合流して、今日の推進協が誕生し、中高3校の合同研究会へと発展していったのです。

豊高校はその推進協における、幼・小・中・高一貫教育態勢づくりの最終段階を受け持つという任務を負っています。

したがって、少なくとも中学校段階における実践の深化をはかり、民主的社會人として社会に送り出せるところまで高めなくてはならないのである。

そのためには、中学校までの実践の積み上げをそっくり受け継がなくてはならないのである。

しかし、現状は残念ながら必ずしもそうした方向に歩んでいないのである。そうした今日の状況をその背景と共に明らかにしていく作業も必要なことでもあります。

豊高校は下島分校当時より、解放運動に学んで明確な展望を持ってきました。それはこの地域の教育疎外の歴史をはね返し、地域の子どもの進路保障を達成しうる地域高校の創造であった。

その第一段階として、今日の高校教育における集中的な行政差別である分校差別撤廃のたたかいを、教育活動を中心にして組織し、独立校化を勝ちとることとしてきた。

それは同時に、この地域においてすでに社会意識になっているといい下島分校に対する差別意識の解消にもつながることであった。

当時生徒たちは教育疎外を受け続け、疲れ果てて下島分校にたどりついたといい状況であった。

そうした差別に対する怒りはあっても、教育疎外の中で眠らされ、ついには自己疎外まで起こしている状況があった。

今日の選別体制下における踏み台にされてきた彼らには、傷のなめ合い的な団結はあるにしても、およそ協同を志向する学習活動は弱く、いわゆる弱い者いじめ的な行動が日常的にあった。

当時教師たちも、その差別実態の中で、やはり自己の勤務する下島分校に対して強烈な差別意

議の持ち主にさせられていた。

こうした日常からの転機は、この地域における解放運動であった。

まず教師が自己の差別性に気付かされるところから始まった。徹底した相互点検学習会の中で、自分が何をしなければならぬかを考え始めたのであった。

私たちが、解放運動に学び、進路保障の観点から、教育疎外を受けてきた生徒たちに、まずなによりも学力保障の取り組みが必要であることを痛感しました。

そのためには、生徒たちがわかりたい授業をどう創り出すか、いわゆる授業改善を軸にした学習集団づくりをめざしたのでした。

これが私たちの授業研究へのスタートでありました。

まず、私たちの発想の転換から始まりました。

授業公開にあたって、自分の授業をみてもらうのではなく、自分の授業を手伝ってもらおうと考えるということでした。

だから普段着の授業をみてもらおう。そのことでまず自分たちの持っている抵抗感を拭い去ろうとしました。

当時、高校において授業公開すること自体が稀少価値がありましたから、それに乗っかってのスタートでした。

やがて、後述の中高連携の中で、塩田芳久先生に直接ご指導いただけるようになり、先生のご提唱である、ユニット学習（単元単位見通し学習）への取り組みが始まりました。

#### 中・高連携と、バズ学習の出会い

中・高の接触が実質的に始まったのは、'70年度末のことでした。来年度入学してくる生徒に対する聞き取り調査を進路保障の観点から実施するために、高校が中学校へ出向いた時でした。そして、翌年度、その新入生たちの事例研究に、今度は中学校から参加するということから交流が盛んになっていきました。

豊浜中学校においてはすでに、'68年2月、第1回バズ学習研究大会を開催していますし、'72年8月には、第4回全国バズ学習研究集会開催にまで盛り上がっていました。

豊中学校においても'70年にはやはり取り組みが始まり、校内研究会が積み重ねられていました。

そして、高校では、'69年度には校内合宿研修会が始まり、'71年度尾三地区高校分校部の結成となり、教育内容の創造を中心課題に活動が続けられていました。

最初の段階から塩田芳久先生のご指導を仰いでいた豊浜中、そして続いてご指導をいただくようになった豊中と、バズ学習の輪が広がっていきました。

そこへ、これまで主として生活指導面での交流であった高校が参加していったのは'74年度でありました。

そして、'75年度には、その交流が本格化し、10月に豊浜中を会場に開催された全国へき地教育研究大会には高校側も全員参加をしています。

翌、'76年度からは高校も塩田先生に直接ご指導を受けるようになると同時に中・高合同研

究会が持たれるようになりました。

そして、"77年8月には、小・中・高合同合宿研修会を持つことができましたし、その会場での発案が翌年の推進協結成へとつながったのでした。

"78年推進協結成と同時に第13回全国バズ学習研究集会の開催を引き受けたのでした。

"79年度に合同研究会を通じて、中・高の実質的な内容についての合同を求めていくため、相互に独自性は尊重するけれど、何かやれることがあるのではないかという模索の中から、"80年度春季公開研究会において、単元単位見通し学習（高校ではユニット学習）の導入部を豊中で、翌日の豊高校では展開部という形で、関連性のある研究会がもたれました。

"81年度中心課題「課題の創出」へ

私たちは教育内容の創造を学校教育活動の中核である授業改善にしばって取り組み始めてからも相当な年月になりました。

学校の推進態勢は一定の前進はみましたが、内容的には一進一退という状況にあり、ユニット学習（単元単位見通し学習）が本当の意味での深まりを見ることが出来ませんでした。

それはどこに問題があるのか、その模索をしていくなかで、なんとなく1単元の課題を生徒に与えて事足りてとしていたのではないかという点に気付きました。

1単位時間ごとに精密な授業計画をたて、全体的な構想の中でどうなのかの検討が重視されるようになりました。

「教材研究」不足に裏打ちされた目標設定に甘さがあることが課題となりました。

そして、その教材研究の深化をはかることは、生徒たちが生き生きとして働ける課題として表出してくるはずであるという観点から、実践目標を「課題の創出」としたのでした。

その実践目標達成のための研修を試みました。

- (1) 自主トレ方式による授業研究
- (2) 学習会の組織化（基礎学習会と再学習会）
- (3) 集団づくりのためのポイント集の作成

そうして、不十分ながらも"81年度の研修を重ねてきました。

私たちは、塩田先生のご指導によってユニット学習法をすすめる際に、学習指導案のモデルを作りました。

教科、教材によって画一的な指導案づくりは無理であります、研究の資料としてひとつのモデルを次の基本的な視点で作りました。

1. 単元の目標を、認知目標と態度目標に分けて設定する。ただし、継続的、日常的態度目標は特に記載しなくてよい。
2. 生徒に直接提示する課題づくりがもっとも大切であり、彼らをゆさぶらずにおかない課題づくりに全力をあげる。
3. 資料の公共化のためも含めて、実施計画の修正がある場合には、それが記載できる指導案であること。
4. 学習計画づくりに時間をあまりかけなくて済むようにすると同時に、どんな授業形態があ

るかを頭に入れる必要から、授業展開上の記載をできるだけ略号化することで能率をあげる。(後に修正される。)

以上の4点を考慮に入れてモデル案づくりがされました。

さらに、このモデル案が形骸化を呼び起こすとなれば、どこに問題があるかという検討にはいったところ、まず気がついたのは指導案検討会でしばしばぶつかった、その単元の認知目標として設定された内容と、生徒への提示課題とがひどくずれている問題でした。

つまり、提示課題が目標達成のための課題になっていないことがあるのです。

その原因を究明していく中で、教材研究の不足要因もさることながら、目標と提示課題をつなぐ頭の中の作業を文章化してみようということになりました。

目標達成の過程の明確化として、目標分析という項目を設定したわけです。

’82年度秋季公開研究会では、この豊高のモデルが採用され、豊・豊浜両中との3校の授業者を中心とする関係者が集まり、バズ学習の基本的な内容について学習し合いました。

そして、3校合同研究会が開催されたのです。

目標分析が、目標の不明確さから、なかなか下位目標にならない課題も残してきました。

私たちはたえず授業改善という目標はありましたが、実態としては漠然とした取り組みに終始していて、その取り組みが点に終わってしまうという弱点が克服できていない課題もありました。

そこで、少しでもこの弱点を克服するための方途を考えました。

それは、ユニット学習(単元単位見通し学習)と授業研究とのギャップに気が付いたのです。

つまり、単元単位の学習活動を目指しながら、授業研究ではその1単位時間だけを問題にしているという不自然さです。

そこで、1単元を通して学習活動の記録をとり、その内容を検討する形のいわゆる授業記録による研究会をも実行してきました。

#### 昨年度から今年度の取り組み

本校における実態は、実態調査に端的に表われていますように、校内の状況は必ずしも好転していません。むしろ後退の兆しさえみえるといえます。

そうした状況の中で、改めて生徒の実態の見直しをしようとした時期でもありましたが、差別事件が続発しました。

その背景の直接的には地域の差別性に根ざした差別事件であり、私たちにはその差別事件を露呈ととらえてきましたが、私たちひとりひとりがどうとらえ、その克服の主体である自己の体質を点検するための個人総括作業を積み重ねてきているところであります。

この第19回全国バズ研究集会も、これまでのさまざまな取り組みが基盤にあって、実態を克服していくための「基礎学力の充実をめざす学習集団づくり」を研究の主眼とし、この研究集会を再出発の起点にしたいと思っています。

本研究集会で、ご批判、ご指導を賜ることをお願い申し上げて、取り組みの報告とさせていただきます。

- 1, 学 年 1年1組 男子11名 女子17名 計28名
- 2, 単 元 Ⅱ 金 融
- 3, 目 標
- 認知目標 (1) 金融機関のしくみを理解する。  
(2) 金融を通して、今日の経済のしくみを理解する。
- 態度目標 (1) 個人学習で、学習課題をしっかりとつかむ。  
(2) 人の意見をしっかりと聞き、自分の意見をきちんと述べる。  
(3) 自分の課題ができたらずりではなく、班員が共通理解できるまで話し合う。
- 4, 下位目標
- (1) 金融と金融業
- ① 社会における資金の需要と供給は、どのように行なわれているか理解する。  
② 経済社会では、いろいろな目的で金融が行なわれていることを理解する。  
③ それぞれの金融の種類について、特徴を理解する。  
④ 金融機関の種類は、どのように分類されているのか理解する。
- (2) 普通銀行の業務
- ⑤ 普通銀行の性格および3大業務について、理解する。  
⑥ 普通銀行の付随業務について、どのような役割を果たしているか理解する。  
⑦ 金利について、具体的な数字で理解する。
- (3) 普通銀行以外の金融機関
- ⑧ 長期・中小企業・農林漁業・政府金融機関は何を目的に設立されているか、利用者の立場から理解する。  
⑨ 保険会社や証券会社なども、金融機関としての役割を果たしていることを理解する。  
⑩ サラリーマン金融について、業務内容ならび必要性について理解する。
- (4) 証券の発行と売買
- ⑪ 証券の種類ならびに特徴について理解する。  
⑫ 事業資金の調達方法として、証券が発行されていることを理解する。  
⑬ 証券会社は、どのような業務を行なっているか理解する。  
⑭ 証券取引所が果たす金融上の機能と、その役割を理解する。
- (5) 日本銀行と資
- ⑮ 日本銀行の性格・組織・業務について理解する。  
⑯ 経済のしくみの中で、資金はどのように循環しているのか理解する。  
⑰ インフレーション、デフレーションはなぜ起こるのか理解する。  
⑱ 国の金融政策はどのように行なわれているか理解する。

5. 学習課題

(1) 金融 ①-1 資金の需要と供給について説明しなさい。

- と金融業 (1) 資金の需要( )  
 (2) 資金の供給( )

①-2 次の用語の意味を簡単に説明しなさい。

- (1) 金融( )  
 (2) 金融機関( )

②-1 資金の種類にあてはまる用語を、( )の中に記入しなさい。

- (1) ( )工場や店舗を整えたり、機械や設備を購入するために必要な資金。  
 (2) ( )原材料購入や商品仕入代金、従業員の給料などに必要な資金。

②-2 次の資金について、設備資金は(A)、運転資金は(B)を、( )に記入しなさい。

- (1) 商品仕入代金にするための資金。( )  
 (2) 新聞に求人広告を出すための資金。( )  
 (3) 従業員にボーナスを支給するための資金。( )  
 (4) 支店を出すための店舗新築に必要な資金。( )

③-1 金融の種類についての説明にあてはまる用語を( )に記入しなさい。

(1) 資金が融通される期間による分類。

- { (①) 1年未満の金融。(例)(②) )  
 (③) 1年以上の金融。(例)(④) (⑤) )  
 (⑥) 1年以上3年ぐらいまでの金融。

(2) 資金が融通される経路による分類。

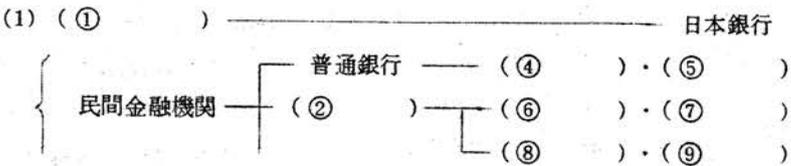
- { (⑦) 資金の供給者が証券業者などを通じて、社債や株式を購入する  
 という形で企業に資金を融通するもの。  
 (⑧) 金融機関が供給者から預かった資金について独自に貸付をお  
 こない、資金を需要者に融通すること。

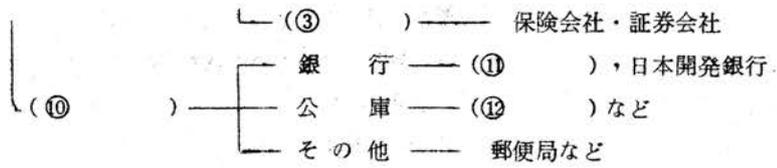
(3) 融通される資金の用途による分類。

- (⑨) 農林漁業・工業・商業などに必要な事業資金の融通。  
 (⑩) 比較的規模の小さい企業に対する金融。  
 (⑪) 消費者の生活資金や公共団体の財政資金の不足への融通。

(4) 資金の融通される地域による分類 (⑫) (⑬)

④-1 金融機関の種類についての次の表を完成しなさい。





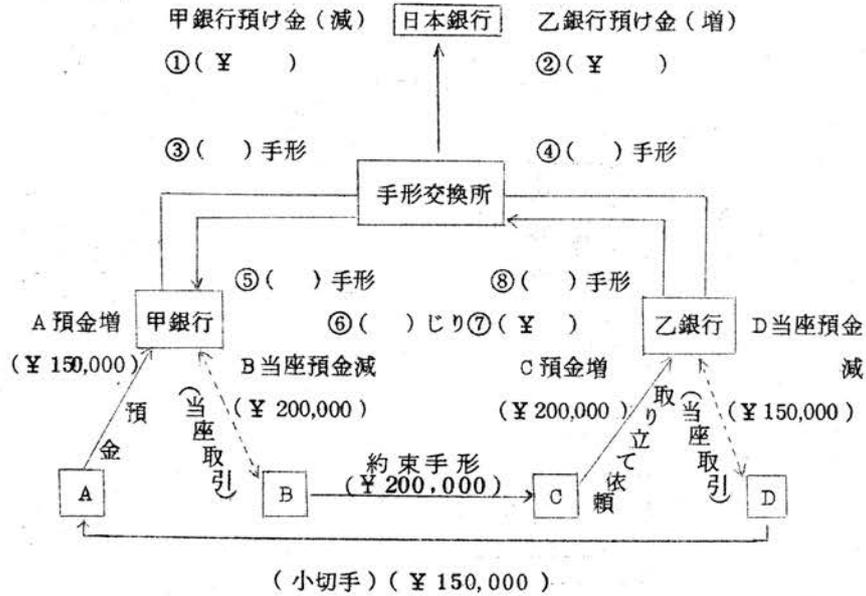
(2) 普通 ⑤-1 次の ( ) の中にあてはまる用語を記入しなさい。

- 銀行の業 務 (1) 普通銀行とは、(①) 法に基づいて設立された信託銀行以外の (②) 形態の金融機関である。
- (2) 普通銀行には大都市に本店をおき全国的に多くの支店をもつ大規模な (③) 銀行と通常その支店網が地域的にかぎられている (④) 銀行とがある。
- (3) 普通銀行の3大業務には ( ) , ( ) , ( ) がある。

⑤-2 次の説明にあてはまる預金の種類を ( ) の中に記入しなさい。

- (1) ( ) 要求払い預金で、預金通貨と呼ばれる。無利子。
- (2) ( ) 要求払いで、低利ながら消費者に利用が多い。
- (3) ( ) 預金機関を定めて受け入れる預金。
- (4) ( ) 預金して1週間すえおき、その後は2日前の予告で引き出せる預金。
- (5) ( ) 納税準備のための資金の預金。
- (6) ( ) 定期的に一定額を預け入れる預金。

⑤-3 次の手形交換制度の図の ( ) にあてはまる用語・数字を記入しなさい。



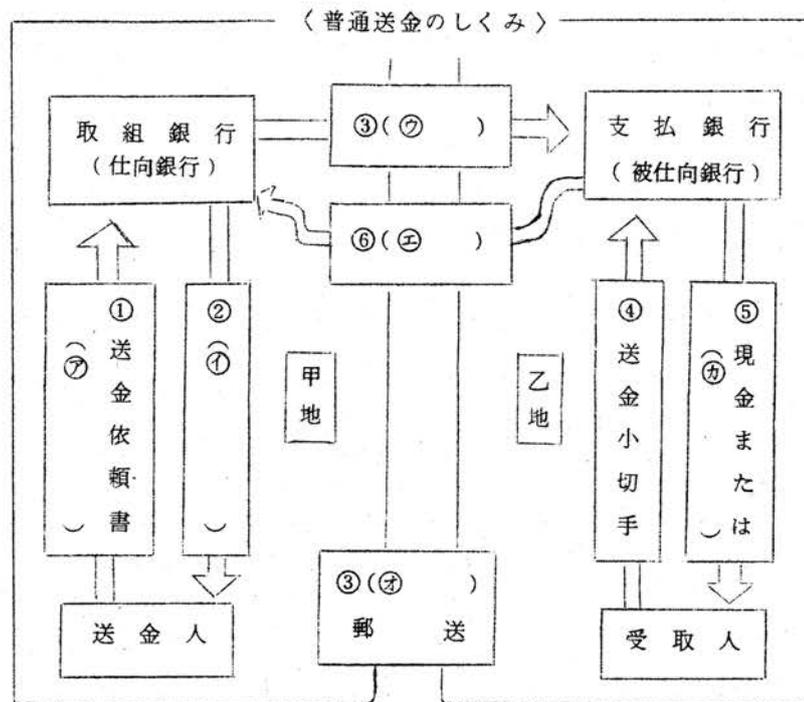
⑤-4 次の文章の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。

- (1) 銀行の貸し出しは(① )と(② )に大別される。
- (2) 商工業者の約束手形や為替手形を満期以前に買い取ることによって、資金を融通する方法を(③ )といい、買い取りの日から満期までの期間に相当する利息を(④ )という。
- (3) 商品売買などの取引に伴って振り出された手形を(⑤ )手形という。
- (4) 遠隔地の買い手に商品を発送したり売り手が、その商品を担保として金融を受けるために買い手を(⑥ )、銀行を(⑦ )として振り出す為替手形を(⑧ )手形という。
- (5) 遠隔地間の送金や小切手・手形などの取立を、銀行が仲立ちすることによって、現金を送付せず決済することを(⑨ )業務という。
- (6) 為替は国内でおこなわれるかどうかによって(⑩ )と(⑪ )に分かれる。
- (7) 銀行が扱う内国為替には(⑫ )、(⑬ )、(⑭ )の3種がある。

⑤-5 次の貸し付けの用語について説明しなさい。

- (1) 手形貸付 ( )
- (2) 証書貸付 ( )
- (3) 当座貸越 ( )

⑤-6 次の図の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。



⑥-1 付随業務について次の文の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。

- (1) ( ) 有価証券や貴重品を預かり、金庫に保管する。保管箱のかぎを貸与して、利用者にまかせる。 (2) ( )
- (3) ( ) 取引先の依頼により、契約に関する保証書に署名したり、手形債務の支払いを保証すること。

各種代理業務①株式や社債の発行会社の依頼により、株式払込金の受け入れと管理、株主への配当金や社債元利金の支払い、社債の担保となる財産の管理などを引き受ける(4) ( )の代理。

①日本銀行や政府金融機関の窓口事務の代理、地方公共団体の公金(5) ( )事務の代理など。

①一般預金者の依頼により、公共料金や、消費者の月賦購入代金などを、支払期日に預金口座から自動的に引き落とし支払先の預金口座に振り替える(6) ( )サービス。

⑦-1 次の利息の計算をしなさい。

計算式 利息=元金×利率×期間

- (1) 元金(預金金額) ¥5,000,000 利率(年) 2.2% 期間 10年  
(2) 元金(預金金額) ¥5,000,000 利率(年) 6.2% 期間 10年  
(3) 元金(借入金額) ¥5,000,000 利率(年) 8.2% 期間 10年  
(4) 元金(借入金額) ¥5,000,000 利率(年) 37.5% 期間 10年

(3) 普通 ⑧-1 次の金融機関は、(a)民間の金融機関、(b)公私合同企業の金融機関、(c)公企業の金融機関のいずれか。( )に記号を記入しなさい。

銀行以外  
の金融機

- (1) ( ) 日本輸出入銀行 (2) ( ) 信託銀行  
(3) ( ) 相互銀行 (4) ( ) 日本開発銀行  
(5) ( ) 中小企業金融公庫 (6) ( ) 農林漁業金融公庫  
(7) ( ) 商工中央金庫 (8) ( ) 普通銀行  
(9) ( ) 農業協同組合 (10) ( ) 信用金庫

⑧-2 次の文の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。

- (1) 長期信用銀行法に基づく民間の長期金融機関として(1) ( )銀行、(2) ( )銀行、(3) ( )銀行の3行がある。
- (2) 預金・貸し出し・為替などの業務のほか、信託業務をおこなう金融機関には(4) ( )銀行がある。
- (3) 普通銀行の業務のほか、相互掛金業務をおこなう金融機関として、(5) ( )銀行がある。
- (4) 商・工業協同組合・信用協同組合などが、金融事業に関する中央機関として設けたものに、(6) ( )中央金庫がある。

⑧-3 次の文の( )にあてはまる用語を記入しなさい。

(1) 金銭・有価証券・土地・建物などの財産を所有する者が、自分または自分の指定する第三者のために、その財産を一定の目的にしたがって管理・運用・処分することを(① )といい、委託する者を(② )、委託された財産を(③ )、委託を受けた者を(④ )という。また、信託によって生じた収益を受け取る者を(⑤ )という。

(2) 信託には、信託財産として一定期間(⑥ )を受託し、これを貸し出しや証券投資などに運用して、そこから生じる収益金を受益者に支払う業務である(⑦ )と、あらかじめ一口の金額と総口数を決めて委託を募集し、募集期間内に集まった資金を一括して、主として貸し付けに運用する業務である(⑧ )がある。信託期間は2年または5年で、受益者に、(⑨ )と呼ばれる有価証券が交付される。

⑧-4 次の文の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。

(1) 中小企業とは中小企業基本法によれば鉱工業・運送業等では資本金(① )円以下で、従業員(② )人以下、小売業、サービス業では資本金(③ )円以下で、従業員(④ )人以下、卸売業では資本金(⑤ )円以下、従業員(⑥ )人以下の会社または個人企業をいう。

中小企業のための金融機関には(⑦ )、(⑧ )、(⑨ )などがある。

⑧-5 次の各項目にあてはまる金融機関をあげなさい。

(1) 全額政府出資の金融機関を五つあげなさい。

( ) ( ) ( ) ( ) ( )

(2) 債券を発行することができる金融機関を三つあげなさい。

( ) ( ) ( )

(3) 長期金融を目的とする金融機関を三つあげなさい。

( ) ( ) ( )

(4) 中小企業に対する金融機関を四つあげなさい。

( ) ( ) ( ) ( )

(5) 農林漁業者のための金融機関を三つあげなさい。

( ) ( ) ( )

⑨-1 次の文の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。

○ (① )は、払い込みを受けた保険料を貸し付けや(② )に運用するかたちで、金融機関としての役割を果たしている。

また、(③ )なども、広い意味での金融機関に加えることがある。

⑩-1 サラリーマン金融について、各班単位で、パンフレットを集め、業務内容  
容ならび、金利等、特徴について整理しなさい。

(4) 証券 ⑪-1 次の用語について説明しなさい。

の発行と (1) 株式 (2) 金融債 (3) 地方債 (4) 国債 (5) 社債

売買 ⑪-2 次の用語の説明を簡単に書き、その例をあげなさい。

(1) 資本証券 (2) 貨幣証券 (3) 貨物代表証券(商品証券)

⑪-3 社債の返行を三つ書きなさい。

⑫-1 次の文章の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。

(1) 多額の資金を必要とする事業を営む企業は、ふつう(①)会社の  
形態をとり、まず、(②)を発行する。それだけでは資金が足り  
ない場合には、各種の金融機関から借り入れるか、(③)を発行  
して、長期にわたる資金を一般の人から集めることができる。

(2) 政府や地方公共団体は、財政不足を補うために(④)を発行す  
ることがある。これらの(⑤)は、一般に一口の金額が比較的少  
額であり、しかも、自由に売買できる特徴がある。そのうえ、銀行預金  
などより有利な(⑥)や(⑦)の支払われるものが多く、  
ときには値上がりも期待できるため、有利な投資対象として購入されて  
いる。

これらの有価証券の売買は、一般に(⑧)や(⑨)を通  
じておこなわれている。

⑬-1 次の用語について説明しなさい。

(1) 証券会社 (2) 証券取引所 (3) 才取会員

(4) 正会員 (5) 投資信託会社

⑭-1 次の文章の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。

(1) 取引所における株式の取引は(①)と称して、時間がたつにつ  
れて売り手と買い手が現れるたびに(②)会員を介して、順次個  
別に結ばれてゆく。したがって、同じ銘柄でも、時間の経過につれて、  
いろいろな値段での売買が成立するのが特徴である。ただし、各種産業  
の代表的な企業の株式である(③)のうち一部は、さらに(④  
)と(⑤)の立合の始めと終わりに、単一値段で多数の売買  
を成立させる(⑥)の方法がとられている。

(5) 日本 ⑮-1 次の文章の( )の中にあてはまる用語または数字を記入しなさい。

銀行と資 (1) 日本銀行は、(①)法に基づき、国が(②)％の出資を  
金の循環 して設けられた、わが国の(③)銀行である。

日本銀行は、(④)銀行として(⑤)を発行するほか、  
市中金融機関に対する「(⑥)の(⑦)」として、金融取

⑩-1 サラリーマン金融について、各班単位で、パンフレットを集め、業務内容ならび、金利等、特徴について整理しなさい。

(4) 証券 ⑪-1 次の用語について説明しなさい。

の発行と (1) 株式 (2) 金融債 (3) 地方債 (4) 国債 (5) 社債

売買 ⑪-2 次の用語の説明を簡単に書き、その例をあげなさい。

(1) 資本証券 (2) 貨幣証券 (3) 貨物代表証券(商品証券)

⑪-3 社債の返行を三つ書きなさい。

⑫-1 次の文章の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。

(1) 多額の資金を必要とする事業を営む企業は、ふつう(①)会社の形態をとり、まず、(②)を発行する。それだけでは資金が足りない場合には、各種の金融機関から借り入れるか、(③)を発行して、長期にわたる資金を一般の人から集めることができる。

(2) 政府や地方公共団体は、財政不足を補うために(④)を発行することがある。これらの(⑤)は、一般に一口の金額が比較的少額であり、しかも、自由に売買できる特徴がある。そのうえ、銀行預金などより有利な(⑥)や(⑦)の支払われるものが多く、ときには値上がりも期待できるため、有利な投資対象として購入されている。

これらの有価証券の売買は、一般に(⑧)や(⑨)を通じておこなわれている。

⑬-1 次の用語について説明しなさい。

(1) 証券会社 (2) 証券取引所 (3) 才取会員

(4) 正会員 (5) 投資信託会社

⑭-1 次の文章の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。

(1) 取引所における株式の取引は(①)と称して、時間がたつにつれて売り手と買い手が現れるたびに(②)会員を介して、順次個別に結ばれてゆく。したがって、同じ銘柄でも、時間の経過につれて、いろいろな値段での売買が成立するのが特徴である。ただし、各種産業の代表的な企業の株式である(③)のうち一部は、さらに(④)と(⑤)の立合の始めと終わりに、単一値段で多数の売買を成立させる(⑥)の方法がとられている。

(5) 日本 ⑮-1 次の文章の( )の中にあてはまる用語または数字を記入しなさい。

銀行と資 (1) 日本銀行は、(①)法に基づき、国が(②)%の出資を  
金の循環 して設けられた、わが国の(③)銀行である。

日本銀行は、(④)銀行として(⑤)を発行するほか、市中金融機関に対する「(⑥)の(⑦)」として、金融取

引の中心的役割を果たすとともに、「( ⑧ )の( ⑨ )」として、政府との金融取引もおこなっている。

日本銀行の業務運営の基本方針は、( ⑩ )で決定される。

⑮-2 次の( )にあてはまる用語を記入しなさい。

日本銀行の業務 { (1) ( ① )の発行  
(2) 金融機関に対する業務 ( ② )( ③ )( ④ )  
(3) ( ⑤ )に対する業務( ( ⑥ )( ⑦ )( ⑧ )

⑮-3 次の説明に相当する用語を( )の中に記入しなさい。

- (1) 日本銀行の業務・運営上の基本方針や重要事項を決める組織。 ( )
- (2) 日本銀行が規定額以上の銀行券を発行すること。 ( )
- (3) 日本銀行の金融機関に対する貸出利率。 ( )
- (4) 日本銀行が金融機関と国債を売買して市場の資金量を調節すること。( )
- (5) 日本銀行が準備率の上下によって金融機関の融資を調整すること。( )

⑮-1 次の文の説明にあてはまる用語を( )に記入しなさい。

- (1) 日本銀行で発行された銀行券は社会を転々と流通して、日本銀行に還流する。 ( )
- (2) 銀行が預金を貸し出すと、借り手はそれを預金する。そして引き出して支払われると、その支払先が再び預金する。 ( )
- (3) 銀行が預金の払い戻しに備えて、資金の一部を現金や日本銀行への預け金などのかたちで保留する。 ( )

⑰-1 次の文章の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。

- (1) 日本銀行が金利を( ① )て、貸し出しがゆるむと、それだけ銀行券の流通高は( ② )なるから、民間の通貨の量は( ③ )し、金利を( ④ )で貸し出しがおさえられると反対の現象が起こる。また日本銀行が手持ちの公債などを売り出せば、その代金だけ通貨は( ⑤ )するし、市中銀行の持っている公債などを買い上げれば逆の現象となる。通貨の流通量があまり( ⑥ )なると、価格が下落して( ⑦ )を引き起こす。だから日本銀行のおこなう( ⑧ )という役割は、日本経済全体を動かす重大なものである。

⑰-1 日本銀行の金融政策の説明にあてはまる用語を( )に記入しなさい。

- (1) 支払準備金の準備率を上下させる政策。 ( )
- (2) 金融機関に対する公定歩合(貸出利率)を上下させる政策。( )
- (3) 手持ちの有価証券を市中金融機関に買いとらせたり、逆に買い上げる政策。オープン マーケット オペレーション。 ( )

## 6. 学習計画

15時間

時間	課題	活動		評価方法	備考
		生徒	教師		
1	プリテスト	説明を聞く 個人で取り組む (中途より班も活用)	単元の目標と全体的な説明 机間巡視	プリテスト SP分析	これからの学習内容を見通す
2	① ④	個人で取り組む 班で取り組む 班単位で板書(発表)	SP分析の結果報告 学習課題全てを提示 班学習の援助 板書の確認 → まとめ	机間巡視	金融のしくみ
3	⑤-1 ⑤-2	個人で取り組む ↓ 班で取り組む ↓ 班単位で板書 ↓ 発表の確認  ノート整理	各時のはじめに、SP分析の結果、学習課題に関連する内容を提示し、学習のポイントを確認 机間巡視で班活動の援助 板書の発表を確認  小単元のまとめ	班活動の参加度 板書 ①~⑦提出 ノート提出	預金業務  手形交換のしくみと貸出業務 為替業務と普通送金  付随業務
4	⑤-3 ⑤-4				
5	⑤-5 ⑤-6				
6	⑥-1 ⑦-1				
7	⑧-1~5				
8	⑨-1 ⑩-1				
9	⑪-1~3	個人 → 班 班単位で板書	学習課題の確認 机間巡視	机間巡視	証券の種類
10	⑫, ⑬	発表の確認	新聞の株価を参照	⑪~⑭提出	証券会社の業務

11	⑭-1	ノート整理	小単元のまとめ	ノート提出	証券取引所
12	⑮-1~3	個→班で討議 班単位で板書 発表の確認	学習課題の確認 机間巡視	机間巡視 板書 ⑮~⑱提出	日本銀行の 役割 資金の循環
13	⑯~⑲	ノート整理	小単元のまとめ	ノート提出	
14	まとめ	個人で取り組む	全体のまとめ	ノート提出	
15	ポスト	個人で取り組む	机間巡視	ポスト	

7. TEST Pre-Test

- (1) 金融と金融業 (1) 次の場合、どこでお金を借りますか。  
① 旅行資金の10万円  
② ステレオを買う資金50万円  
③ 自動車を買う資金100万円  
④ 住むための土地を買う資金500万円  
⑤ 会社の倉庫建築資金5,000万円  
(2) 金融機関には、どのようなものがありますか。  
(2) 普通銀行の業務 (3) 普通銀行では、どんな業務をしていますか。なるべく沢山書きなさい。  
(4) 次の預金の特徴を書きなさい。  
① 当座預金 ② 普通預金 ③ 定期預金 ④ 通知預金  
(5) 普通銀行で、お金を借りる時と預ける時、どちらが金利(利息)が高いか。  
(6) サラリーマン金融について知っていることを書きなさい。(借る場合の手続きや金利など)  
(7) 為替業務とは、どんな業務のことですか。  
(8) 東京の親戚に、10万円を送りたいのですが、どんな方法がありますか。  
(3) 普通銀行以外の金融機関 (9) 農林漁業者のために、どのような金融機関がありますか。  
(10) 中小企業のために、どのような金融機関がありますか。  
(11) 政府の金融機関には、どのようなものがありますか。  
(12) 信託銀行は、どんな特徴がありますか。  
(4) 証券の発行と売買 (13) 有価証券とはどんなものですか。それには、どのようなものがありますか。  
(14) 証券会社は、どんな業務をおこなっていますか。  
(15) 証券取引所では、どんな売買方法で取引をしていますか。  
(5) 日本銀行と資 (16) 日本銀行では、どんな業務をおこなっていますか。  
(17) 銀行券(紙幣)は、どこで発行していますか。

金循環 (18) インフレーション、デフレーションとは、どのような状況をいいますか。

(19) 公定歩合とは何にですか。

Post-Test

(1) 金融 (1) 次の文の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。

と金融業 ① 資金不足を補うために外部から借り入れることを、社会的に資金の(①)といい、資金の余裕が生じた場合に将来の必要のために積み立てて、資金を有利に運用しようとするを、社会的に資金の(②)という。

資金の供給者が需用者を信用して資金を融通することを(③)といい借手は貸し手に(④)を支払うが、その(⑤)は資金の需給関係によって決まる。すなわち、資金の供給に比べて需要が大きければ利率は(⑥)がり、逆の場合は利率は(⑦)がるのが一般的である。

資金の需要と供給とが結びつく範囲を(⑧)というが、金融に関する専門の事業を営む(⑨)などの(⑩)が資金の需給を結びつける役割を果たしている。

(2) 家計を中心として、金融のしくみについて述べなさい。

(2) 普通 (3) 次の預金について、利率の高い順に番号を( )の中に記入しなさい。

銀行の業 (ア) 普通預金( ) (イ) 当座預金( ) (ウ) 定期預金  
務 (エ) 通知預金( ) (オ) 納税準備預金( )

(4) 次の場合には、どのような預金をするのがよいか、( )の中に預金の種類を記入しなさい。

① 商工業者が毎日の取引のために、運転資金の出納・管理をしたい。( )

② 事業税納付のための資金を預け入れておきたい。( )

③ 工場を増設するために、毎月、一定額を積み立てたい。( )

④ 大口の売掛金を回収したが、3か月は預金できる。( )

⑤ 給料を預けておき、日常生活に必要な支払いに利用したい。( )

(5) 普通銀行の3大業務について説明しなさい。なお、( )に読みがなを記入しなさい。

① 預金業務 ② 貸出業務 ③ 為替業務

(6) 利息の計算式を答えなさい。

(7) 普通銀行の付随業務について、どのような業務をおこなっているか、3つ書きなさい。

(3) 普通 (8) 次の文章に最も関係のある金融機関は何か。( )の中にあてはまる金融  
銀行以外 機関名を記入しなさい。

の金融機 ① 普通銀行と同様の業務のほか、相互掛金業務をおこなう。( )

関 ② 財産を一定の目的にしたがって管理・運用・処分し、それによって生じた  
収益を受益者に支払う業務をおこなう金融機関。( )

- ③ 全額政府出資の金融機関で、農林漁業者のための金融機関。( )
- (9) 次の文章の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。
- ① 中小企業とは中小企業基本法によれば鉱工業・運送業等では資本金(① )円以下で、従業員(② )人以下、小売業、サービス業では資本金(③ )円以下で、従業員(④ )人以下、卸売業では資本金(⑤ )円以下、従業員(⑥ )人以下の会社または個人企業をいう。
- ② 中小企業のための金融機関には(⑦ )、(⑧ )、(⑨ )、(⑩ )などがある。
- (10) サラリーマン金融とは、どんな金融機関ですか。次の項目について答えよ。
- ① 借りる時の手続き ② 最高年利率 ③ サラ金に対する問題点
- (4) 証券 (11) 有価証券の意味、ならびに種類を4つ書きなさい。  
の発行と (12) 次の文章の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。  
売買 ① 証券取引所における株式の取引は(① )と称して、時間がたつにつれて売り手と買い手が現れるたびに(② )会員を介して、順次個別に結ばれてゆく。したがって、同じ銘柄でも、時間の経過につれて、いろいろな値段での売買が成立するのが特徴である。ただし、各種産業の代表的な企業の株式である(③ )のうち一部は、さらに(④ )と(⑤ )の立合の始めと終わりに、単一値段で多数の売買を成立させる(⑥ )の方法がとられている。
- (13) 証券会社の次の業務について説明しなさい。
- ① 有価証券の売買 ② 有価証券の募集・引き受け ③ 証券投資信託
- (5) 日本 (14) 次の文章の( )の中にあてはまる用語を記入しなさい。  
銀行の資 ① 日本銀行が(① )を発行するには、発券額と同額の(② )、債権  
金循環 多国為替、地金銀などをもつことが必要とされる。これに基づいて発行された銀行券は、(③ )や政府から貸し出しや財政支出として、産業界その他に供給される。社会を流通した銀行券は、再び市中金融機関や(④ )の手を経て、(⑤ )に還流する。
- (15) 次の現象は、(a) インフレーション、(b) デフレーションのいずれに関係があるか、( )の中に、記号を記入しなさい。
- ① 物価の上昇 ( ) ② 物価の下落 ( ) ③ 金づまり ( )  
④ 失業者の増大 ( ) ⑤ 貨幣価値の下落 ( )
- (16) 日本銀行の金融政策の説明にあてはまる用語を( )内に記入しなさい。
- ① 支払準備金の準備率を上下させる政策。( )  
② 金融機関に対する公定歩合(貸出利率)を上下させる政策。( )  
③ 手持ちの有価証券を市中金融機関に買いとらせたり、逆に買い上げる政策  
オープン マーケット オペレーション。( )

# 数学科学習指導案

指導者 佐伯志津代

1. クラス 1年2組 男子12名 女子16名 計28名
2. 単元 2次関数
3. 認知目標
  1. 2次関数のグラフをかくことができるようになり、それを通して2次関数の特徴をつかむ。
  2. グラフを利用して、2次関数の最大値、最小値を求めることができる。
  3. グラフを利用して、2次不等式をとくことができる。
- 態度目標
  4. 教科書を参考にして、個で課題に取り組むことができる。
  5. グラフをていねいにかくことができる。x軸、y軸、目盛りをかくことも忘れないようにする。
4. 下位目標
  1. 5-①  $y=ax^2$   $y=ax^2+p$   $y=a(x-p)^2$   
 $y=a(x-p)^2+p$   $y=ax^2+bx+c$ についてxに値を代入してyの値を求め、グラフをかくことができる。
  - 1-② グラフから、頂点、上に凸か下に凸かよみとることができる。2つ以上のグラフを比べ、平行なものを見つけることができる。
  - 1-③ よみとったことと式を比べ、式をみて頂点、軸が求められ、平行なものを見つけることができる。また、aの符号によって上に凸か下に凸か判別できることをつかむ。  
 $y=ax^2+bx+c$ については、 $y=a(x-p)^2+p$ の形に変形することを課題とする。
  1. 5-④  $y=a(x-p)^2+p$ の頂点、軸を求め、上に凸か下に凸かを判別してから、グラフをかくことができる。また、 $y=ax^2$ のグラフをx軸方向にp、y軸方向にp平行移動したものであることをつかむ。
  1. 5-⑤  $y=ax^2+bx+c$ を $y=a(x-p)^2+p$ に変形して、グラフをかくことができる、また与えられた条件に適する2次関数を求めることができる。
  2. 5-⑥ グラフをみてyの値の変化に注目して、2次関数の最大値、最小値を求めることができる。
  - 2-⑦ 具体的な文章題で、最大値、最小値を求めることができる。
  - 3-⑧ グラフを利用して、2次不等式をとくことができる。
  - 3-⑨ 具体的な文章題で、2次不等式を利用できる。
5. 学習課題①-1。次の2次関数のグラフをかき、頂点と軸を答えよ。また、上に凸か下に凸かも答えよ。(プリテスト)
  - ②

①  $y = x^2$  ②  $y = -x^2$  ③  $y = x^2 - 2$  ④  $y = -x^2 + 1$  ⑤  $y = (x - 1)^2$   
 ⑥  $y = -(x - 1)^2$  ⑦  $y = (x + 1)^2 + 1$  ⑧  $y = -(x + 1)^2 + 1$   
 ⑨  $y = x^2 + 2x + 3$  ⑩  $y = -x^2 + 2x + 3$

②-2。1でかいたグラフの中で平行なものはどれとどれか。また、グラフの特徴

③をまとめよ。(ブリテスト)

④-3。次のグラフをかけ。頂点と軸も求めよ。

(1)  $y = \frac{1}{2}x^2$  (2)  $y = 2x^2$  (3)  $y = -\frac{1}{2}x^2$  (4)  $y = -2x^2$

○次の関数のグラフは  $y = 2x^2$  のグラフをどのように平行移動したかをいえ。また、それぞれの頂点と軸を求めよ。(教科書の問)

(1)  $y = 2(x - 1)^2$  (2)  $y = 2(x + 1)^2$  (3)  $y = 2(x + 4)^2$

(4)  $y = 2(x - 1)^2 + 3$  (5)  $y = 2(x + 1)^2 - 2$

○次の2次関数のグラフの頂点と軸を求め、そのグラフをかけ。(教科書の問)

(1)  $y = (x + 1)^2$  (2)  $y = -2(x - 1)^2 + 3$

(3)  $y = 2x^2 - 4$  (4)  $y = -\frac{1}{2}(x + 3)^2 - 1$

○放物線:  $y = 2x^2$  を平行移動し、頂点が次の点になるようにしたときの2次関数を求めよ。(教科書の問)

(1)  $(-3, 4)$  (2)  $(2, -5)$  (3)  $(-1, -6)$

⑤-4。次の2次関数を  $y = a(x - p)^2 + \rho$  の形に変形せよ。(ブリテスト)

(1)  $y = x^2 + 2x + 3$  (2)  $y = -x^2 + 2x + 3$

⑤-5。次の2次関数を  $y = a(x - p)^2 + \rho$  の形に変形せよ。

(1)  $y = x^2 + 2x + 3$  (2)  $y = x^2 - 3x + 1$  (教科書の問)

(3)  $y = -x^2 + 6x$  (4)  $y = 4 - x - x^2$

○次の2次関数のグラフの頂点と軸を求め、そのグラフをかけ。(教科書の問)

(1)  $y = x^2 + 4x + 3$  (2)  $y = 2x^2 - 8x + 9$

(3)  $y = -x^2 + 5x + 1$  (4)  $y = 2x - \frac{1}{2}x^2$

○次の条件をみたす放物線をグラフとする2次関数を求めよ。(教科書の問)

(1) 点  $(1, 4)$  を頂点とし、 $y$  軸との交点が点  $(0, 2)$  である放物線

(2) 点  $(-2, 8)$  を頂点とし、原点を通る放物線

⑥-6。2次関数  $y = 2x^2 + 4x - 5$  を  $y = a(x - p)^2 + \rho$  の形に変形し、そのグラフをかけ。また、この関数の値を最小にする  $x$  の値および最小値を求めよ。(教科書の問)

○次の2次関数の最大値または最小値を求めよ。また、そのときの  $x$  の値を求めよ。(教科書の問)

(1)  $y = x^2 - 6x + 2$  (2)  $y = -2x^2 + 4x$

(3)  $y = -2x^2 - 4x - 1$  (4)  $y = \frac{1}{2}x^2 + 3x + 1$

⑦-7。地上10mの高さから真上に  $20\text{ m/s}$  の速さでボールを投げ上げるとすれば、

投げ上げてから  $x$  秒後のボールの高さ  $y$  m はおよそ  $y = 10 + 20x - 5x^2$  で表される。投げ上げてから何秒後に最高点に達するか。その時の高さは何 m か。  
(教科書の問)

○長さ40cmの針金を2つに切り、おのおのを折り曲げて正方形を2つ作るとき、それらの正方形の面積の和を最小にしたい。どのように切ればよいか。

⑧-8 ○次の2次不等式をとけ。(教科書の問)

(1)  $x^2 - 2x - 1 > 0$  (2)  $x^2 - 2x - 1 < 0$  (3)  $x^2 + 3x - 10 < 0$

(4)  $2x^2 - 5x - 3 > 0$  (5)  $x^2 - x - 1 > 0$  (6)  $4 + 3x - 2x^2 > 0$

⑨-9 ○6の初めの間で、高さが25m以上になるのは何秒から何秒の間か。

10 教科書の章末問題

○次の2次関数のグラフは、放物線  $y = 2x^2$  をどのように平行移動したものであるかをいえ。

(1)  $y = 2x^2 + 6x + 7$  (2)  $y = 2x^2 - 8x - 1$

○放物線  $y = -4x^2$  を平行移動して、頂点が次の点にくるようにしたとき、その放物線をグラフとする2次関数を求めよ。

(1) (3, 0) (2) (0, -2) (3) (-4, 5)

○次の放物線の頂点、軸および座標軸との交点を求めて、グラフをかけ。

(1)  $y = (x+2)(x-4)$  (2)  $y = -2x^2 - 4x + 6$

○軸が  $y$  軸と平行で、次の条件をみたす放物線を表す2次関数を求めよ。

(1) 点(3, -1)を頂点とし、点(4, 2)を通る放物線

(2) 3点(0, 0)(1, 2)(-1, -4)を通る放物線

○右の図のように点  $P(x, y)$  が直線

$y = -2x + 6$  上の2点A, B間にあるとき、

(1) 斜線の長方形の面積  $S$  を  $x$  で表せ。

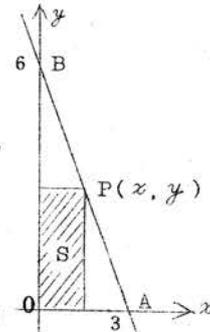
(2)  $S$  の最大値およびそのときの点  $P$  の座標を求めよ。

○次の2次不等式をとけ。

(1)  $x^2 - 6x + 5 > 0$

(2)  $-2x^2 + 4x + 5 > 0$

(3)  $9x^2 - 6x + 1 > 0$  (4)  $x^2 + 5x - 2 \geq 0$



6. 学習計画 12時間

時間	学習課題	活動		評価	備考
		生徒	教師		
1	プリテスト	プリテストに取り組む 教科書を参考にしてみる	個の作業がすすまなくなったら教科書を見るよう	机間巡視	

時 間	学習課題	活 動		評 価	備 考
		生 徒	教 師		
1	プリテスト から学習内 容を知る。	班で点検しあい、わからな いところをまとめる。学習 内容を知る。	に指示。  学習内容を説明。	机間巡視 班で点検 プリント	
2	学習計画 課 題 1 " 2	説明を聞く。 プリントを整理していく。 班で確かめる。 発表 全体でまとめを確かめる。	学習計画を提示 グラフをかく手順を説明 グラフを板書  まとめをする。次時予告	机間巡視 班で点検	
3	課 題 3	前時のまとめを確認 個 → 班 → 全体	まとめを板書  補足説明 次時予告	指名 机間巡視 板書	
4	課 題 4 課 題 5	課題1の9、10のグラフを もとに、式を変形する。 個で取り組む。わからない ときは、まわりの者に聞く。	課題1をみるよう助言 式変形についてまとめる。	机間巡視 ノート	
5	課 題 5 課 題 6	ノートを整理する。(前時 までの確認) 個 ↓ 班 班の代表が板書	誤答について提起し、目 標1についてまとめる。 $y$ の変化に注目させ、最 大値、最小値について説 明 補足説明	机間巡視 板書	
6	課 題 7	教科書の例題を考える。 個で取り組む。わからない ときはまわりの者に聞く。 発表	補足説明、特に定義域に ついて注意 様子を見て助言する。 質問で解を引き出し板書	机間巡視 指名	

時 間	学 習 課 題	活 動		評 価	備 考
		生 徒	教 師		
7	課 題 8	個で取り組む 班で取り組む	グラフをみて $y$ の変化に 注目するよう助言、説明 残れば宿題とする。	机間巡視	
8	課 題 8 課 題 9	指名されたものは板書 それをもとに全体で確認 個で取り組む	補足説明 質問で解を引き出し板書	机間巡視 板書	
9	課 題 10	個で取り組む 班で取り組む。わかりにく いところをまとめる。	正解, 誤答, つまってい るところをチェックして おく。	机間巡視	
10	課 題 10	わからないところを班で発 表。他の班が説明  まとめを確認し復習	わからないで残った事項 を中心に重要事項の まとめをする。		
11	ポストテス ト	個で取り組む	机間巡視	プリント SP分析	
12	補 充	個 → 班 → 全体 → 個 (プリントの誤まちを直す)	誤答の多いものについて 再度説明し、まとめる。		

## 世界史学習指導案

指導者 住吉光彦

1. 学 年 2年生1組 男子11名 女子15名

2. 単 元 オアシス都市国家

3. 目 標 (1) 認知目標

- 各文化圏は、それ独自で発展、展開するだけでなく、交渉・交流をしながら世界の一体化へと世界史の流れが発展することを理解する。
- 「絹の道」「草原の道」「海の道」を単に東西文化の通路とするのではなく、東西文化圏を結ぶ地域であることを認識する。

(2) 態度目標

- 既習のことと結んで考える。
- 自分の言葉で結論を出そうとする。

4. 下位目標 (1) 中央アジア諸民族の活動(興亡を中心に)を知る。

(2) 中央アジアが東西文化の発展に大きく関わっていることを理解する。

(3) 中国(ローマ)が力を持ち、広い地域を配している時は、オアシス都市国家(絹の道)も栄えているが、中国(ローマ)が衰えるとオアシス都市国家も没落している。このことから東西文化圏と密接な関係にある一地域としてとらえることの正しさを理解する。

(4) その国(地域・文化)を支え、育ててきた民衆の活動を考えることが異文化を理解することであり、日本を知ることになることを理解する。

(5) 結論を出すまでの過程こそが学習であることを理解する。

5. 学習課題 (1)-① ○ 中央アジア諸民族の興亡が大まかに説明できる。

② ○ オアシスの生活の様子が説明できる。

(2)-① ○ 「絹の道」と呼んだのはなぜか。

② ○ 東西文化圏を結ぶ道として三つあるが、地図へ記入できる。

③ ○ どんなもの(こと)が東西へ伝えられたのか。

④ ○ 中央アジア世界史上の役割りが説明できる。

(3)-① ○ 「絹の道」の東西各々の出発地(地域)はどこか。

② ○ ユーラシア大陸を東西に結ぶ交通路が漢代にはすでに存在していたことは何によって証明(説明)できるか。

③ ○ 「絹の道」を三つの局面でとらえ説明できる。

④ ○ 異民族間の交流は、文化を通して進められたことが、具体的な例をあげて説明できる。

(4)-① ○ 文化の民俗性と国際性が指適できる。

(5)-① ○ 教科書・プリントなど既習のところで関連あるところが示せる。

② ○ 「わからない」「こう思う」が言える。

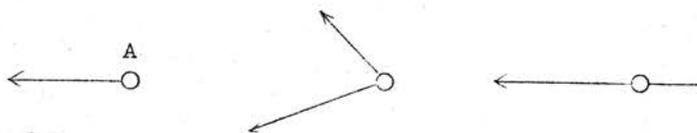
6. 学習計画

時間	課題	活動		評価	備考
		生徒	教師		
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の学習計画</li> <li>○プリテスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の記述箇所の確認</li> <li>○テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プリントに基づいて説明</li> <li>○机間巡視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テスト</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 地理的位置                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)-①</li> <li>(2)-②</li> <li>(3)-③</li> <li>(5)-①</li> </ul> </li> <li>2 風土(生活)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)-②</li> <li>(4)-①</li> <li>(5)-①</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プリントの指示に従って一人学習</li> <li>○テレビ(VTR)を見て質問(プリント)に答える。</li> <li>○プリント提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机間巡視</li> <li>○見るポイント(プリント)を示す。</li> <li>○補足説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机間巡視</li> <li>○指名(発表)</li> <li>プリント</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 東西文化の交流(絹の道中心)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(2)-①③</li> <li>(3)-①②④</li> <li>(4)-①</li> <li>(5)-①</li> </ul> </li> <li>4 オアシス都市 国家の役割                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(2)-④</li> <li>(3)-④</li> <li>(4)-①</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東西各々へ伝えられたものを分類。</li> <li>○それらはどんな形で伝えられたのか。</li> <li>○班でまとめて黒板へ発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机間巡視</li> <li>○補足説明</li> <li>○机間巡視</li> <li>○補足, 修正</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指名(発表)</li> <li>○指名(発表)</li> <li>○板書</li> <li>○机間巡視</li> </ul>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ポストテスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机間巡視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テスト</li> </ul>	

# 数学科学習指導案

指導者 丸山孝寛

1. クラス 2年2組 男子11名 女子15名 計26名
2. 単元 ベクトルとその演算
3. 認知目標
  1. ベクトルの加法・減法、ベクトルと実数の乗法の意味を理解し、図示できる。
  2. ベクトルの加法・減法、ベクトルと実数の乗法、ベクトルの大きさを成分を用いて計算できる。
- 態度目標
  1. 個人学習において、集中して取り組む。
  2. 相手の説明・意見を聞く。
  3. 班内、クラス全体に自分の意見を述べるができる。
4. 下位目標
  - 1-① ベクトルの和を図示できる。
    - (イ) ベクトルの定義を理解する。
    - (ロ) 等しいベクトルをいえる。
    - (ハ) 必要に応じて、ベクトルを平行移動できる。
    - (ニ) 交換法則・結合法則をつかえる。
  - ② ベクトルの差を図示できる。
    - (イ) 逆ベクトル、零ベクトルを理解する。
  - ③ 実数倍されたベクトルを図示できる。
  - 2-④ ベクトルの加法・減法・実数倍を成分表示により計算できる。(成分表示により、実数の加法・減法に帰着されることを理解する。)
    - (イ) ベクトルの成分表示について理解する。
    - (ロ) 結合法則・分配法則をつかえる。
  - ⑤ 基本ベクトルを用いて表示でき、計算できる。
  - ⑥ ベクトルの大きさを求められる。
5. 学習課題
  - ①-1。下図のように物体Aに力が作用している。この物体をつりあわせるにはどのような力を加えればよいか。矢印で示しなさい。
    - (1)
    - (2)
    - (3)



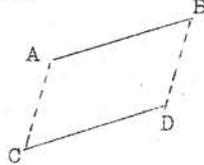
○ ( ) をうめなさい。

上図のように ( ) と ( ) をもつ量をベクトルといい、位置は無視する。2つのベクトル  $\vec{AB}$ ,  $\vec{CD}$  が等しいとは、(a) 図

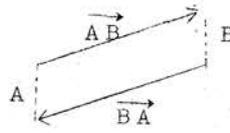
のように( )と( )が両方同じ場合である。

(b) 図のように、ベクトル  $\overrightarrow{AB}$  に対し、ベクトル  $\overrightarrow{BA}$  を  $AB$  の( )という。また長さ0のベクトルを考え、これを( )とよび、 $\vec{0}$  という記号で表わす。 (ブリテスト 1)

(a) 図



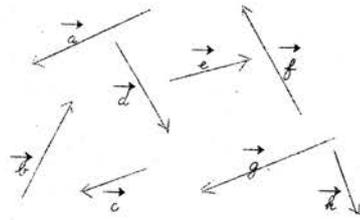
(b)



①-2 右の図のベクトルについて

(1) 等しいベクトルはどれとどれか

(2) 逆ベクトルはどれとどれか。

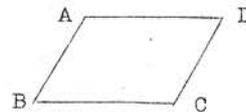


(ブリテスト 2)

①-3 図の平行四辺形 ABCD において

$\overrightarrow{BC}$  に等しいベクトルをいえ。また  $\overrightarrow{CD}$  に等しいベクトルをいえ。

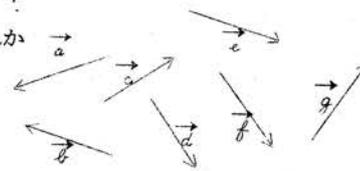
(ア39 問1)



①-4 右の図のなかで、等しいベクトル

はどれとどれか。また、互いにベクトルになっているのはどれとどれか。

(P39 問2)



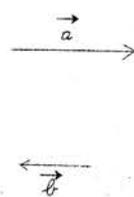
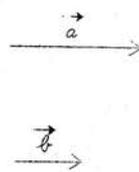
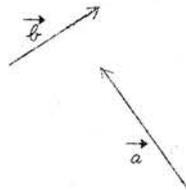
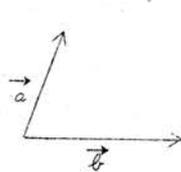
①-5 次のベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  の和  $\vec{a} + \vec{b}$  を図示せよ。

(1)

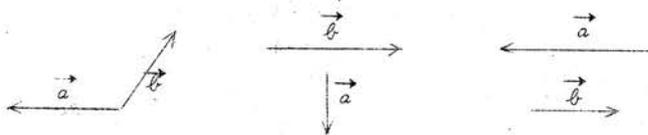
(2)

(3)

(4)

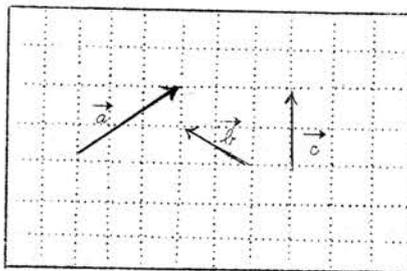


- ①-6 次のベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  の和を図示せよ。また、 $\vec{a}-\vec{b}$  を図示せよ。  
 ②-1 (1) (2) (3)

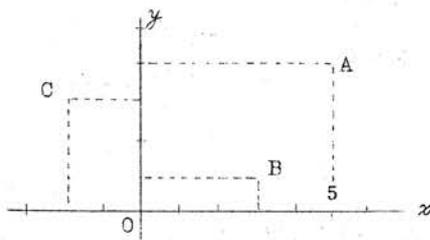


- ①-7 次のベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  について、次のベクトルを図示せよ。  
 ②-1 (1)  $\vec{a}+\vec{b}$   
 ③-1

- (2)  $\vec{a}-\vec{b}$   
 (3)  $\vec{a}+\vec{b}+\vec{c}$   
 (4)  $2\vec{a}-\vec{b}+\frac{1}{2}\vec{c}$



- ④-1 点  $P(-2, 2)$  から点  $Q(3, 4)$  へひいたベクトル  $\overrightarrow{PQ}$  の成分表示を求めよ。(P43 例題1)  
 ④-2 3点  $A(-2, -2)$ ,  $B(3, -1)$ ,  $C(1, 4)$  について、次のベクトルの成分表示を求めよ。  
 $\overrightarrow{AB}$ ,  $\overrightarrow{BC}$ ,  $\overrightarrow{CA}$  (P44 問1)  
 ④-3 下図について、 $\overrightarrow{OA}$ ,  $\overrightarrow{AB}$ ,  $\overrightarrow{BC}$  を成分表示せよ。また  $\overrightarrow{AB}+\overrightarrow{BC}$  を図示し、成分表示せよ。(ブリテスト 4)



- ④-4  $\vec{a}=(5, 3)$ ,  $\vec{b}=(4, -2)$  のとき、 $\vec{a}+\vec{b}$ ,  $\vec{a}-\vec{b}$ ,  $-\vec{a}$ ,  $-\vec{b}$  の成分を求めよ。

④-5  $\vec{a}=(2, -3)$ ,  $\vec{b}=(-1, 2)$ ,  $\vec{c}=(4, 0)$  のとき、次のベクトルの成分表示を求めよ。

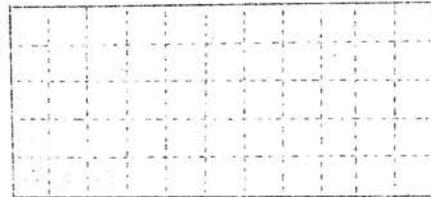
- (1)  $\vec{a}+\vec{b}$                       (2)  $\vec{a}-\vec{b}$                       (3)  $\vec{b}+\vec{c}$   
 (4)  $\vec{a}+\vec{b}+\vec{c}$                       (5)  $\vec{a}-\vec{b}+\vec{c}$

④-6  $\vec{a}=(2, 3)$ ,  $\vec{b}=(1, -2)$ ,  $\vec{c}=(-4, 1)$  のとき、次のベクトルを成分表示せよ。また、図示せよ。

- (1)  $\vec{a}+\vec{b}$                       (2)  $\vec{a}-\vec{b}$

(3)  $2\vec{a}+3\vec{b}$

(4)  $\vec{a}+\vec{b}+\vec{c}$



(5)  $2(2\vec{a}-\vec{b})-3(\vec{a}-\vec{b})$

④-7  $\vec{a}=(-3, 2)$ ,  $\vec{b}=(-4, -1)$  のとき、 $2\vec{a}+\vec{b}=3(\vec{a}-\vec{x})$  が成り立つような  $\vec{x}$  を求めよ。

④-8  $\vec{a}+\vec{b}=(1, 2)$ ,  $\vec{a}-\vec{b}=(0, -1)$  のとき、 $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  の成分を求めよ。

⑤-1 ① 次のベクトルを基本ベクトルを用いて表せ。 (P48 問5)

$\vec{a}=(4, 2)$ ,  $\vec{b}=(3, -3)$ ,  $\vec{c}=(-2, 0)$

②  $\vec{i}$ ,  $\vec{j}$  は基本ベクトルとする。次のベクトルを成分で表わせ。

- (1)  $2\vec{i}$                       (2)  $2\vec{i}+3\vec{j}$                       (3)  $-\vec{i}+2\vec{j}$                       (4)  $\frac{1}{2}\vec{i}-\frac{2}{3}\vec{j}$

⑤-2  $\vec{a}=(-2, 3)$ ,  $\vec{b}=(1, -2)$  のとき、次のベクトルの成分表示を求め、また、基本ベクトルを用いて表わせ。 (プリテスト5)

- (1)  $\vec{a}+\vec{b}$                       (2)  $\vec{a}-\vec{b}$   
 (3)  $\vec{a}-2\vec{b}$                       (4)  $2\vec{a}-3(\vec{a}-2\vec{b})$

⑥-1 次のベクトルの大きさを求めよ。

- (1)  $\vec{a}=(3, 4)$ ,                      (2)  $\vec{b}=(12, -5)$                       (P49 問1)

⑥-2  $\vec{a}=(3, -4)$ ,  $\vec{b}=(2, 0)$  のとき、次のベクトルの大きさを求めよ。

- (1)  $\vec{a}$                       (2)  $\vec{b}$                       (3)  $\vec{a}+\vec{b}$

章末問題

1. 次の計算を行え。

- (1)  $2\vec{a}+3\vec{a}-6\vec{a}$                       (2)  $2(\vec{a}+3\vec{b})-3(\vec{a}-2\vec{b})$

2.  $\vec{x}=2\vec{a}-3\vec{b}$ ,  $\vec{y}=\vec{a}+4\vec{b}$  のとき、次のベクトルを  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を用いて表わせ。

(1)  $\vec{x} + \vec{y}$     (2)  $\vec{x} - \vec{y}$     (3)  $-\vec{x} + 2\vec{y}$

3. ベクトルについて、次の関係式が成り立つことを示せ。

$$\vec{A}\vec{B} + \vec{B}\vec{C} + \vec{C}\vec{D} + \vec{D}\vec{A} = \vec{0}$$

4.  $\vec{a} = (3, 2)$ ,  $\vec{b} = (4, -1)$ ,  $\vec{c} = (2, 5)$  のとき、次のベクトルの成分表示を求めよ。

(1)  $2\vec{a} + \vec{b} - 3\vec{c}$                       (2)  $3\vec{a} - 2\vec{b} + 4\vec{c}$

(3)  $2(3\vec{a} - 2\vec{b}) - 2(\vec{b} - 4\vec{c})$

5.  $\vec{a} = (2, 3)$ ,  $\vec{b} = (-1, 4)$ ,  $\vec{c} = (5, 2)$  のとき、 $\vec{c} = m\vec{a} + n\vec{b}$  となる実数  $m$ ,  $n$  を求めよ。

6. 2点  $A(-2, -2)$ ,  $B(2, 1)$  について次の問に答えよ。

(1)  $\vec{A}\vec{B}$  の成分表示を求めよ。

(2)  $\vec{A}\vec{B}$  の大きさを求めよ。

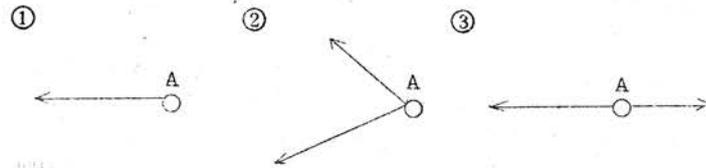
(3)  $\vec{A}\vec{B} = 3\vec{A}\vec{C}$  となる点  $C$  の座標を求めよ。

6. 学習計画

時間	学習課題	活	動	評価	備考
		生徒	教師		
1	プリテスト	教科書を参考しながら個で取り組む  課題・教科書で確認する。	机間巡視  単元の課題を提示し学習計画を説明する。	S P分析	
2	①-1, 2		プリテストを返す プリ1を指名を交えながら解答し、定義の説明をする。		定義の理解
	①-3, 4	個で取り組み、班で確認する。	机間巡視	机間巡視	
	①-5	班で確認し板書	図のかき方の確認	板書	和の図示

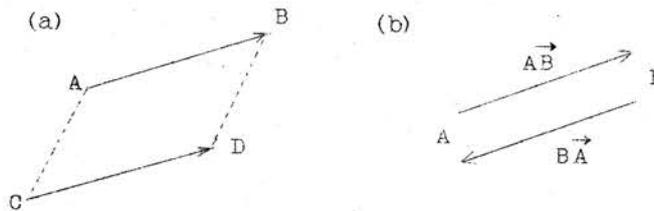
3	①-6 ②-1 ①-7 ②③-1	個で取り組み提出	差・実数倍の説明  机間巡視	提出	差・実数倍の図示
4	④-1, 2  ④-4~6	個で取り組み班で確認	前時の復習 質問を交えながら成分表示の意味を説明する。  机間巡視(個別指導)	机間巡視	成分表示を理解し、使える。
5	④-6~8	個で取り組む ↓ 班で確認 ↓ 板書	前時の復習  成分表示の再確認を、板書をもとにさせる。	板書	
6	⑤-1, 2  ⑥-1, 2  章末問題	個で取り組み班で確認	質問を交えながら例題で説明  問題を班毎にあてる。	机間巡視	基本ベクトル  ベクトルの大きさ
7	章末問題	個で取り組み、班で確認し、板書	必要に応じてヒントを与える。	板書	まとめ
8	ポストテスト	個で取り組む		S P 分析	
9	補充				

7. プリテスト 1. (1) 下図のように物体Aに力が作用している。この物体をつりあわせるにはどのような力を加えればよいか。矢印で示しなさい。



(2) ( ) をうめなさい。

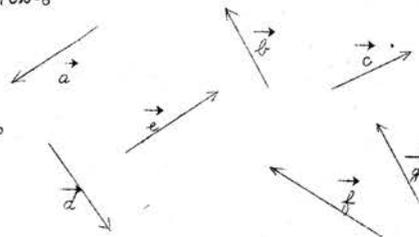
- ・ (1) のように ( ) と ( ) をもつ量。トルといい、位置は無視する。2つのベクトル  $\vec{AB}$ ,  $\vec{CD}$  が等しいとは、(a) 図のように ( ) と ( ) が両方同じ場合である。
- ・ ベクトル  $\vec{AB}$  に対し、ベクトル  $\vec{BA}$  を  $\vec{AB}$  の ( ) という。また、長さ0のベクトルを考え、これを ( ) とよび、 $\vec{0}$  という記号で表わす。



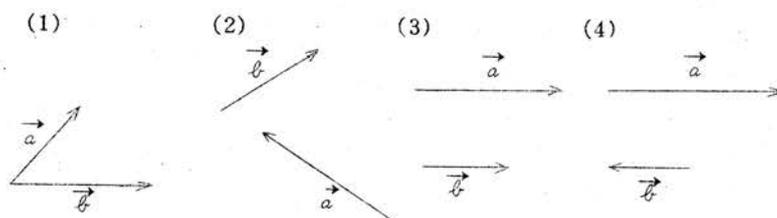
2. 右の図のベクトルについて。

(1) 等しいベクトルはどれとどれか。

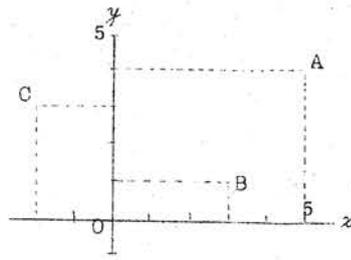
(2) 逆ベクトルはどれとどれか。



3. 次のベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  の和  $\vec{a} + \vec{b}$  を図示せよ。

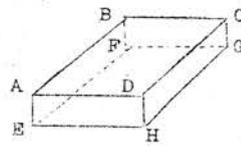


4. 下図について、 $\vec{OA}$ ,  $\vec{AB}$ ,  $\vec{BC}$ を成分表示せよ。また $\vec{AB} + \vec{BC}$ を図示し、成分表示せよ。

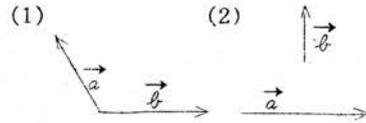


5.  $\vec{a} = (-2, 3)$ ,  $\vec{b} = (1, -2)$  のとき、次のベクトルの成分表示を求め、また、基本ベクトルを用いて表わせ。  
 (1)  $\vec{a} + \vec{b}$  (2)  $\vec{a} - \vec{b}$  (3)  $\vec{a} - 2\vec{b}$  (4)  $2\vec{a} - 3(\vec{a} - 2\vec{b})$
6.  $\vec{a} = (3, -4)$ ,  $\vec{b} = (2, 0)$  のとき、次のベクトルの大きさを求めよ。  
 (1)  $\vec{a}$  (2)  $\vec{b}$  (3)  $\vec{a} + \vec{b}$

8. ポストテスト 1. 右図の直方体について、 $\vec{AB}$ ,  $\vec{AD}$ ,  $\vec{AG}$ と等しいベクトルをいえ。



2. プリテスト3と同じ。  
 3. 次のベクトル $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ について  $\vec{a} - \vec{b}$ を図示せよ。



4.  $\vec{a} = (2, -3)$ ,  $\vec{b} = (-1, 2)$  のとき、次のベクトルの成分表示を求め、また、基本ベクトルを用いて表わせ。さらに、図示せよ。  
 (1)  $\vec{a} + \vec{b}$  (2)  $\vec{a} - \vec{b}$  (3)  $\vec{a} - 2\vec{b}$  (4)  $2\vec{a} - 3(\vec{a} - 2\vec{b})$
5.  $\vec{a} = (3, -4)$ ,  $\vec{b} = (2, 0)$  のとき、 $|\vec{a} + \vec{b}| < |\vec{a}| + |\vec{b}|$
6.  $\vec{a} = (5, 3)$ ,  $\vec{b} = (-2, 4)$  のとき、次の等式が成り立つようなベクトル $\vec{x}$ を求めよ。  
 (1)  $2\vec{a} + \vec{x} = 3\vec{b}$  (2)  $\vec{a} - (\vec{x} - 2\vec{b}) = \vec{x} - 3\vec{a} + 4\vec{b}$
7. 2点A(3, -2), B(-1, 4)について、 $\vec{AB} = 3\vec{AC}$ となる点Cの座標を求めよ。

## 理科（化学）学習指導案

指導者 出川 克彦

1. クラス 3年1組 男子9名 女子16名 計25名

2. 単元 化学反応（化学反応と物質の量，化学反応と熱量）

化学反応にかかわっては1年次の理科Iで「化学反応式の意味」，「化学変化の量的関係」という内容で基礎的学習を行っている。

この単元では，化学変化を実感としてつかむとともに化学変化が化学反応で表されることとおさえ，化学反応式を自由に扱えるようになる。そして，新たに化学反応に伴うエネルギー（熱）について学習をする。

3. 目標 認知目標

(1) 化学反応式について学習をし，化学反応における各物質間の量的関係が化学反応式を用いて引き出せるようになる。

(2) 化学反応に伴う熱の出入りを示した熱化学方程式について学習をし，ヘスの法則（総熱量不変の法則）に基づき反応熱を引き出せるようになる。

態度目標

(1) 自分の意見をしっかりと持って協同学習をすすめる。

(2) 発表の際は，正誤にこだわらずはっきりと発表する。

(3) 実験中は事故をおこさないよう十分に注意をする。

4. 下位目標

(1) ① 化学変化とは何か（物理変化との違い）を説明できる。

② 化学反応式を作る時の約束（○反応物質を左辺に，生成物質を右辺に書く。○左辺と右辺の各原子の数が等しくなるように係数をつける。）に基づき化学反応式をつくることができる。

③ 化学反応式が表わしている事項を説明できる。

○反応物質と生成物質 ○各物質間の粒子数の関係 ○各物質間のmol数の関係 ○各物質間の質量数の関係 ○各物質間の体積関係（物質が気体のとき）

④ 化学反応式を用いて各物質間の量的関係を引き出せる。

(2) ⑤ 化学反応には熱の出入りを伴うものがあることを説明できる。

⑥ 熱化学方程式が表わしている事項を説明できる。

○発熱反応，吸熱反応 ○燃焼熱，生成熱，中和熱

⑦ ヘスの法則（総熱量不変の法則）を説明できる。

⑧ ヘスの法則に基づき未知の物質の反応熱を引き出せる。

5. 学習課題 ①-1 ○ 次の現象のうちで化学変化に相当するものはどれか。

- (ブリテスト) (1) 砂糖を水に溶かしたら全部とけた。(2) 紙を燃やしたら灰が残った。(3) 水を熱したら水蒸気になった。(4) トタン屋根がさびた。(5) オキシフルを傷口につけると泡がでた。

②-1 ○ 水素  $H_2$  と酸素  $O_2$  が反応して水  $H_2O$  ができるときの化学反応

(ブリテスト) 式のうち正しいものはどれか。

- (1)  $H_2 + O_2 \rightarrow H_2O$ , (2)  $2H_2 + O_2 \rightarrow 2H_2O$   
 (3)  $H_2 + O \rightarrow H_2O$

○ 次の化学反応式の係数を記入しなさい。

- (1) ( )  $C + ( ) O_2 \rightarrow ( ) CO$   
 (2) ( )  $Al + ( ) HCl \rightarrow ( ) AlCl_3 + ( ) H_2$

②-2 ○ 次の化学反応式を完成しなさい。

- (1) 鉄  $Fe$  がさびて酸化第二鉄  $Fe_2O_3$  ができた。  
 (2) プロパン  $C_3H_8$  が酸素と反応して二酸化炭素と水ができた。  
 (3) ( )  $H_2SO_4 + ( ) NaOH \rightarrow ( ) Na_2SO_4 + ( ) H_2O$   
 (4) ( )  $C_2H_4 + ( ) O_2 \rightarrow ( ) CO_2 + ( ) H_2O$   
 (5) ( )  $Na + ( ) H_2O \rightarrow ( ) NaOH + ( ) H_2$

③-1 ○ 酸素  $O_2$  が  $1\text{ mol}$  ある。次の間に答えなさい。

- (ブリテスト) (1) 酸素分子は何個含まれていますか。  
 (2) 質量は何  $g$  ですか。  
 (3)  $0^\circ C$ ,  $1\text{ atm}$  のもとでは体積は何  $\ell$  になりますか。

③-2 ○ 化学反応式  $2C + O_2 \rightarrow 2CO$  について次の間に答えなさい。

- (ブリテスト) (1) 反応物質は何と何か。(2) 生成物質は何か。  
 (3) 次の表を完成しなさい。ただし、体積は  $0^\circ C$ ,  $1\text{ atm}$  の場合の数値とする。

	C	$O_2$	CO		C	$O_2$	CO
mol数		$2\text{ mol}$		質量		$72\text{ g}$	
粒子数		$10\text{ 個}$		体積		$5\ell$	

③-3 ○  $2CO + O_2 \rightarrow 2CO_2$  について次の間に答えなさい。

- (1) 各物質の mol 数の比はいくらか。  
 (2) 同温同圧での各物質の体積比はいくらか。  
 (3) 各物質の質量比はいくらか。

(4) 以上のことから  $\text{CO}$  2.8 g は  $0^\circ\text{C}$ ,  $1 \text{ atm}$  の  $\text{O}_2$  ( ) l と反応して  $\text{CO}_2$  ( ) g を生じることがわかる。

④-1。炭酸カルシウム 10.0 g に、塩酸を十分に加えたとき発生する二酸化炭素 (教科書) の体積は、 $0^\circ\text{C}$ ;  $1 \text{ atm}$  で何 l か。

④-2。水素と酸素をそれぞれ 10 l ずつとり、混合して点火すると全体の (教科書) 体積は何 l になるか。ただし、同温同圧で考え水も気体で考える。

④-3。水素 10.0 g と塩素 142 g とを混合して完全に反応させた。

(1) 生じた塩化水素は  $0^\circ\text{C}$ ,  $1 \text{ atm}$  で何 l か。

(2) 反応せず残った気体は何か。また、その体積は  $0^\circ\text{C}$ ,  $1 \text{ atm}$  で何 l か。

⑤-1。次の3つの反応の共通点と異なる点を答えなさい。

(ブリテスト) ④ 鉄 Fe がさびた (酸化した。) ⑤ プロパン  $\text{C}_3\text{H}_8$  が燃焼した。 ⑥ 水素  $\text{H}_2$  を入れた風船が爆発した。

⑥-1。化学反応式に伴う熱の出入りについて次の間に答えなさい。

(ブリテスト) (1) メタン  $\text{CH}_4$  1 mol を燃焼 (酸素  $\text{O}_2$  と反応) させたところ、1 mol の二酸化炭素  $\text{CO}_2$  と 2 mol の水  $\text{H}_2\text{O}$  を生じ 213 Kcal の熱を発生した。この反応を熱化学方程式で示しなさい。

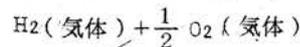
(2)  $\text{N}_2 + \text{O}_2 = 2\text{NO} - 43.2 \text{ Kcal}$  から NO の生成熱を求めなさい。

⑥-2。プロパン  $\text{C}_3\text{H}_8$  (気体) 1 kg を完全に燃焼させると  $1.2 \times 10^4 \text{ Kcal}$  (教科書) の熱を発生する。この時の反応を熱化学方程式で表しなさい。

⑦-1。次に示した2つの反応熱をもとにして以下の間に答えなさい。

① 水素と酸素とから液体の水ができる時の生成熱は 68.3 Kcal である。

② 水素と酸素とから気体の水ができる時の生成熱は 57.8 Kcal である。

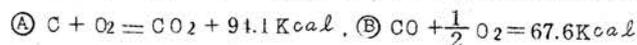


① ↓ (1) ①, ② の発熱量はそれぞれ何 Kcal か。

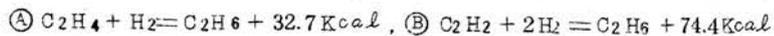
$\text{H}_2\text{O} (\text{液体})$  ② ↓ (2) ③ の熱量は何 Kcal か、発熱か吸熱かも合わせて答えなさい。

$\text{H}_2\text{O} (\text{気体})$  ③ ↓ (3) ヘスの方則について説明しなさい。

⑧-1。次の2つの式から C が燃焼して  $\text{CO}$  ができる時の反応熱を求めよ。



⑧-2。次の2つの式からアセチレン  $\text{C}_2\text{H}_2$  と水素  $\text{H}_2$  からエチレン  $\text{C}_2\text{H}_4$  を生成するときの反応熱を求めよ。



⑧-3。メタノール  $\text{CH}_4\text{O}$ , 炭素および水素の燃焼熱は、それぞれ 1 mol あた (教科書) り 174 Kcal, 94 Kcal, 68 Kcal である。メタノールの生成熱を求めなさい。

6. 学習計画

時間	課題	活 動		評価方法	備 考
		生 徒	教 師		
1	プリテスト	演示実験 プリテスト(個人作業)により単元の学習内容を理解する。	学習内容説明(演示実験を含む。) プリテスト中机間巡視	机間巡視 プリント (SP分析)	導入
2	①-1 ②-1 ②-2	化学反応式の作り方に基 づき、課題に個人でとり くみ、班で学習し、発表 する。	化学変化=化学反応の 確認 化学反応式の約束確認 机間巡視、まとめ	指名 机間巡視	化学反応 式の作り 方
3	③-1 ③-2 ③-3	③-1, ③-2の学習の 後、③-3に個人でとり くみ、班で学習し、発表。	③-1, ③-2(既習 事項)を確認する。 机間巡視、まとめ	指名 机間巡視	化学反応 式の示す 事項
4	④-1 ④-2 ④-3	課題に個人でとりくんだ 後、班で学習し、発表す る。	前時のまとめを確認す る。 机間巡視、まとめ	机間巡視 指名 ノート	化学反応 式の活用
5	実 験 ⑤-1 ⑥-1 ⑥-2	班で実験(発熱現象)し、 発表する。 個人でとりくんだ後、班 で学習し発表する。	実験の説明(事故に対 する注意を含む) 机間巡視 まとめ	机間巡視 指名	熱化学方 程式
6 . 7	⑦-1 ⑧-1 ⑧-2 ⑧-3	課題に個人でとりくんだ 後、班で学習し、発表す る。	⑦-1を用いてヘスの 法則の説明 机間巡視 まとめ	机間巡視 指名	ヘスの法 則とその 応用
	ポスト テスト	ポストテスト終了後、自 己採点	机間巡視 ポストテストの解答	机間巡視 SP分析	

## 英語科指導案

指導者 松本光彦

1. 学年 3年2組 男子7名 女子 17名 計24名
2. 単元 Lesson 17 "The women's Rights Movement in the U. S. (アメリカ合衆国における女性の権利獲得運動)"

### 3. 目標

- 認知目標
- 1) 本文を正しく日本語に訳すことができる。
  - 2) アメリカにおける女性解放運動の歴史と、その思想を理解する。
  - 3) 日本の婦人問題に関心を持ち、自分の考えをまとめ、それを簡単な英語で表現できる。

- 態度目標
- 1) わからない単語は辞書を用いて自分で調べる習慣をつける。
  - 2) アメリカの文化・歴史に関心を持つ。

### 4. 下位目標

1. 本文を日本語に訳す。
  - ① 知らない単語の意味をつかむ。
  - ② 慣用句に気づき、意味をつかむ。
  - ③ 下記の文法事項を確認する。

Ⓐ 受動態	Ⓔ 関係代名詞 "which"
Ⓑ 現在完了	Ⓕ 接続詞 "that"
Ⓒ 過去完了	Ⓖ 接続詞 "whether"
Ⓓ to不定詞	Ⓗ 仮定法過去
  - ④ 日本語に訳す。
2. アメリカの女性解放運動の歴史を整理し、その考えをつかむ。
  - ① 歴史を整理する。
  - ② 運動の主張をまとめる。
3. 日本の女性の現状と比較し、今後どのようにすべきかを考える。
4. 婦人問題についての自分の考えをやさしい英語で表現する。
  - ① 自分の考えを英訳しやすい平易な表現になおす。
  - ② それぞれの言葉を適切な英語に置き換える。
  - ③ 英語的な語順に従って言葉を並べ換える。
5. 正確に音読できる。
  - ① それぞれの単語を、アクセントに留意して、正しく発音できる。
  - ② 意味のまとまりごとに句切り (phrasing) ができる。
6. 辞書の引き方を確認する。

### 5. 学習課題

1) 1-①-1~1-①-4 (単語)

○ 次の単語の意味を辞書で調べ、それぞれ5回ずつ書いて覚えなさい。

1-①-1; ① movement ② right(s) ③ protest(s) ④ demand(ed)  
⑤ fight.(fought)

1-①-2; ① win(won) ② profession(s) ③ career ④ bar(red)  
⑤ nursing

1-①-3; ① focus(ed) ② equal ③ purpose ④ free ⑤ combination

1-①-4; ① benefit ② develop ③ statement ④ similar  
⑤ spread

2) 1-④-1~1-④-5 (日本語訳)

○ ( )内に適当な言葉を補い、日本語訳を完成させなさい。

1-④-1; The women's rights movement in the United States  
アメリカ合衆国における女性の権利(獲得)運動は(  
started almost one hundred and fifty years ago. The  
( )(  
first public protests against the low status of women  
)は  
were made in the 1830's. In 1848 the leaders of this movement  
( )年代にされた。( )年に( )達は  
demanded equality at the first Women's Rights Convention.  
第1回の女性の権利獲得大会で( )。  
They fought hard for women's suffrage  
彼らは( )。

1-④-2; And in 1920 women won the right to vote throughout the  
そして( )年に女性達は( )投票権を( )  
United States. By that time many women were entering  
( )。( )たくさんの女性達が( )  
professions which had been barred to them before. In spite  
( )に就いていた。( )  
of all this progress, "career women" were mostly restricted  
( )にもかかわらず( )はたいてい( )  
to teaching, nursing, and office work.  
( )に限られていた。

1-④-3; The women's Liberation movement, which developed during  
( )-それは( )  
the 1960's, has focused on economic rights such as  
( )-は( )のような( )

"equal pay for equal work." The main purpose of Women's Liberation is to free women from the restricted role which society has placed on them. It seeks to enable them to choose between a career and the home — or to choose a combination of the two.

1-④-4; It claims that society as a whole would benefit if every person were given the chance to develop his or her abilities and use them to the fullest. Women's Liberation believes that the statement in the United States Declaration of Independence, "all men are created equal" really means "all human beings are created equal."

1-④-5; The Women's Liberation Movement is there to stay in the United States. The question is whether similar movements will spread throughout the world.

3) (内容把握)

2-①; ○本文を読み、次の年表を完成させなさい。

1830年代	
1848年	
	(セネカ・フォールズ大会)
1863年	奴隷解放宣言
1870年	憲法修正第15条

人種の違いによる選挙権の制限の廃止	
1920年	
1960年代	
1963年	男女同一賃金法
1964年	公民権法
	「性差別」の禁止
1972年	教育法改正
	教育の場での性差別の禁止

2-②-1; ◦女性解放運動( The women's Liberation movement )はどのようなことを主張していますか。日本語でまとめてみなさい。

2-②-2; ◦次の英文を読み、本文の内容と違うところに線を引き、正しくおしなさい。

- ① The women's rights movement in the U.S. dates back to the 1770's.
- ② The leaders of the women's rights movement demanded money.
- ③ American women won the right to work in 1920.
- ④ The Women's Liberation movement demanded women's suffrage.
- ⑤ The main purpose of Women's Libetation is to free women from much work which society has placed on them.
- ⑥ Women don't want to choose between a career and the home - or a combination of the two.

4) Practice (教科書 P105)

1-①-5; ◦本文より(I)の単語の意味を探し( )に記入し、(II)と結びつけなさい。

(I)

(II)

- |                   |   |
|-------------------|---|
| a) suffrage ( )   | 1) a job that needs special training.     |
| b) protest ( )    | 2) a person's position in society         |
| c) status ( )     | 3) a profession followed as a life's work |
| d) profession ( ) | 4) the right to vote                      |
| e) career ( )     | 5) speech or action against an ideal.     |

1-②-1; ◦本文より  内 a) ~ e) の言葉の意味を探し( )に記入し、①~⑤の文章の意味が通じるよう a) ~ e) より適当な語句を選び、 に入れなさい。

- |                   |                    |                      |
|-------------------|--------------------|----------------------|
| a) focused on ( ) | b) free ( )        | c) given a chance    |
| ( )               | d) in spite of ( ) | e) restricted to ( ) |

1.  her illness, she went to school.
2. Our activities are not  study.
3. I want to  myself from all my troubles.
4. The talk was  air pollution in the city.
5. Every student should be  to study a foreign language.

5) 婦人問題について自分の考えをまとめる。

3. 別紙資料はブリテスト⑧の①より③までの問いについて、皆から出された意見をまとめたものです。これを参考に、①より③までについてもう1度班で話し合い、出された意見をすべて書き出さない。

6) 英作文

4. ブリテスト⑧の①より③について班としての意見をひとつにまとめ、それを英語に訳さない。

7) Supplement (教科書 P104 Prefixes)

7. 単語を調べ、接頭辞の意味を考えなさい。

un- uneasy — easy unhappy — happy unwrap — wrap

dis- dislike — like disobey — obey disability — ability

im- impossible — possible

re- retell — tell

## 6. 学習計画

時 間	学 習 課 題	学 習 指 導		評 価	備 考
		生 徒	教 師		
1	ブリテスト 目標・学習計画の 提示	個人で取り組む。 説明を聞く。	ブリテストを用い て説明	ブリ  ブリ提出	
2	1-①-1 1-④-1 (教科書 P102 l1~l6)	説明を聞く  個人→班→発表	アメリカの女性解 放運動についての説 明 課題提示  机間巡視		本文訳

3	単語テスト 1-①-2 1-④-2 (教科書 P. 102 l. 7~l. 13)	個人で取り組む  説明を聞く  個人→班→発表	まとめ 机間巡視  課題提示 文法事項の確認  机間巡視 まとめ	板書  板書→提出  板書	本文訳
	4	単語テスト 1-①-3, 1-④-3 (教科書 P. 102 l. 14~P. 103 l. 5)	"	"	本文訳
5	単語テスト 1-①-4, 1-④-4 (教科書 P. 103 l. 6~l. 11)	"	"	"	本文訳
6	単語テスト 1-④-5 (教科書 P. 103 l. 12~l. 14)	"	"	"	本文訳
7	2-① 2-②-1 2-②-2  7	個人→班→発表   指名・発表	課題提示 机間巡視 確認  課題提示  まとめ	板書  口頭	内容把握
	8	1-①-5 1-②-1	班→発表	課題提示 机間巡視 確認	板書 Prac- tice

9	3	班で取り組む 英訳を各班ごとに 発表	課題提示 生徒の意見をまと めた資料を用いて説 明	プリント 提出	
	4				
10	ポストテスト	個人で取り組む	机間巡視	提出	

7. プリテスト

① 1) 次の単語の意味を書きなさい。

① movement ② right ③ protest

2) —線部に注意して、次の文を日本語に訳しなさい。

They fought hard for women's suffrage. (訳)

② 1) 次の単語の意味を書きなさい。

① win ② bar ③ career

2) —線部に注意して、次の文を日本語に訳しなさい。

① I love the stars which shine in the sky. (文法 "関係代名詞— which ")

② In 1920 women won the right to vote through the United States. (訳)

③ 1) 次の単語の意味を書きなさい。

① focus ② equal ③ free

2) —線部に注意して、次の文を日本語に訳しなさい。

① My motorcycle, which is not expensive, runs fast. (文法 "関係代名詞— which ")

② Tom's dream is to become a movie star. (文法 "to 不定詞 ")

③ It seeks to enable them to choose between a career and the home. (訳)

④ 1) 次の単語の意味を書きなさい。

① develop ② benefit ③ spread

2) —線部に注意して、次の文を日本語に訳しなさい。

① I would buy a sports car if I were rich. (文法 "仮定法")

過去" )

- ② The statement, "all men are created equal" really means "all human beings are created equal." (訳)

⑤ — 線部に注意して、次の文を日本語に訳しなさい。

① The question is whether he is kind. (文法 "接続詞 - whether")

② The question is whether similar movements will spread through the world. (訳)

⑥ 1) 次の単語の意味を書きなさい。

① easy — uneasy. ② tell — retell

2) 教科書 P 102 ~ P 103 を読み、空所に適当な語句を補いなさい。

① The leaders of the women's rights movement demanded \_\_\_\_\_.

② American women won \_\_\_\_\_ in 1920.

⑦ 次の単語、慣用句の意味を書きなさい。

① suffrage ② status ③ focus on ④ in spite of

⑤ restricted to

⑧ ①~③の問いについて、自分の考えを述べなさい。

① 今日の日本では男女平等が実現されていると思いますか。

② 女性は結婚後は家庭に入るべきだと思いますか。

③ 「男性も家事・育児という仕事を分担すべきである」という考え方についてあなたは  
どう思いますか。

8. ポストテスト

① 次の単語、慣用句の意味を書きなさい。

① movement ② right ③ win ④ equal

⑤ develop ⑥ career ⑦ bar ⑧ focus on

⑨ in spite of ⑩ be given a chance to

② — 線部に注意して、日本語に訳しなさい。

① I love the stars which shine in the sky.

② My car, which is not expensive, runs fast.

③ My dream is to become a doctor.

④ I would buy a sports car if I were rich.

⑤ The question is whether she is kind.

③ 日本語に訳しなさい。

① The women's rights movement in the United States started almost one hundred and fifty years ago.

② In 1920 women won the right to vote throughout the

United States.

- ③ The main purpose of Women's Liberation is to free women from the restricted role which society has placed on them.
  - ④ The statement in the United States Declaration of Independence, "all men are created equal" really means "all human beings are created equal."
  - ⑤ The question is whether similar movements will spread throughout the world.
- ④ 次の文を参考に、女性解放運動 (Women's Liberation) の考えを簡単にまとめなさい。

The main purpose of Women's Liberation is to free women from the restricted role which society has placed on them. It seeks to enable them to choose between a career and the home — or to choose a combination of the two. It claims that society as a whole would benefit if every person were given the chance to develop his or her abilities and use them to the fullest.

- ⑤ 次の問いに答えなさい。
- ① アメリカの女性に参政権 (選挙権) が認められたのは何年頃ですか。
  - ② 婦人問題に関心がありますか。 (はい いいえ)
  - ③ Lesson 17 を学習しながら、辞書をよく引きましたか。 (はい いいえ)
  - ④ アメリカの文化・歴史に関する本を読みたいですか。 (はい いいえ)